



サーバー診断レポートオプション Ver.5.0
ユーザーズ マニュアル

免責事項

本書に記載された情報は、予告無しに変更される場合があります。セイ・テクノロジーズ株式会社は、本書に関していかなる種類の保証(商用性および特定の目的への適合性の黙示の保証を含みますが、これに限定されません)もいたしません。

セイ・テクノロジーズ株式会社は、本書に含まれた誤謬に関する責任や、本書の提供、履行および使用に関して偶発的または間接的に起こる損害に対して、責任を負わないものとします。

著作権

本書のいかなる部分も、セイ・テクノロジーズ株式会社からの文書による事前の許可なしには、形態または手段を問わず決して複製・配布してはなりません。

Copyright © 2009-2010 SAY Technologies, Inc. All rights reserved.

本ユーザーズマニュアルに記載されている Microsoft, Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。その他会社名、製品名およびサービス名は各社の商標または登録商標です。

目次

本ユーザーズマニュアルについて	1
製品表記	1
使用方法	1
表記規則	1
環境説明	2
第 1 章 システム構成	3
第 2 章 インストール	4
2.1 動作環境	4
2.2 事前の準備	5
2.2.1 アーカイブサーバー	5
2.2.2 アーカイブサービス	9
2.2.3 監視項目の作成	17
2.3 インストール手順	21
2.3.1 Microsoft .NET Framework 2.0 のインストール	21
2.3.2 Microsoft Excel のインストール	22
2.3.3 レポート作成ウィザードのインストール	23
2.4 アンインストール手順	28
2.4.1 レポート作成ウィザードのアンインストール	28
2.4.2 関連ソフトウェアのアンインストール	31
第 3 章 レポート作成ウィザード	32
3.1 概要	32
3.2 レポート作成ウィザードの起動	32
3.3 レポート作成ウィザードの実行	33
3.3.1 ウェルカム	33
3.3.2 ライセンス認証	33
3.3.3 アーカイブサーバーへの接続	34
3.3.4 レポート出力期間の指定	35
3.3.5 レポート作成インスタンスの指定	36
3.3.6 レポート出力シートの指定	38
3.3.7 出力設定の確認	39
3.3.8 レポート出力中	40
3.3.9 レポート完了	41
第 4 章 出力レポート	42
4.1 概要	42
4.1.1 インスタンスレポート	42
4.1.2 全体レポート	45
4.1.3 評価版の出力レポート	47

4.2 サマリー情報.....	49
4.3 詳細グラフ情報.....	51
4.4 システム基本情報.....	54
4.5 ハードウェア情報.....	56
4.6 ソフトウェア情報.....	57
4.7 イベントログ・サマリー.....	59
4.8 セキュリティログ詳細.....	61
4.9 インスタンス概要.....	63
第5章 設定.....	65
5.1 詳細設定.....	65
5.1.1 動作設定.....	65
5.1.2 配色設定.....	67
5.2 宛先情報の編集.....	81
第6章 エラーメッセージ一覧.....	83
第7章 FAQ.....	84
第8章 付録.....	87
8.1 サマリー情報の診断結果.....	87
8.2 コマンドライン実行用文字列の引数.....	93

本ユーザーズマニュアルについて

製品表記

本ユーザーズマニュアルでは、以下の製品について略称を使用しております。

正式名称	本マニュアルでの呼称(略称)
サーバー診断レポートオプション Ver.5.0	レポートオプション
BOM for Windows Ver.5.0	BOM 5.0
BOM 監視オプション for Linux Ver.5.0	Linux オプション
BOM5.0 レポート作成ウィザード	レポート作成ウィザード

使用方法

本ユーザーズマニュアルには、レポートオプションを使用する際に必要となる詳細な情報と手順が記載されています。

本ユーザーズマニュアルを使用するには、Microsoft Windows オペレーティングシステムについての実際的な知識と、BOM for Windows Ver.5.0 の基本的な知識が必要です。

表記規則

本ユーザーズマニュアルでは、以下の表記規則を使用しています。

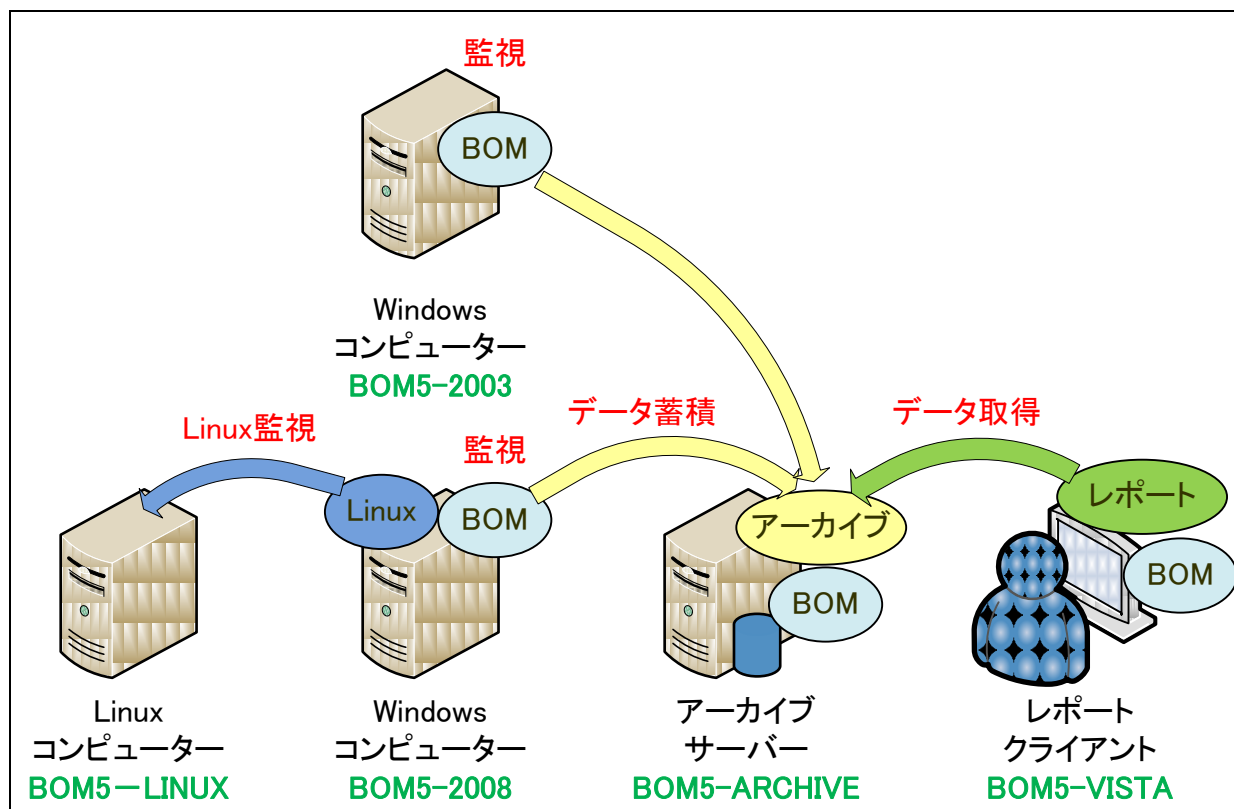
表記	説明
‘参照先’	シングルクォート内(‘と’)は本マニュアル内、あるいは別のマニュアルの参照を示します。
“ラベル”	ダブルクォート内(“と”)はラベル名を示します。
「タブ」	鉤括弧内(「と」)はプロパティシート等でのタブ名を示します。
[ボタン]	角括弧内([と])はボタン名を示します。
<キー>	山括弧(不等号記号)内(<と>)はキーボード入力を示します。
(補足説明)	丸括弧内(「(」と「)」)は補足説明を示します。

環境説明

本ユーザーズマニュアルでは、サーバー側の操作には Windows Server 2008、クライアント側の操作には Windows Vista の画面を主に使用しております。

お使いの OS によっては、操作方法が若干異なる場合がございますが、適宜読み替えてお使いください。

画面の取得環境は、以下の構成で作成しております。



- 各コンピューターには BOM 監視サービスを導入し、レポート出力用の監視設定を構成します。
- 各コンピューターからアーカイブサーバー“BOM5-ARCHIVE”へデータを蓄積するように構成します。
- レポートクライアント“BOM5-VISTA”にレポート作成ウィザードを導入し、レポートを出力します。

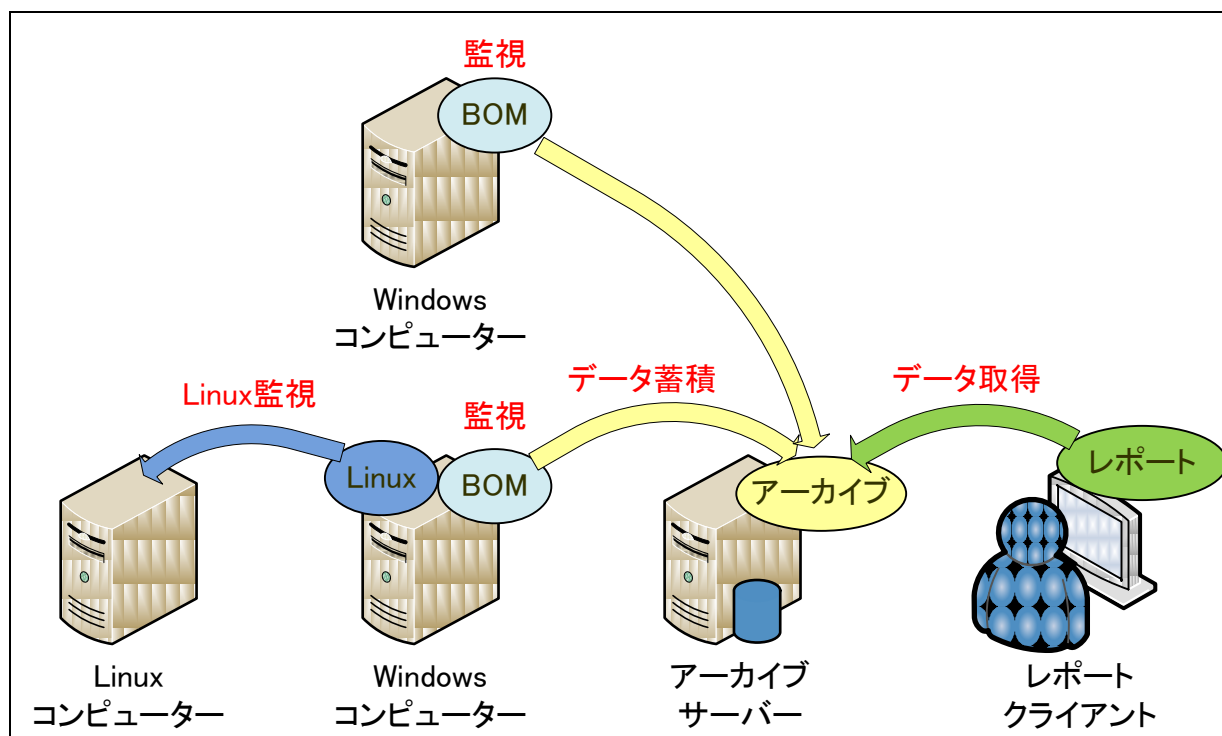
コンピューター名	OS	導入コンポーネント
BOM5-2003	Microsoft Windows Server 2003	BOM 監視サービス、アーカイブサービス
BOM5-2008	Microsoft Windows Server 2008	BOM 監視サービス、アーカイブサービス、Linux オプション
BOM5-ARCHIVE	Microsoft Windows Server 2008	BOM 監視サービス、アーカイブサービス、アーカイブサーバー
BOM5-LINUX	Red Hat Enterprise Linux 5.0	Linux オプションモニタレット
BOM5-VISTA	Microsoft Windows Vista	BOM 監視サービス、アーカイブサービス、レポート作成ウィザード

第1章 システム構成

レポートオプションは、BOM 5.0 で監視している Windows コンピューター、および Linux オプションで監視している Linux コンピューターの監視レポートを出力するためのオプションです。

コンピューターの稼働状況を定期的に把握したい場合にご利用いただけます。

レポートオプションは、レポート用のデータを蓄積するコンピューター（アーカイブサーバー）と、そのサーバー上のデータを基にレポートを出力するコンピューター（レポートクライアント）で構成されます。



- アーカイブサーバーを構築し、各コンピューターの監視データを集約します。（別途 Microsoft SQL Server のライセンスが必要です）
- BOM 5.0 SR2 以降（最新版を推奨）を導入した Windows コンピューターにアーカイブサービスをインストールし、アーカイブサーバーに監視データを蓄積するように構成します。
- Linux コンピューターの監視は Windows コンピューターに BOM 5.0 と Linux オプションをインストールして設定します。
- レポートクライアントに、BOM 5.0 レポート作成 ウィザードをインストールします。レポート出力フォーマットを Excel 形式にする場合には、追加で Microsoft Excel 2003/2007 をインストールします。（別途 Microsoft Excel のライセンスが必要です）
- レポートクライアントからアーカイブサーバーに接続し、蓄積されたデータを基にレポートを作成します。

※ アーカイブサーバーおよびアーカイブサービスは BOM 5.0 の標準機能です。導入に際し、追加ライセンス等は必要ありません。詳細については、'BOM for Windows Ver.5.0 ユーザーズ マニュアル'をご参照ください。

※ Linux オプションは有償オプションのため、別途ライセンスが必要です。詳細については、'BOM 監視オプション for Linux ユーザーズ マニュアル'をご参照ください。

第2章 インストール

2.1 動作環境

A. レポートクライアントの動作環境

レポートクライアントは Windows ベースのコンピューターで動作いたします。また Microsoft .NET Framework を導入する必要があります。

レポートクライアントの動作 OS、サービスパック、および Microsoft .NET Framework のバージョンは以下の通りです。

OS バージョン	サービスパック	.NET Framework
Windows 2000 各エディション	SP4	Ver.2.0 以降
Windows XP 各エディション	SP2～SP3	Ver.2.0 以降
Windows Server 2003 各エディション	SP1～SP2	Ver.2.0 以降
Windows Server 2003 R2 各エディション	SP1～SP2	Ver.2.0 以降
Windows Vista 各エディション	SP1～SP2	Ver.3.0 以降(プレインストール)
Windows Server 2008 各エディション	SP1～SP2	Ver.3.0 以降(プレインストール)
Windows 7 各エディション	SP なし	Ver.3.5 以降(プレインストール)
Windows Server 2008 R2 各エディション	SP なし	Ver.3.5 以降(プレインストール)

また、レポート出力形態を Excel 形式で出力する場合には Microsoft Excel 2003 または 2007 が必要になります。

※ BOM5.0 監視コンピューターの動作要件については、‘BOM for Windows Ver.5.0 インストール マニュアル’をご参照ください。

B. レポートクライアントの通信環境

レポート作成の際には、レポートクライアントとアーカイブサーバーの間で、ネットワーク通信が発生いたします。

監視コンピューター毎に監視設定が異なるため、アーカイブサーバーへのデータ蓄積量によって前後しますが、標準的な監視コンピューター(インスタンス)において、1 カ月分のレポートを出力する場合、1 台辺り 5MB 程度の送受信が発生いたします。

監視コンピューターの台数が多い場合には、アーカイブサーバーとレポートクライアントを同一 LAN 上に配置することを推奨します。

C. レポートを表示/印刷するための環境

レポートクライアントで出力したレポートは、以下の環境で表示/印刷できます。

レポート出力形態	ソフトウェア	バージョン
MHTML 形式	Internet Explorer	7.0
		8.0
Excel 形式	Microsoft Excel	2003
		2007
	Microsoft Excel Viewer	2003
		2007

※ レポート出力形態の詳細については‘第 4 章 出力レポート’をご参照ください。

2.2 事前の準備

レポートオプションにて監視コンピューターのレポートを出力するには、事前の準備として以下の作業が必要となります。

- BOM アーカイブサーバーの導入またはアップグレード
- アーカイブサービスの導入またはアップグレード

以下に、それぞれの作業手順をご案内いたします。

2.2.1 アーカイブサーバー

監視コンピューターのデータを蓄積するためには、データ蓄積用データベースであるアーカイブサーバーを導入する必要があります。

アーカイブサーバーの導入、またはアップグレードについて、以下の手順に沿って作業してください。

なお、作業にあたっては管理者権限が必要となりますので、管理者権限を持つアカウントにてログオンの上、作業を行ってください。

※ 以降の手順は必要な作業項目の概要のみを抽出した概略手順となります。

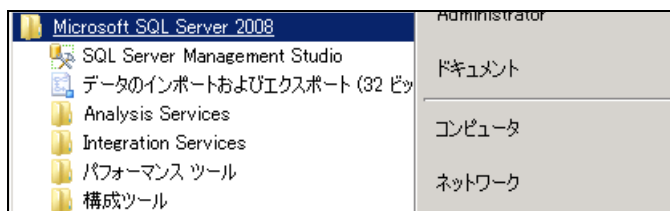
アーカイブサーバーの詳細な導入手順については、‘BOM for Windows Ver.5.0 インストール マニュアル’ および ‘BOM for Windows Ver.5.0 アップグレードマニュアル’ をご参照ください。

A. アーカイブサーバーの新規構築

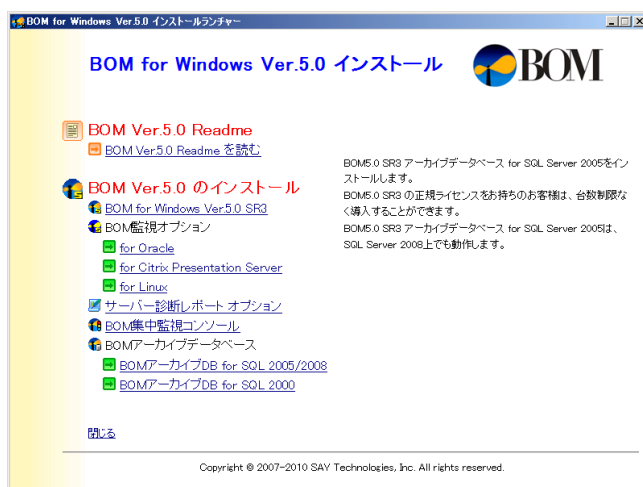
アーカイブサーバーをまだ構築していない場合は、新規にアーカイブサーバーを構築します。

以下に構築手順の概要を示します。

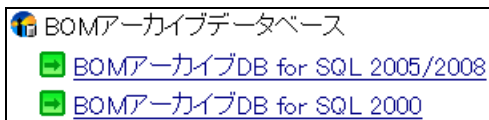
1. コンピューターに Microsoft SQL Server をインストールします



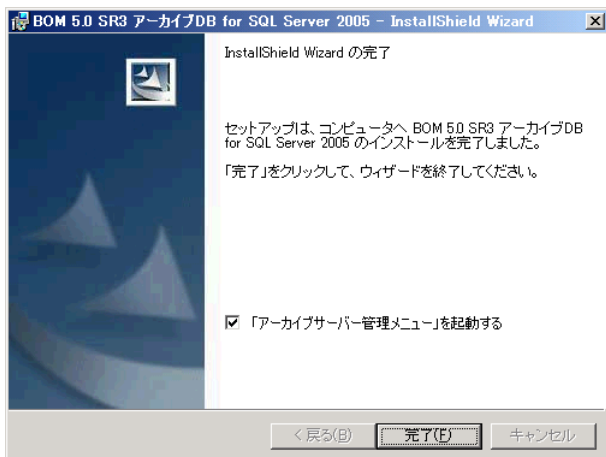
2. BOM5.0 SR3 の CD-ROM をコンピューターに挿入し、インストールランチャーを起動します



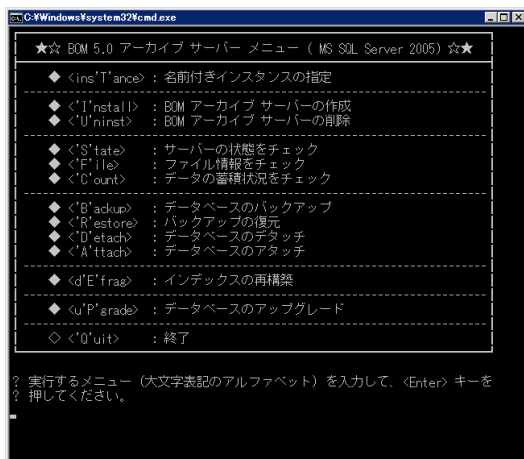
3. インストールした Microsoft SQL Server のバージョンに該当する BOM アーカイブ DB をクリックします



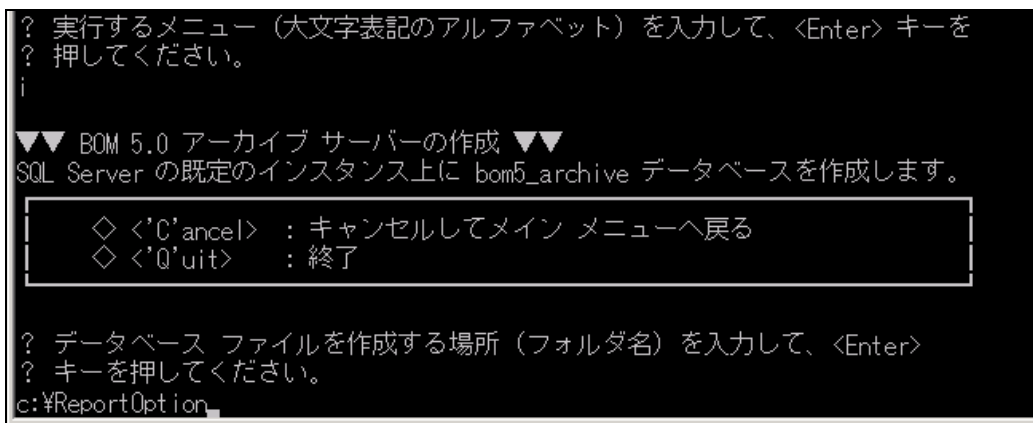
4. セットアップウィザードに従い、BOM アーカイブ DB のインストールを完了させます



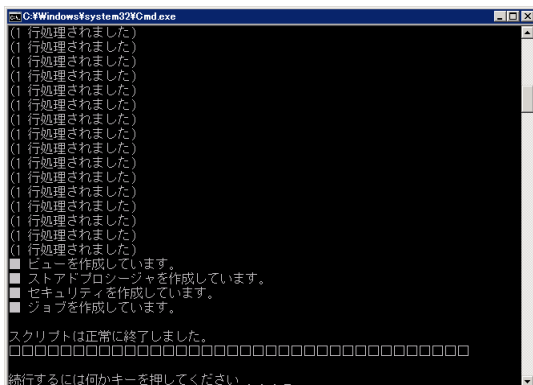
5. セットアップウィザードの[完了]ボタンをクリックすることで、“BOM 5.0 アーカイブサーバー管理メニュー”が起動します



6. アーカイブサーバー管理メニューにて<I>キー、<Enter>キーと続けて押し、アーカイブサーバーの作成を開始します



7. 処理メッセージに従い、アーカイブサーバーの作成を完了させます



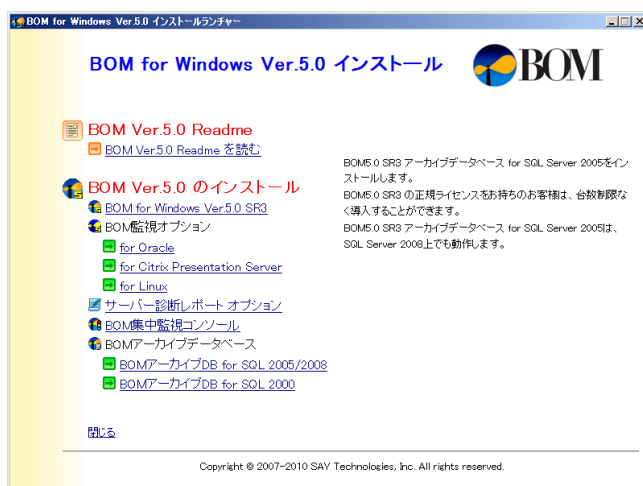
B. アーカイブサーバーのアップグレード

レポートクライアントからレポートを出力するには、アーカイブサーバーがレポートオプションに対応している必要があります。

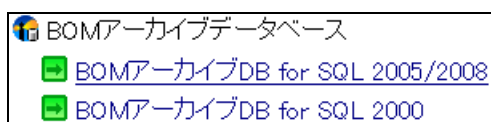
レポートオプションリリース以前のアーカイブサーバーはレポートオプションに対応していないため、レポートオプションに対応したアーカイブサーバーへアップグレードしてください。

以下にアーカイブサーバーのアップグレード手順の概要を示します。

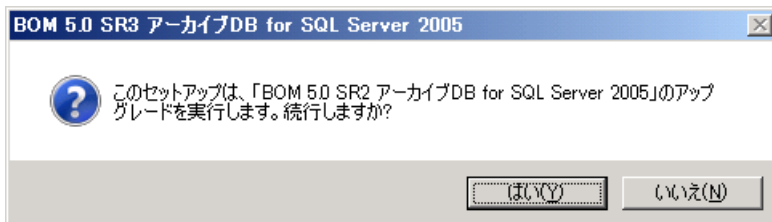
1. BOM5.0 SR3 の CD-ROM をコンピューターに挿入し、インストールランチャーを起動します



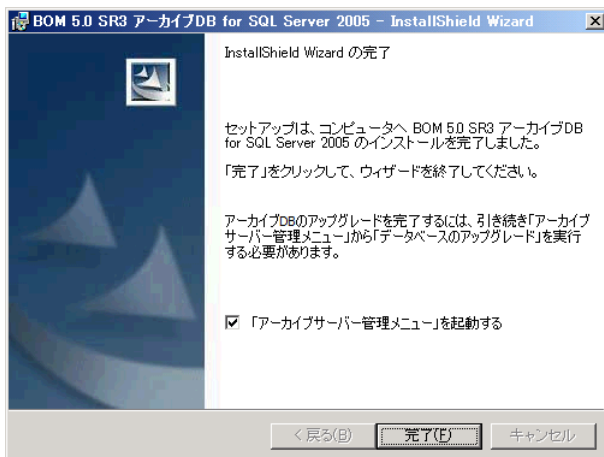
2. インストールしてある Microsoft SQL Server のバージョンに該当する BOM アーカイブ DB をクリックします



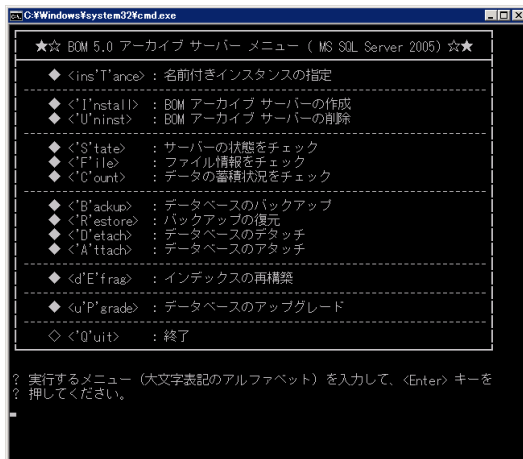
3. セットアップウィザードが起動し、確認メッセージが表示されますので、[はい]ボタンをクリックし、アップグレードを実行します



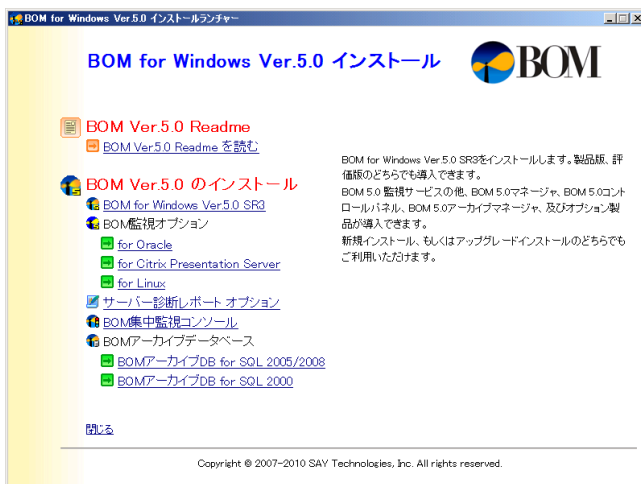
4. セットアップウィザードに従い、BOM アーカイブ DB のインストールを実施します



5. セットアップウィザードの[完了]ボタンをクリックすることで、“BOM 5.0 アーカイブサーバー管理メニュー”が起動します



1. BOM5.0 SR3 の CD-ROM をコンピューターに挿入し、インストールランチャーを起動します



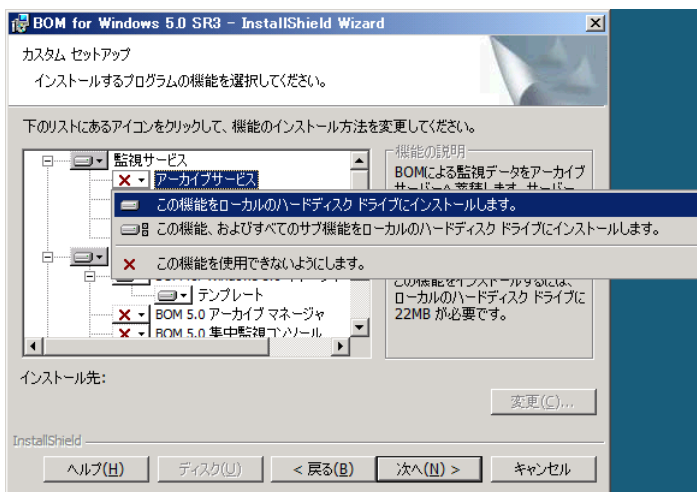
2. “BOM for Windows Ver.5.0 SR3”をクリックし、セットアップウィザードを起動します



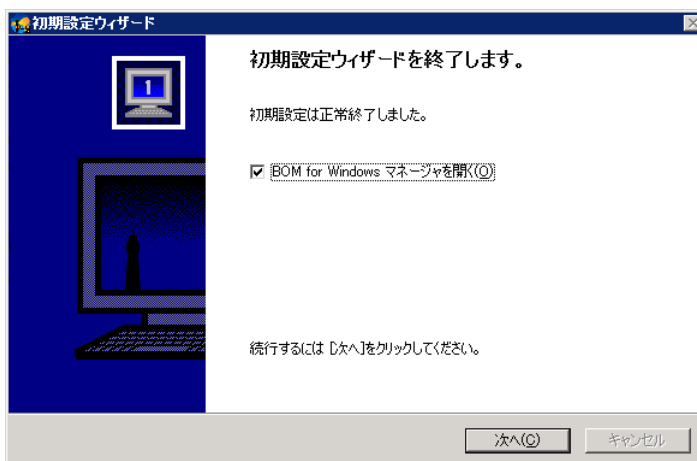
3. インストール種別は監視コンピューターの要件に合わせて、“完全”または“カスタム”を選択します



4. カスタムを選択した場合は、“監視サービス”ツリー以下の“アーカイブサービス”にて、ハードディスクアイコンをクリックしたメニューから“この機能をローカルのハードディスクドライブにインストールします。”を選択します



5. セットアップウィザードに従い、BOM5.0 のインストールを完了させます



6. 続けて '2 .2 .D アーカイブサーバーへの接続設定' の手順を実行し、アーカイブサーバーへの接続を完了します

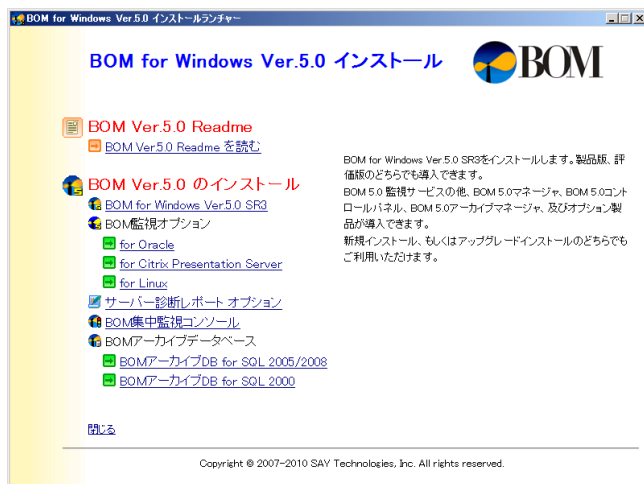
B. アーカイブサービスのアップグレード

レポートオプションリリース以前のアーカイブサービスはレポートオプションに対応していないため、監視コンピューター上のレポートに必要な情報をアーカイブサーバーに蓄積しません。

レポートクライアントからレポートを出力するには、レポートオプションに対応したアーカイブサービスへアップグレードする必要があります。

以下にアーカイブサービスのアップグレード手順の概要を示します。

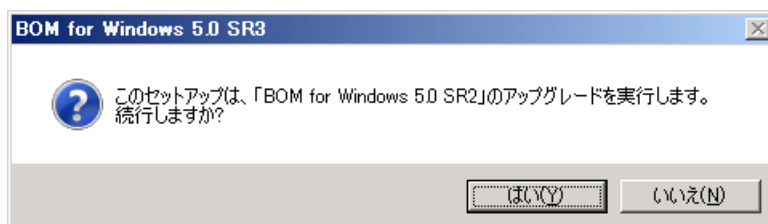
1. BOM5.0 SR3 の CD-ROM をコンピューターに挿入し、インストールランチャーを起動します



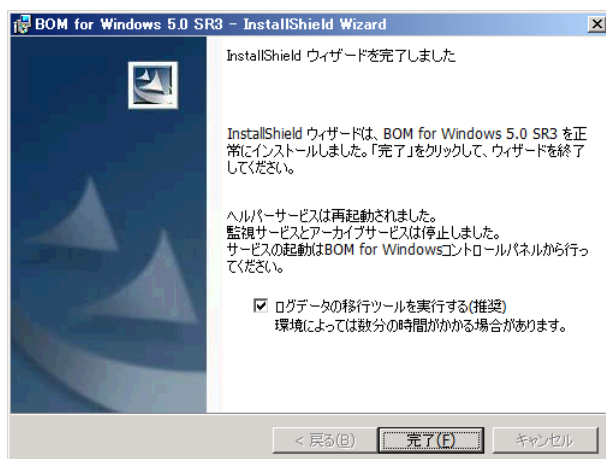
2. “BOM for Windows Ver.5.0 SR3”をクリックし、セットアップウィザードを起動します



3. アップグレード確認メッセージが表示されますので、[はい]ボタンをクリックし、アップグレードを実行します



4. セットアップウィザードに従い、BOM5.0 のインストールを完了させます



5. アーカイブサーバーへの接続設定を行っていないコンピューターについては、続けて '2 .2 .2 D アーカイブサーバーへの接続設定' の手順を実行します

C. アーカイブサービスの追加インストール

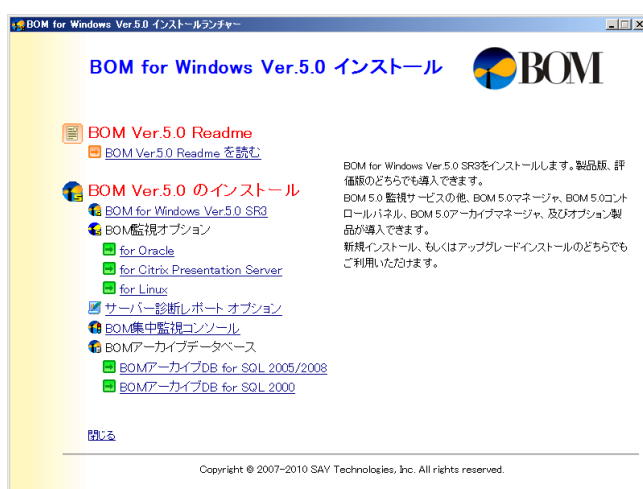
監視コンピューターのデータを蓄積するためには、アーカイブサービスを導入する必要があります。

BOM5.0 のセットアップタイプによっては、BOM 監視サービスなどの BOM コンポーネントをインストールしたコンピューターに、アーカイブサービスが含まれていない場合がございます。

BOM コンポーネントを既にインストールしたコンピューターにアーカイブサービスをインストールしたい場合、追加インストールを行ってください。

以下にアーカイブサービスの追加インストール手順の概要を示します。

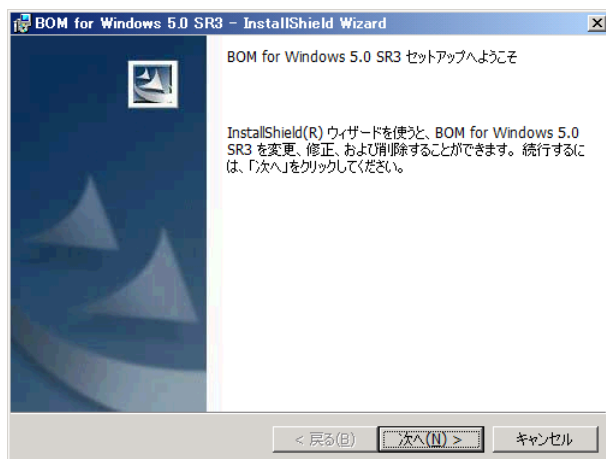
1. BOM5.0 SR3 の CD-ROM をコンピューターに挿入し、インストールランチャーを起動します



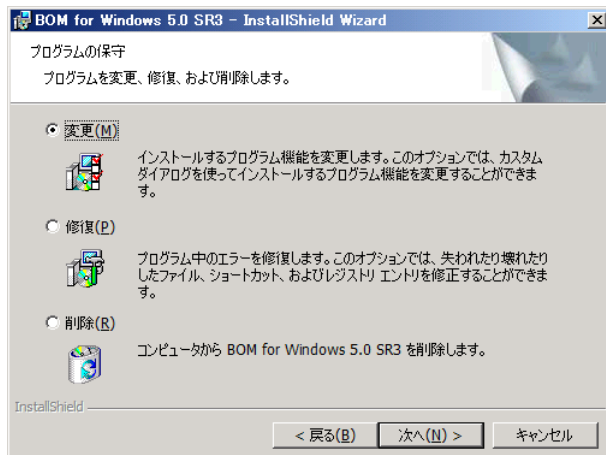
2. “BOM for Windows Ver.5.0 SR3”をクリックし、セットアップウィザードを起動します



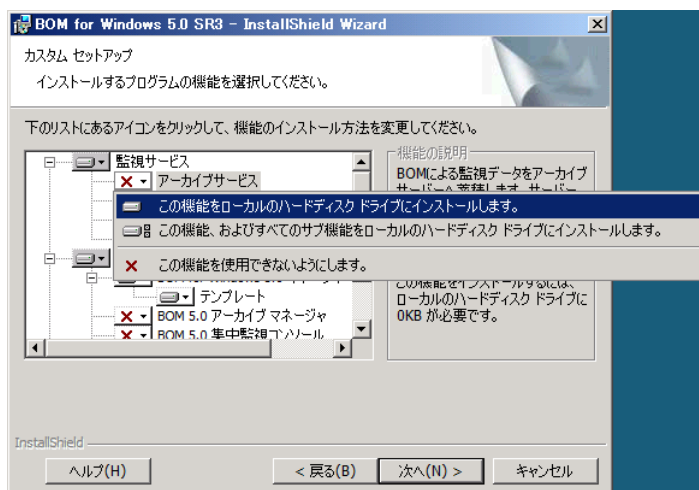
3. インストールされている BOM5.0 コンポーネントが旧リリース製品の場合、ここでアップグレードインストール画面になります。その場合、一旦 ‘2 .2 .2 B アーカイブサービスのアップグレード’ を実施いただき、改めて以降の手順を実施してください。
4. セットアップウィザードのウェルカムページが表示されますので、[次へ]ボタンをクリックします



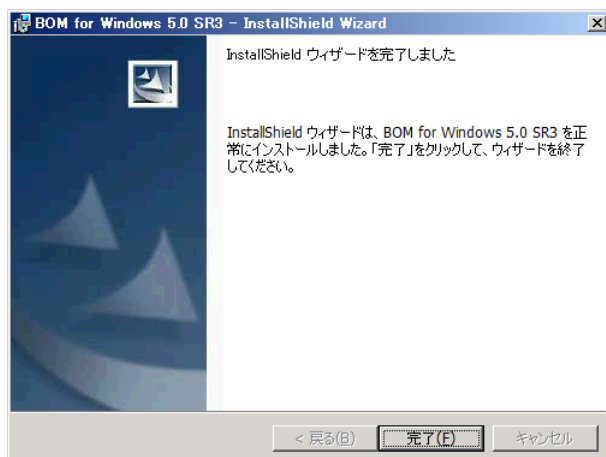
5. “プログラムの保守”画面にて、“変更”を選択し、[次へ]ボタンをクリックします



6. “監視サービス”ツリー以下の“アーカイブサービス”にて、×アイコンをクリックしたメニューから“この機能をローカルのハードディスクドライブにインストールします。”を選択します



7. セットアップウィザードに従い、BOM5.0 のインストールを完了させます

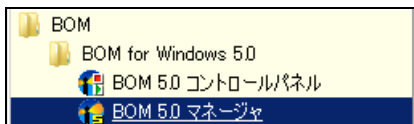


8. 続けて ‘2.2.2 D アーカイブサーバーへの接続設定’ の手順を実行し、アーカイブサーバーへの接続を完了します

D. アーカイブサーバーへの接続設定

アーカイブサービスをインストールした後は、アーカイブサーバーを指定し、監視データを蓄積するように構成する必要があります。

1. スタートメニューより、“BOM”→“BOM for Windows 5.0”→“BOM 5.0 マネージャ”を選択します



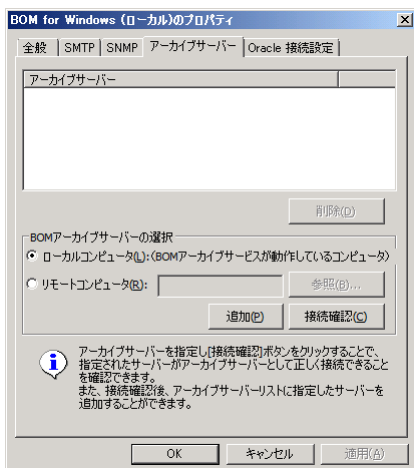
2. BOM マネージャにて、“接続”をクリックし、監視コンピューターに接続します



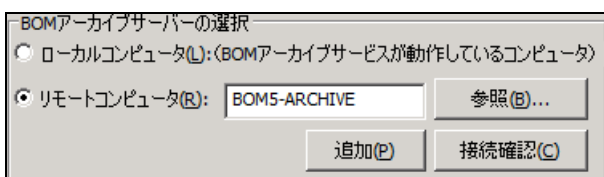
3. スcopeペインより“BOM for Windows (ローカル)”を選択し、右クリックメニューから“プロパティ”をクリックします



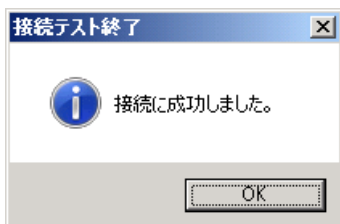
4. 「アーカイブサーバー」タブを選択します



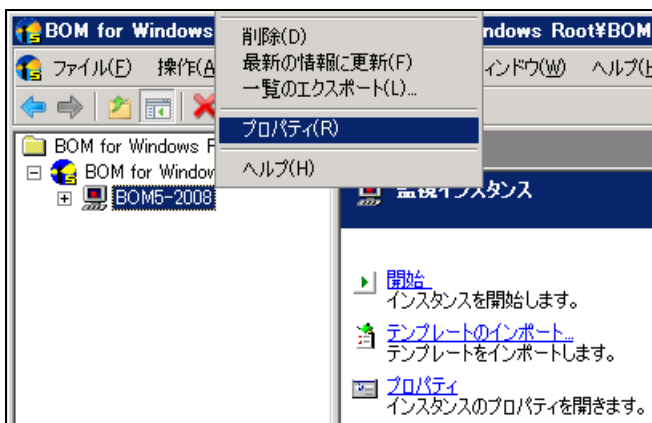
5. “リモートコンピュータ”を選択し、構築したアーカイブサーバーのコンピューター名または IP アドレスを入力します



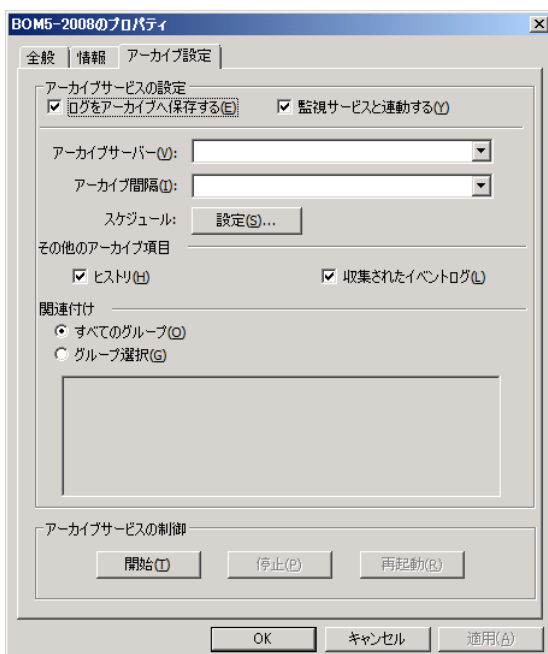
6. [接続確認]ボタンをクリックし、アーカイブサーバーへ正常に接続できることを確認します



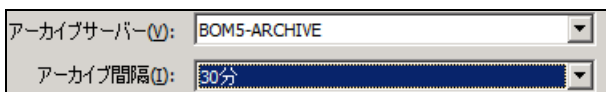
7. [追加]ボタンをクリックし、アーカイブサーバーをアーカイブサーバーリストに追加します
 8. [OK]ボタンをクリックし、プロパティシートに変更を反映します
 9. スcopeペインにて、レポートを出力したいインスタンスを選択し、右クリックメニューの“プロパティ”をクリックします



10. 「アーカイブ設定」タブを選択します



11. アーカイブサーバーとアーカイブ間隔をプルダウンリストから指定します



12. [OK]ボタンをクリックし、プロパティシートに変更を反映します
 13. 続けて '2 .2 .3 ' を実行し、監視コンピューターのレポートを出力する上で必要な監視項目を追加します

2.2.3 監視項目の作成

レポートを作成する上で、監視コンピューター上に特定の監視項目が必要になります。

Windows 監視用インスタンス、Linux 監視用インスタンスのそれぞれについて、その監視項目を簡単に作成するためのテンプレートをご用意しております。

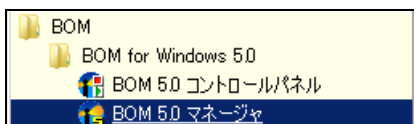
テンプレートで作成した監視項目は、レポートシート“サマリー情報”などの出力に使用されます。詳細については‘第 4 章出力レポート’をご参照ください。

以下に、Windows 向け、Linux 向けのそれぞれの手順を解説いたします。

A. Windows 向け監視項目の作成

Windows 向けのレポート用監視項目を作成する手順は以下の通りです。

1. スタートメニューより、“BOM”→“BOM for Windows 5.0”→“BOM 5.0 マネージャ”を選択します



2. BOM マネージャにて、“接続”をクリックし、監視コンピューターに接続します



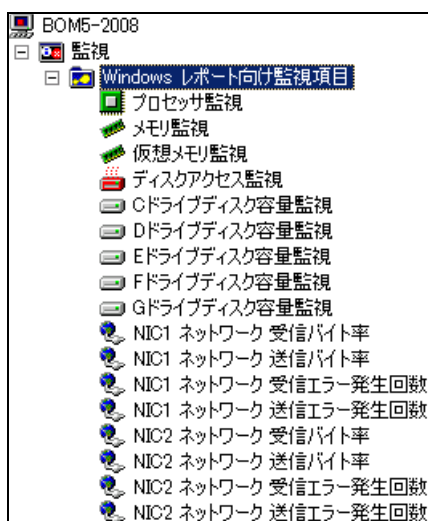
3. スコープペインにて、レポートを出力したい Windows 監視インスタンスを選択し、右クリックメニューから“テンプレートのインポート”をクリックします



4. “テンプレートフォルダ”にて、“標準構成テンプレート”を、“テンプレートの設定”にて、“Windows レポート向け監視項目”をクリックします



5. [インポート]ボタンをクリックし、テンプレートをインポートします
6. スコープペインにて監視グループ“Windows レポート向け監視項目”が作成されたことを確認します



7. テンプレートをインポートした直後は、監視項目“ディスク容量監視”には、“C ドライブ”、“D ドライブ”、“E ドライブ”、“F ドライブ”、“G ドライブ”の 5 つがあり、そのうち C ドライブの監視項目だけが有効となっています
不要なドライブの監視項目は削除または変更し、必要なドライブの監視を有効にします
8. 同様に、監視項目“NIC 監視(パフォーマンスカウンタ監視)”には、“受信バイト率”、“送信バイト率”、“受信エラー発生回数”、“送信エラー発生回数”の 4 項目が NIC1、NIC2 のそれぞれにあり、そのうち NIC1 の 4 項目だけが有効となっています
監視したい NIC インスタンスを設定の上、必要な NIC の監視を有効にします

以上の設定にて、監視コンピューターのパフォーマンスがレポート出力できます。

なお、イベントログのメッセージについては、コンピューターによって監視したいメッセージが異なるため、必要なメッセージだけ出力するようにカスタマイズいただく必要があります。そのため、テンプレート“Windows レポート向け監視項目”にはイベントログの監視項目が含まれていません。

以下の監視テンプレートをインポートした上で、必要なメッセージだけ抽出するようにカスタマイズすることを推奨いたします。

- “標準構成テンプレート” - “Windows システム監視 Basic”
- “Windows オプション” - “セキュリティログ”または“セキュリティログ_Win2008” (OS に応じて選択)
- ※ イベントログの監視項目はレポートを出力する上で必須ではございません。
- ※ セキュリティログを監視する場合には、セキュリティログに必要な情報が出力されるよう、監査ポリシー、フォルダー監査を構成してください。
- ※ BOM の監視設定の変更方法やテンプレートの利用方法などの詳細については、‘BOM for Windows Ver.5.0 ユーザーズマニュアル’をご参照ください。

B. Linux 向け監視項目の作成

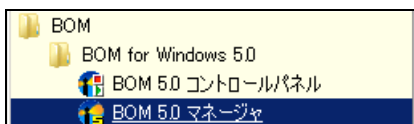
Linux 向けのレポートを作成する場合、Linux コンピューターの監視に利用するアカウントは“root”を使用する必要があります。

“root”以外を使用している場合には、“root”に変更してください。

- ※ Linux の監視アカウント変更方法については、‘BOM 監視オプション for Linux ユーザーズ マニュアル’をご参照ください。

Linux 向けのレポート用監視項目を作成する手順は以下の通りです。

1. スタートメニューより、“BOM”→“BOM for Windows 5.0”→“BOM 5.0 マネージャ”を選択します



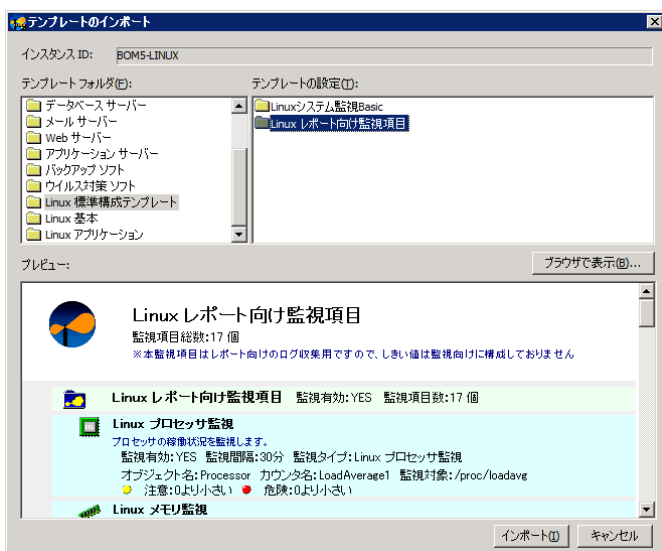
2. BOM マネージャにて、“接続”をクリックし、監視コンピューターに接続します



3. スコープペインにて、レポートを出力したい Linux 監視インスタンスを選択し、右クリックメニューから“テンプレートのインポート”をクリックします



4. “テンプレートフォルダ”にて、“Linux 標準構成テンプレート”を、“テンプレートの設定”にて、“Linux レポート向け監視項目”をクリックします



5. [インポート]ボタンをクリックし、テンプレートをインポートします
6. スコープペインにて監視グループ“Linux レポート向け監視項目”が作成されたことを確認します



7. テンプレートをインポートした直後は、監視項目“Linux ディスク容量監視”には、“hda1”、“hda2”、“sda1”、“sda2”、“VolGroup00-LogVol00”の5つがあり、そのうち hda1 の監視項目だけが有効となっています
不要なディスクの監視項目は削除または変更し、必要なディスクの監視を有効にします
8. 監視項目“Linux ディスクアクセス監視”についても、必要なディスクを監視するように設定を変更してください
9. 同様に、監視項目“NIC 監視(パフォーマンスカウンタ監視)”には、“受信総バイト数”、“送信総バイト数”、“受信エラー発生回数”、“送信エラー発生回数”の4項目がNIC1、NIC2のそれぞれにあり、そのうちNIC1の4項目だけが有効となっています
監視したいNICインスタンスを設定の上、必要なNICの監視を有効にします

以上の設定にて、監視コンピューターのパフォーマンスがレポート出力できます。

なお、テキストログのメッセージについては、コンピューターによって監視したいメッセージが異なるため、必要なメッセージだけ出力するようにカスタマイズいただく必要があります。そのため、テンプレート“Linux レポート向け監視項目”にはテキストログの監視項目が含まれていません。

以下の監視テンプレートをインポートした上で、必要なメッセージだけ抽出するようにカスタマイズすることを推奨いたします。

- “Linux 標準構成テンプレート” - “Linux システム監視 Basic”
- ※ テキストログの監視項目はレポートを出力する上で必須ではございません
- ※ BOM の監視設定の変更方法やテンプレートの利用方法などの詳細については、‘BOM 監視オプション for Linux ユーザーズ マニュアル’および‘BOM for Windows Ver.5.0 ユーザーズ マニュアル’をご参照ください。

2.3 インストール手順

アーカイブサーバーおよび監視コンピューターにて‘2.2 事前の準備’の作業が完了すると、監視コンピューターのデータがアーカイブサーバーに蓄積されます。

このアーカイブサーバー上のデータをレポートするためのコンピューターがレポートクライアントです。

レポートクライアントには、レポートを作成するためのソフトウェアである“レポート作成ウィザード”をインストールします。

レポート作成ウィザードと関連ソフトウェアのインストールについて、以下の手順に沿って作業してください。

なお、インストール作業は管理者権限が必要となりますので、管理者権限を持つアカウントにてログオンの上、作業を行ってください。

- ※ 以降の手順は必要な作業項目の概要のみを抽出した概略手順となります。

BOM5.0の詳細な導入手順については、‘BOM for Windows Ver.5.0 インストール マニュアル’および‘BOM for Windows Ver.5.0 アップグレードマニュアル’をご参照ください。

2.3.1 Microsoft .NET Framework 2.0 のインストール

レポート作成ウィザードを使用するためには、Microsoft .NET Framework の Ver.2.0 以上を事前にインストールする必要があります。レポートクライアントに Microsoft .NET Framework の Ver.2.0 以上がインストールされていない場合は、以下の作業を実施してください。

※ Windows Vista 以降では、既定で Microsoft .NET Framework の Ver.2.0 以上がインストールされておりますので、インストール作業は必要ありません。

1. BOM5.0 SR3 の CD-ROM をコンピューターに挿入し、インストールランチャーを起動します



2. “サーバー診断レポートオプション”にマウスカーソルを合わせると、右側のクイックガイド領域に Microsoft .NET Framework のセットアップリンクが表示されます

レポートクライアントの OS が 32bit 版の場合には“x86 版 .NET Framework 2.0”を、64bit 版の場合には“x64 版 .NET Framework 2.0”をクリックします

オプションの動作には Microsoft .NET Framework 2.0 以上が必要です。未導入の場合には以下のリンクより導入してください。
[x86版 .NET Framework 2.0](#) [x64版 .NET Framework 2.0](#)

3. セットアップウィザードに従い、Microsoft .NET Framework のインストールを完了させます

※ Microsoft .NET Framework は Microsoft の製品です。

インストールで不明な点がありましたら、以下のサポート情報をご確認ください。

‘.NET Framework 2.0 を手動で削除して再インストールする方法’

<http://support.microsoft.com/kb/908077/ja>

2.3.2 Microsoft Excel のインストール

レポート作成ウィザードでは、レポート出力形態として“MHTML 形式”と“Excel 形式”の 2 種類があります。

MHTML 形式でレポートを出力する場合には Excel のインストールは不要ですが、Excel 形式でレポートを出力する場合には、レポートクライアントに Microsoft Excel をインストールする必要があります。

※ サポートする Microsoft Excel のバージョンは ‘2.1 A レポートクライアントの動作環境’ をご参照ください。

※ レポート出力形態の詳細については ‘第 4 章 出力レポート’ をご参照ください。

また、Excel 形式でレポートを出力する場合には、レポートクライアント上で印刷レイアウトが確認できるように構成する必要があります。レポートクライアントにプリンタが登録されていない場合には、プリンタをセットアップしてください。

※ Windows Vista 以降では、既定で“Microsoft XPS Document Writer”がインストールされておりますので、プリンタのセットアップ作業は必須ではありません。

2.3.3 レポート作成ウィザードのインストール

レポートを出力するためのインターフェイスである“BOM5.0 レポート作成ウィザード”のインストールは、以下の手順にて実施します。

A. レポート作成ウィザードの新規インストール

BOM5.0 のコンポーネントを一切入れていないコンピューターにレポート作成ウィザードをインストールする手順の概要を示します。

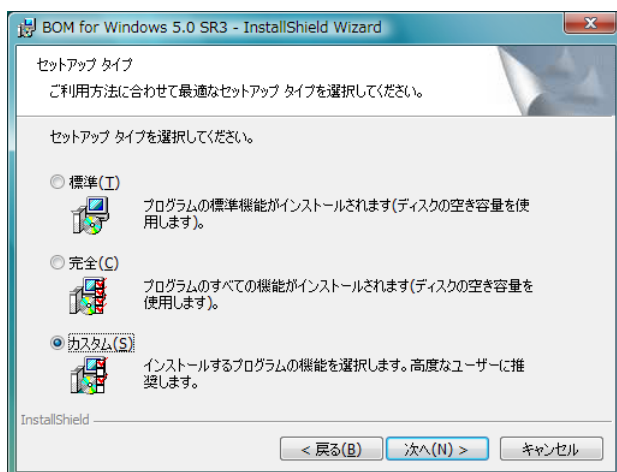
1. BOM5.0 SR3 の CD-ROM をコンピューターに挿入し、インストールランチャーを起動します



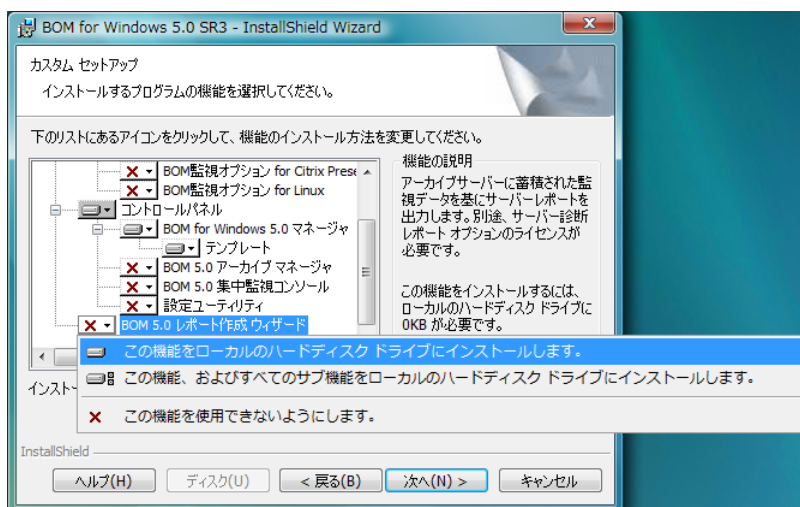
2. “サーバー診断レポートオプション”をクリックし、セットアップウィザードを起動します



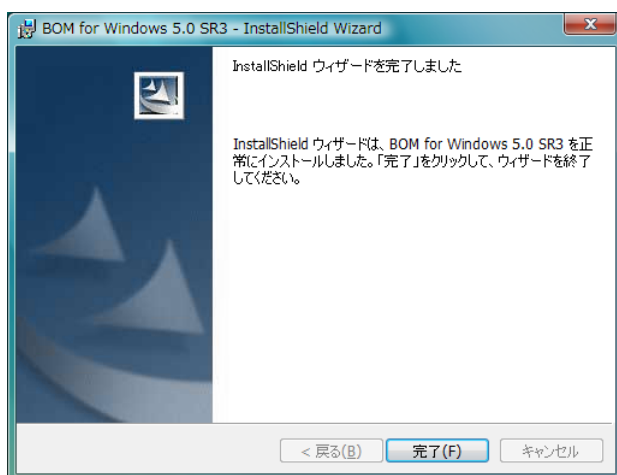
3. インストール種別はレポートクライアントの要件に合わせて、“完全”または“カスタム”を選択します



4. カスタムを選択した場合は、“BOM5.0 レポート作成ウィザード”にて、×アイコンをクリックしたメニューから“この機能をローカルのハードディスクドライブにインストールします。”を選択します



5. セットアップウィザードに従い、BOM5.0 のインストールを完了させます



B. レポート作成ウィザードのアップグレード

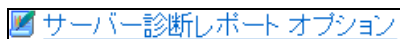
レポートクライアントに以前リリースされたレポート作成ウィザードを既に導入している場合、アップグレードインストールを行うことで最新版のレポート作成ウィザードをご利用いただけます。

以下にレポート作成ウィザードのアップグレード手順の概要を示します。

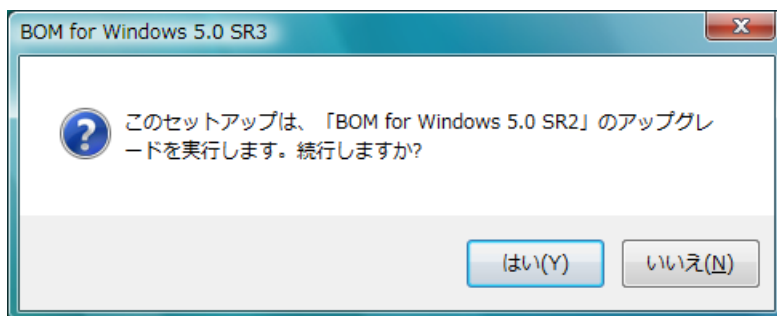
1. BOM5.0 SR3 の CD-ROM をコンピューターに挿入し、インストールランチャーを起動します



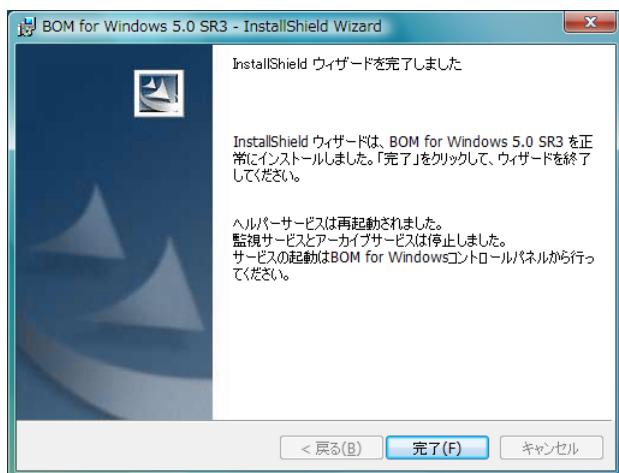
2. “サーバー診断レポートオプション”をクリックし、セットアップウィザードを起動します



3. セットアップウィザードが起動し、アップグレード確認メッセージが表示されますので、[はい]ボタンをクリックし、アップグレードを実行します



4. セットアップウィザードに従い、BOM5.0 のインストールを完了させます



C. レポート作成ウィザードの追加インストール

レポートクライアントに、“BOM5.0 マネージャ”などのレポート作成ウィザード以外の BOM5.0 コンポーネントを既に入れている場合、レポート作成ウィザードを導入する際は追加インストール方式になります。

追加インストール手順を以下に示します。

1. BOM5.0 SR3 の CD-ROM をコンピューターに挿入し、インストールランチャーを起動します

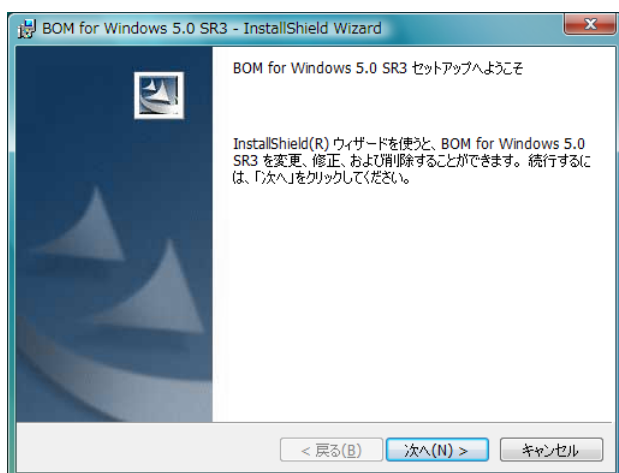


2. “サーバー診断レポートオプション”をクリックし、セットアップウィザードを起動します

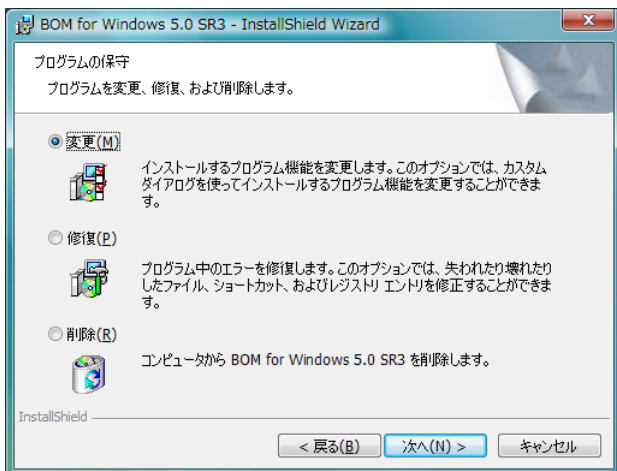


※ インストールされている BOM5.0 コンポーネントが旧リリース製品の場合、ここでアップグレードインストール画面になります。その場合、一旦‘2.3.3 B レポート作成ウィザードのアップグレード’の手順を実施いただき、改めて以降の手順を実施してください。

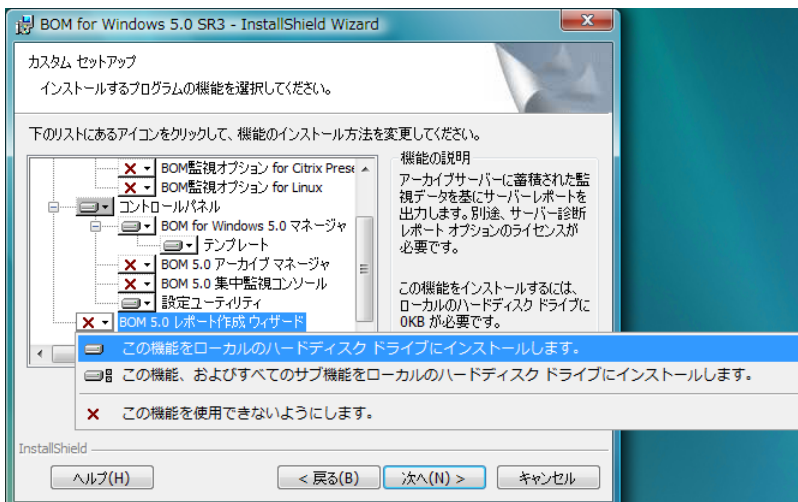
3. セットアップウィザードのウェルカムページが表示されますので、[次へ]ボタンをクリックします



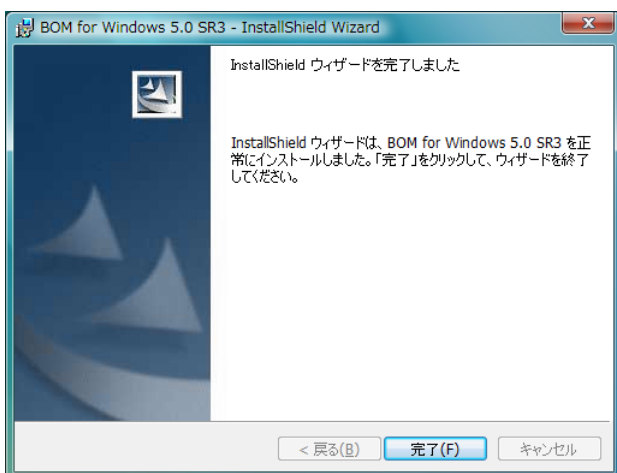
4. “プログラムの保守”画面にて、“変更”を選択し、[次へ]ボタンをクリックします



5. “BOM5.0 レポート作成ウィザード”にて、×アイコンをクリックしたメニューから“この機能をローカルのハードディスクドライブにインストールします。”を選択します



6. セットアップウィザードに従い、BOM5.0 のインストールを完了させます



2.4 アンインストール手順

レポート作成ウィザードと関連ソフトウェアのアンインストールについて、以下の手順に沿って作業してください。

アンインストール作業は管理者権限が必要となりますので、管理者権限を持つアカウントにてログオンの上、作業を行ってください。

※ 以降の手順は必要な作業項目の概要のみを抽出した概略手順となります。

BOM5.0の詳細なアンインストール手順については、‘BOM for Windows Ver.5.0 インストール マニュアル’をご参照ください。

2.4.1 レポート作成ウィザードのアンインストール

レポートクライアントからレポート作成ウィザードをアンインストールする手順を以下に示します。

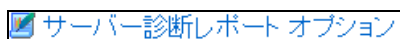
A. レポート作成ウィザードのみをアンインストールする

コンピューターからレポート作成ウィザードのみをアンインストールするには、以下の作業を実施してください。

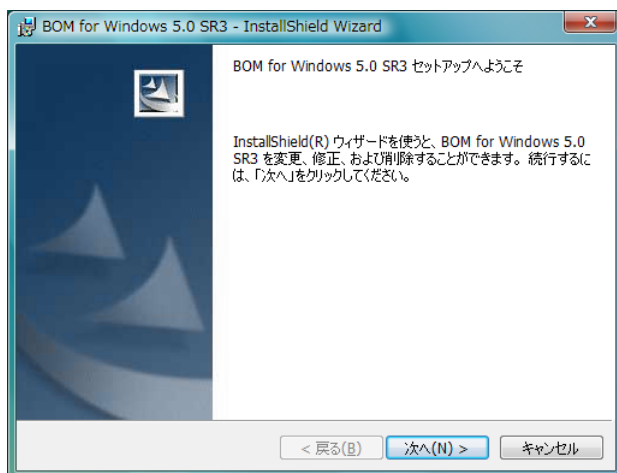
1. BOM5.0 SR3 の CD-ROM をコンピューターに挿入し、インストールランチャーを起動します



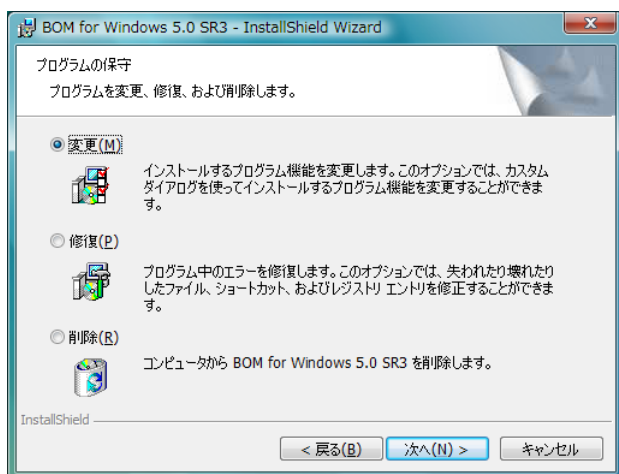
2. “サーバー診断レポートオプション”をクリックし、セットアップウィザードを起動します



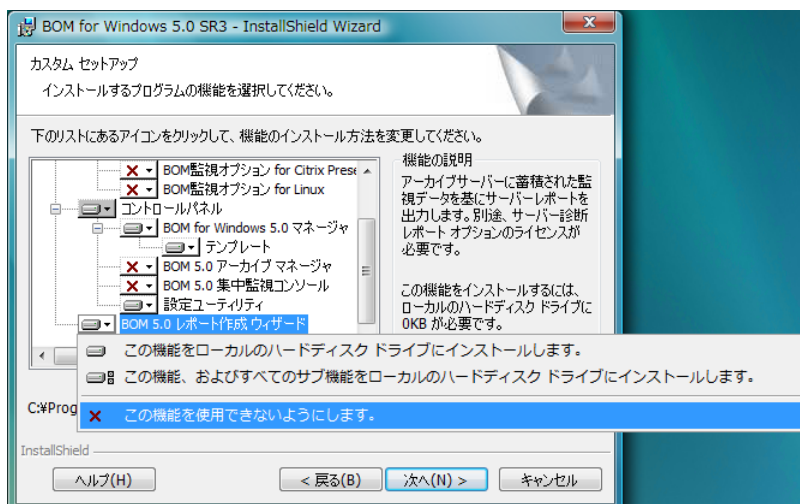
3. セットアップウィザードのウェルカムページが表示されますので、[次へ]ボタンをクリックします



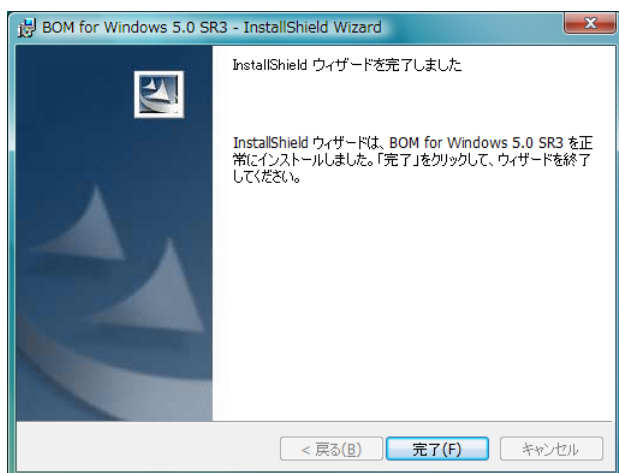
4. “プログラムの保守”画面にて、“変更”を選択し、[次へ]ボタンをクリックします



5. “BOM5.0 レポート作成ウィザード”にて、ハードディスクアイコンをクリックしたメニューから“この機能を使用できないようにします。”を選択します



6. セットアップウィザードに従い、レポート作成ウィザードのアンインストールを完了させます



B. BOM 全体をアンインストールする

コンピューターから BOM5.0 のすべてのコンポーネントをアンインストールするには、以下の作業を実施してください。

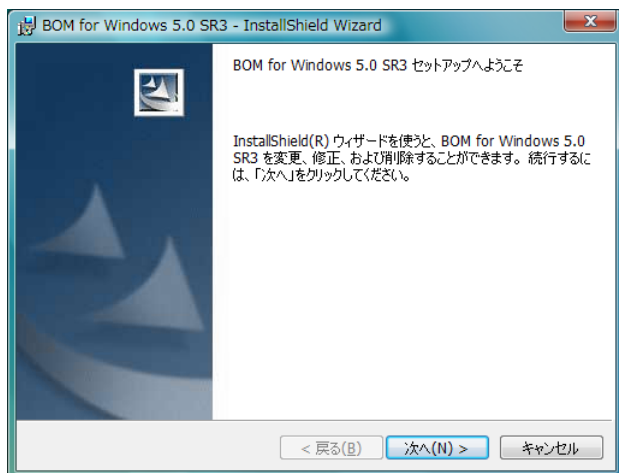
1. BOM5.0 SR3 の CD-ROM をコンピューターに挿入し、インストールランチャーを起動します



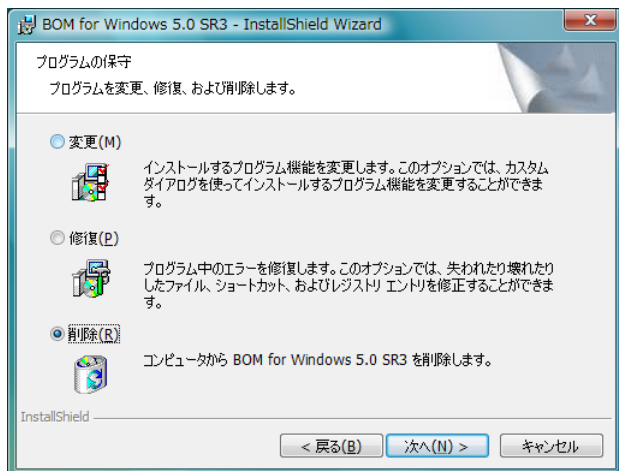
2. “サーバー診断レポートオプション”をクリックし、セットアップウィザードを起動します



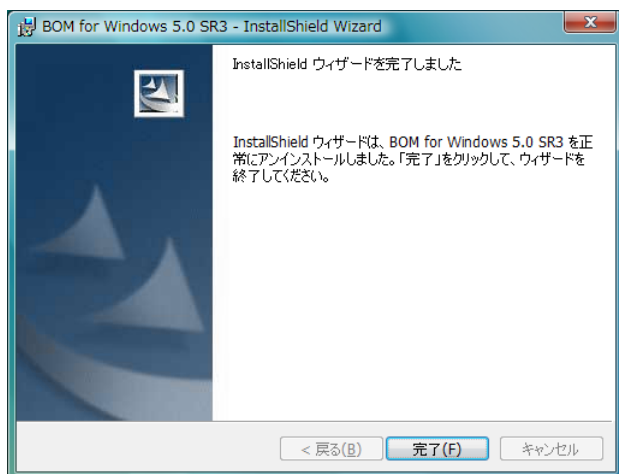
3. セットアップウィザードのウェルカムページが表示されますので、[次へ]ボタンをクリックします



4. “プログラムの保守”画面にて、“削除”を選択し、[次へ]ボタンをクリックします



5. セットアップウィザードに従い、BOM5.0 のアンインストールを完了させます



2.4.2 関連ソフトウェアのアンインストール

レポートクライアントの関連ソフトウェアとして、以下のソフトウェアをインストールしている場合、不要であればアンインストールをしてください。

- Microsoft Excel
- Microsoft .NET Framework

関連ソフトウェアのアンインストールは、以下の手順にて行います。

1. スタートメニューより、“コントロールパネル”を選択します
2. カテゴリ“プログラム”の“プログラムのアンインストール”をダブルクリックします
コントロールパネルがクラシック表示の場合には、“プログラムと機能”をダブルクリックします
3. 表示された一覧の中からアンインストールしたいソフトウェアをクリックします
4. “アンインストール”をクリックします

※ 詳細情報については、Microsoft より提供されている各ソフトウェアのドキュメントをご参照ください。

第3章 レポート作成ウィザード

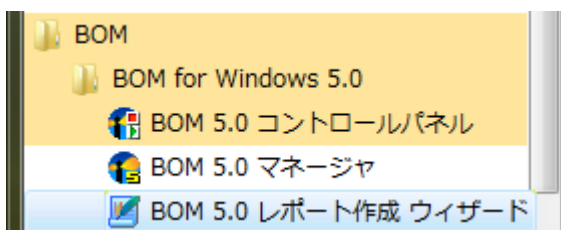
3.1 概要

レポートオプションでは、レポート作成ウィザードを使用して、監視コンピューターのレポートを出力します。
本章では、レポート作成ウィザードの使用方法をご案内いたします。

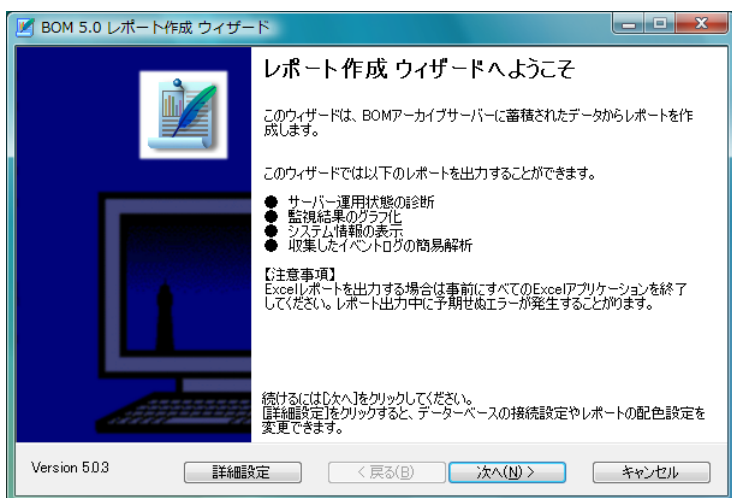
3.2 レポート作成ウィザードの起動

レポート作成ウィザードは一般ユーザー権限で実行できます。

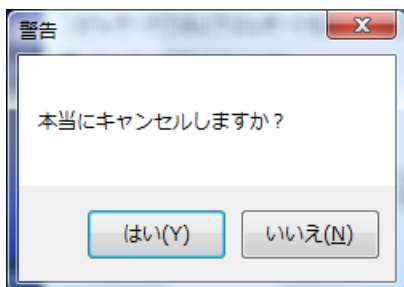
1. スタートメニューより、“BOM”→“BOM for Windows 5.0”→“BOM 5.0 レポート作成ウィザード”を選択します



2. レポート作成ウィザードが起動します



レポート作成ウィザードでは、[次へ]ボタンをクリックすることで次の画面に進み、[戻る]ボタンをクリックすることで前の画面に戻ります。
さらに、[キャンセル]ボタンをクリックすることで、レポート作成ウィザードを終了することができます。



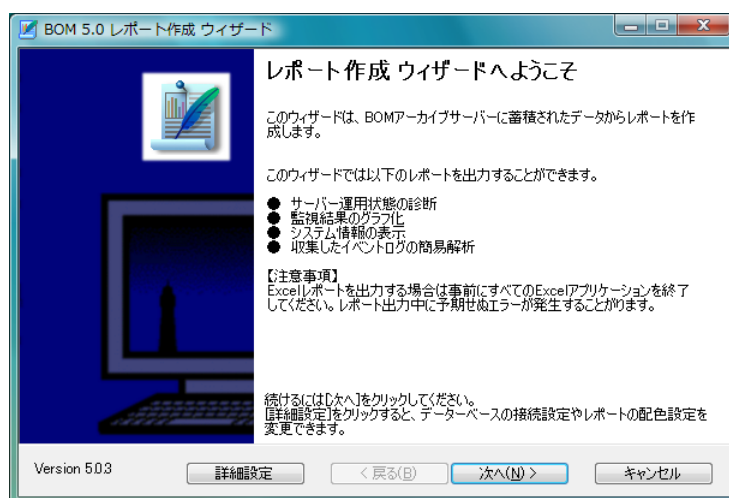
レポート作成ウィザードの各画面、および具体的な使用方法は、‘3.3 レポート作成ウィザードの実行’をご参照ください。

3.3 レポート作成ウィザードの実行

レポート作成ウィザードの各画面について、レポート作成ウィザードで表示される画面順に、使用方法を解説いたします。

3.3.1 ウェルカム

レポート作成ウィザードを起動すると、まずはこのウェルカム画面が表示されます。

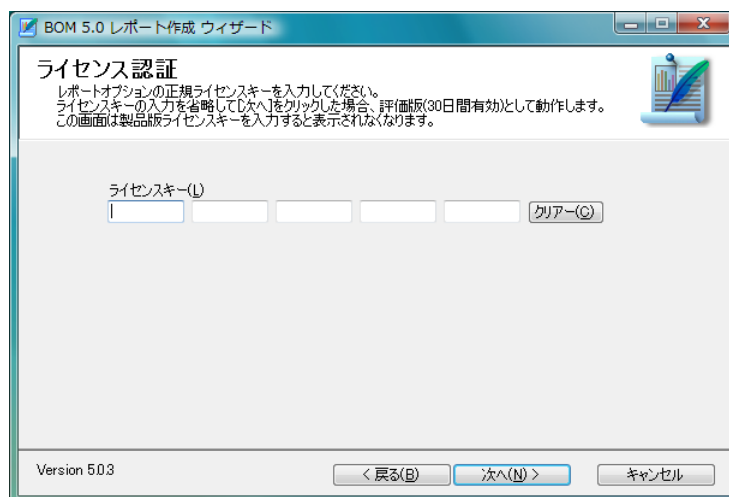


1. [詳細設定]ボタン

[詳細設定]ボタンをクリックすると、レポート出力時のタイムアウト時間や、出力レポートの配色などの設定をカスタマイズできます。詳細については、'5.1 詳細設定'をご参照ください。

3.3.2 ライセンス認証

ライセンスキーが未入力の場合、ここでライセンス認証画面が表示されます。



1. “ライセンスキー”欄

“ライセンスキー”欄に製品版のライセンスキーを入力することで、レポートクライアントにライセンスキーが登録されます。次回以降のレポート作成ウィザード使用時には、製品版として認識され、ライセンス認証画面が表示されなくなります。



“ライセンスキー”欄を空白のままにした場合は、評価版ライセンスキーが登録されます。

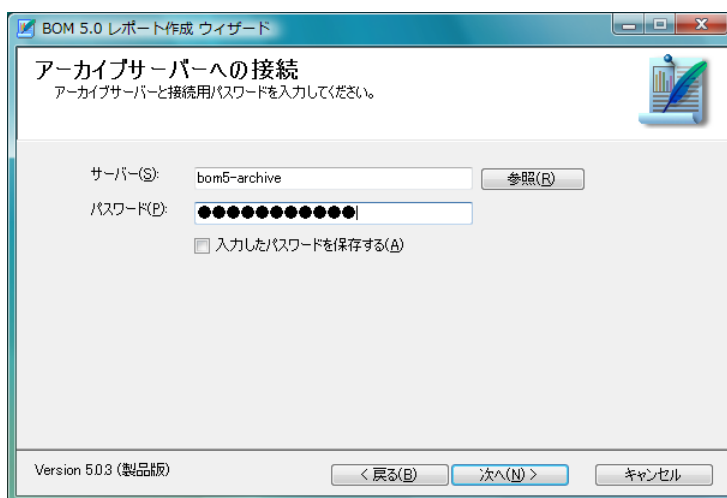
評価版の使用期限は 30 日間となっており、それ以降は製品版のライセンスキーを登録しない限りご利用いただけなくなります。

なお、評価版の有効期限はウィザードの画面左下に表示されます。



3.3.3 アーカイブサーバーへの接続

アーカイブサーバーへの接続画面では、レポート出力対象のコンピューターがデータを蓄積しているアーカイブサーバーへ接続します。



1. “サーバー”欄

“サーバー”欄には、アーカイブサーバーのコンピューター名または IP アドレスを入力します。

設定したアーカイブサーバーはレポートクライアントに保存され、次回以降のレポート作成ウィザード使用時に自動入力されます。

2. [参照]ボタン

アーカイブサーバーをネットワーク一覧から選択したい場合、[参照]ボタンをクリックします。

3. “パスワード”欄

“パスワード”欄には、アーカイブサーバーへの接続パスワード(既定では“Bom5Archive”)を入力します。

※ 接続パスワードは BOM5.0 アーカイブマネージャと共通で使用するアカウントのパスワードです。詳細については ‘BOM for Windows Ver.5.0 ユーザーズ マニュアル’ をご参照ください。

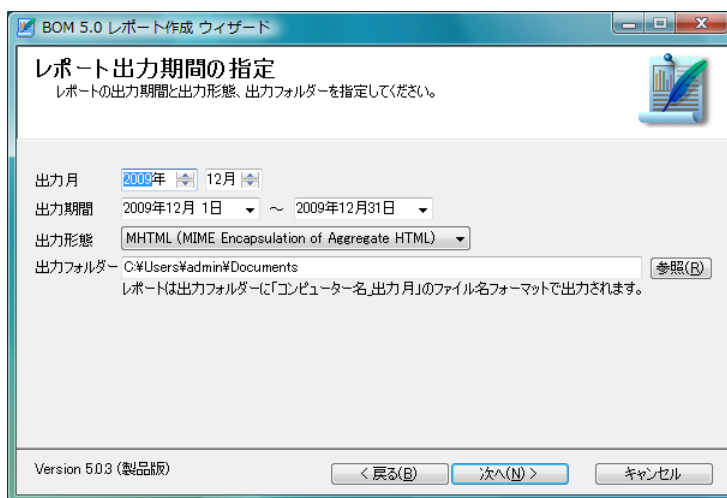
4. チェックボックス“入力したパスワードを保存する”

チェックボックス“入力したパスワードを保存する”にチェックを入れると、レポートクライアントにパスワードを保存します。

パスワードを保存した場合は、次回以降のレポート作成ウィザード使用時に自動入力されます。

3.3.4 レポート出力期間の指定

レポート出力期間の指定画面では、レポートを出力する対象期間を選択します。



1. “出力月”欄

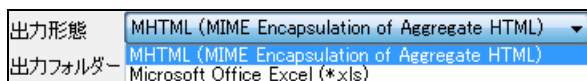
“出力月”欄にはレポート出力対象の年および月を、数値にて指定します。既定値として、前月の年および月が表示されます。

2. “出力期間”欄

“出力期間”欄には、レポート出力対象の開始日および終了日を指定します。既定値として、開始日には前月の月初、終了日には前月の月末が表示されます。

3. “出力形態”欄

“出力形態”欄では、レポート出力形態を MHTML 形式、Excel 形式の 2 種類からお選びいただけます。



※ Excel 形式を選択いただくためには、事前に Microsoft Excel のインストールが必要となります。

詳細については‘2.3.2 Microsoft Excel のインストール’をご参照ください。

※ Excel 形式を選択した場合、レポート出力時に Microsoft Office などのアプリケーションを使用すると、レポート出力が正しく行えません。レポート出力時には、レポートクライアント上で他の操作をしないようにしてください。

4. “出力フォルダー”欄

“出力フォルダー”欄には、レポートのファイル出力先フォルダーを指定します。初回起動時には、既定値としてレポート作成ウィザードを実行しているユーザーのドキュメントフォルダーが設定されています。

設定した出力フォルダーはレポートクライアントに保存され、次回以降のレポート作成ウィザード使用時に自動入力されます。

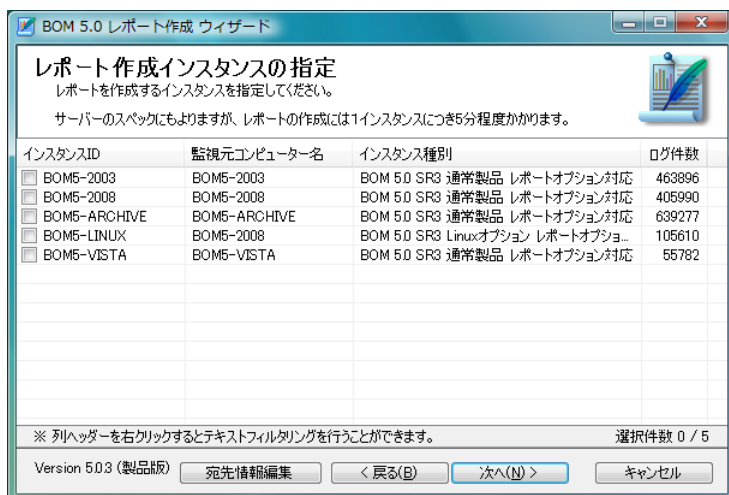
5. [参照]ボタン

出力フォルダーをコンピューターのフォルダー一覧から選択したい場合、[参照]ボタンをクリックします。

3.3.5 レポート作成インスタンスの指定

レポート作成インスタンスの指定画面では、レポートを出力する監視コンピューターを指定できます。

アーカイブサーバー上に蓄積されている監視コンピューターの“インスタンス ID”、“監視元コンピューター名”、“インスタンス種別”、“ログ件数”について表示します。



※ ログ件数は、アーカイブサーバー上の蓄積件数を集計してから表示するため、表示されるまでに若干時間がかかる場合がございます。

1. [宛先情報編集]ボタン

[宛先情報編集]ボタンをクリックすることでレポート出力時の宛名をカスタマイズできます。詳細は、‘5.2 宛先情報の編集’をご参照ください。

2. チェックボックス“インスタンス ID”

“インスタンス ID”の左側にあるチェックボックスにチェックを入れることで、そのインスタンスをレポート出力の対象にします。

インスタンスID	監視元コンピューター名	インスタンス種別	ログ件数
<input checked="" type="checkbox"/> BOM5-2003	BOM5-2003	BOM 5.0 SR3 通常製品 レポートオプション対応	463896
<input checked="" type="checkbox"/> BOM5-2008	BOM5-2008	BOM 5.0 SR3 通常製品 レポートオプション対応	405990
<input checked="" type="checkbox"/> BOM5-ARCHIVE	BOM5-ARCHIVE	BOM 5.0 SR3 通常製品 レポートオプション対応	639277
<input checked="" type="checkbox"/> BOM5-LINUX	BOM5-2008	BOM 5.0 SR3 Linuxオプション レポートオプション...	105610
<input checked="" type="checkbox"/> BOM5-VISTA	BOM5-VISTA	BOM 5.0 SR3 通常製品 レポートオプション対応	55782

※ “インスタンス”とは、BOM 監視サービスの監視単位です。詳細については‘BOM for Windows Ver.5.0 ユーザーズ マニュアル’をご参照ください。

3. 列タイトル

インスタンスID	監視元コンピューター名	インスタンス種別	ログ件数
----------	-------------	----------	------

“インスタンス ID”、“監視元コンピューター名”、“インスタンス種別”の各列において、タイトルをクリックすると並び替えが実行されます。

インスタンスID	監視元コンピューター名	インスタンス種別	ログ件数
<input checked="" type="checkbox"/> BOM5-2003	BOM5-2003	BOM 5.0 SR3 通常製品 レポートオプション対応	463896
<input checked="" type="checkbox"/> BOM5-2008	BOM5-2008	BOM 5.0 SR3 通常製品 レポートオプション対応	405990
<input checked="" type="checkbox"/> BOM5-ARCHIVE	BOM5-ARCHIVE	BOM 5.0 SR3 通常製品 レポートオプション対応	639277
<input checked="" type="checkbox"/> BOM5-LINUX	BOM5-2008	BOM 5.0 SR3 Linuxオプション レポートオプション対応	105610
<input checked="" type="checkbox"/> BOM5-VISTA	BOM5-VISTA	BOM 5.0 SR3 通常製品 レポートオプション対応	55782



インスタンスID	監視元コンピューター名	インスタンス種別	ログ件数
<input checked="" type="checkbox"/> BOM5-LINUX	BOM5-2008	BOM 5.0 SR3 Linuxオプション レポートオプション対応	105610
<input checked="" type="checkbox"/> BOM5-2003	BOM5-2003	BOM 5.0 SR3 通常製品 レポートオプション対応	463896
<input checked="" type="checkbox"/> BOM5-2008	BOM5-2008	BOM 5.0 SR3 通常製品 レポートオプション対応	405990
<input checked="" type="checkbox"/> BOM5-ARCHIVE	BOM5-ARCHIVE	BOM 5.0 SR3 通常製品 レポートオプション対応	639277
<input checked="" type="checkbox"/> BOM5-VISTA	BOM5-VISTA	BOM 5.0 SR3 通常製品 レポートオプション対応	55782

4. 列タイトル右クリックメニュー

列タイトルを右クリックすることで、右クリックメニューが呼び出せます。

<テキスト フィルタリング なし>		
全選択(A)		
全解除(C)		
インスタンスID	監視元コンピューター名	イン

“インスタンス ID”の右クリックメニューからは“テキストフィルタリング”機能、“全選択”機能、および“全解除”が利用できます。

“監視元コンピューター名”、“インスタンス種別”の右クリックメニューからは“テキストフィルタリング”機能が利用できます。

5. “テキストフィルタリング”機能

“テキストフィルタリング”機能は、文字列を入力し、<Enter>キーを押下することで、入力した文字列と部分一致した名称（“インスタンス ID”、“監視元コンピューター名”、“インスタンス種別”）の行のみを表示する機能です。

テキストフィルタリングを解除する場合には、入力した文字列を削除した上で、<Enter>キーを押下します。

BOM 5.0 レポート作成 ウィザード			
VISTA		インスタンスにつき5分程度かかります。	
全選択(A)			
全解除(C)			
インスタンスID	監視元コンピューター名	インスタンス種別	ログ件数
<input checked="" type="checkbox"/> BOM5-VISTA	BOM5-VISTA	BOM 5.0 SR3 通常製品 レポートオプション対応	55782

6. “全選択”機能

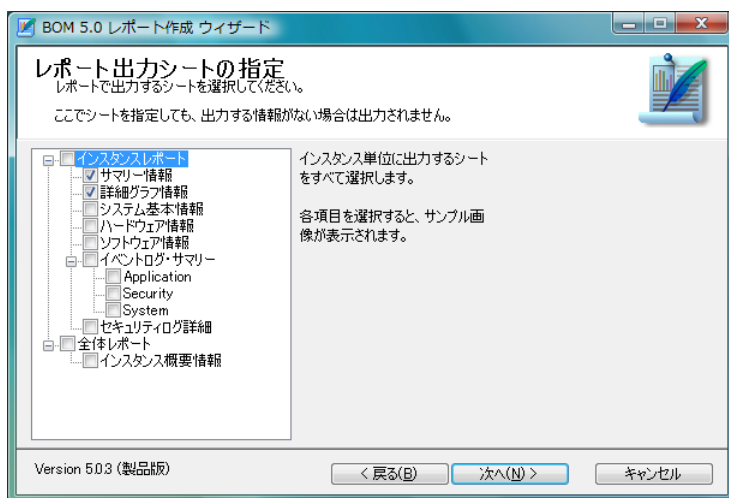
“全選択”機能は、すべてのインスタンスのチェックボックスにチェックを入れます。

7. “全解除”機能

“全解除”機能は、すべてのインスタンスのチェックボックスからチェックを外します。

3.3.6 レポート出力シートの指定

レポート出力シートの指定画面では、出力するレポートシート(レポートの内容)を選択できます。



※ イベントログ・サマリー以下に表示されるイベントログファイル名は、アーカイブサーバー上の蓄積情報から取得して表示するため、表示されるまでに若干時間がかかる場合がございます。

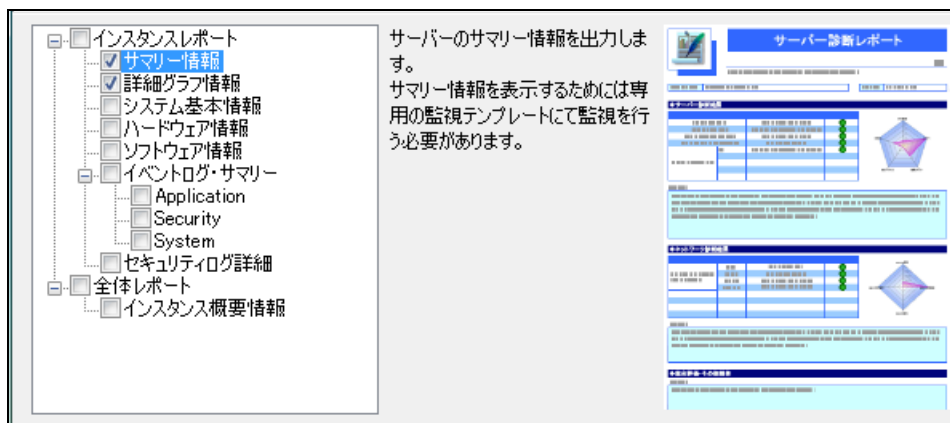
1. チェックボックス“インスタンスレポート”、“全体レポート”

それぞれのチェックボックスにチェックを入れると、ツリー配下の全レポートシートのチェックボックスにチェックが入ります。

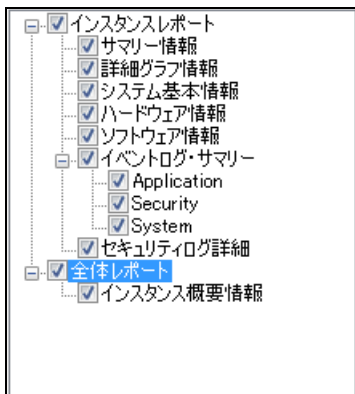
それぞれのチェックボックスからチェックを外すと、ツリー配下の全レポートシートのチェックボックスからチェックが外れます。

2. チェックボックス“レポートシート”

各レポートシートのシート名をクリックすると、サンプル画面を表示します。



各レポートシートのチェックボックスにチェックを入れることで、レポートシートが出力対象になります。



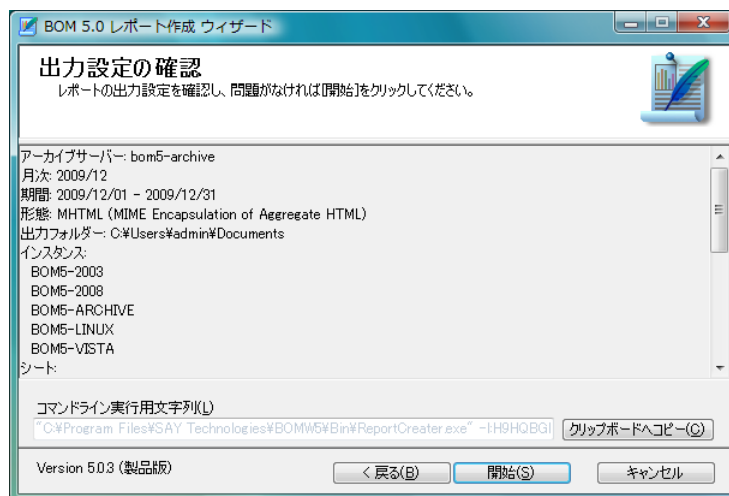
各レポートシートの概要は以下の表を参考にしてください。詳細については‘第 4 章 出力レポート’をご参照ください。

レポートシート名	レポートシート概要
サマリー情報	監視コンピューターの稼働状況を簡単にまとめたサマリーシート
詳細グラフ情報	各監視項目毎に稼働状況をグラフにまとめたシート
システム基本情報	監視コンピューターの OS 情報など、システムの基本情報をまとめたシート
ハードウェア情報	監視コンピューターに搭載されているハードウェアを一覧にまとめたシート
ソフトウェア情報	監視コンピューターに導入されているソフトウェアを一覧にまとめたシート
イベントログ・サマリー	監視コンピューターのイベントログ監視の結果を簡単にまとめたサマリーシート
セキュリティログ詳細	監視コンピューターのセキュリティログ監視の結果をメッセージ毎にまとめたシート
インスタンス概要情報	レポート出力対象の全コンピューターを一覧表示し、基本情報をまとめたサマリーシート

※ レポート出力対象のインスタンスに、選択したシートに対応する情報がない場合、シートは出力されません

3.3.7 出力設定の確認

出力設定の確認画面では、今までウィザードで指定した内容を表示します。



1. “設定確認”欄

レポート作成ウィザードで指定した内容が表示されます。出力する内容に間違いがないかご確認ください。



2. “コマンドライン実行用文字列”欄

“コマンドライン実行用文字列”欄は、レポート出力時に実際に実行するレポート出力コマンドの内容です。

レポート出力コマンドをコピーし、メモ帳などを使用してバッチファイルとして構成することで、後からレポート出力コマンドを実行することができます。

バッチファイルをタスクスケジューラに登録することで、深夜などにレポート出力を自動で行うことも可能です。

※ バッチ一括処理として定期的に行う場合には‘8.2 コマンドライン実行用文字列の引数’をご参照ください。

3. [クリップボードへコピー]ボタン

[クリップボードへコピー]ボタンをクリックすることで、“コマンドライン実行用文字列”をクリップボードにコピーすることができます。

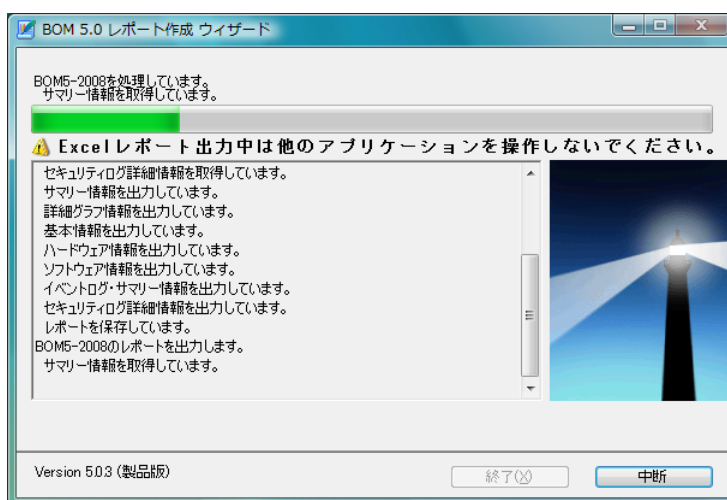
4. [開始]ボタン

[開始]ボタンをクリックすることでレポート出力が開始されます。

指定内容に間違いがないことを確認した上で、[開始]ボタンをクリックします。

3.3.8 レポート出力中

レポート出力時には、進行状況がレポート出力中画面に表示されます。



レポートクライアントのスペックやアーカイブサーバーとの通信状態などによって前後しますが、レポート出力には 1 インスタンス辺り 5 分程度の時間を必要とします。

出力が完了したレポートは、出力フォルダーに“コンピューター名_出力月”のファイル名で保存されます。

また、“レポート出力ログ_ウィザード実行日”のファイル名でレポート出力実行状況をログファイルに記録します。

※ ‘3.3.4 レポート出力期間の指定’の“出力形態”で Excel 形式を指定した場合、レポート出力中はレポートクライアント上で他の操作をしないようにしてください。

レポート出力時に Microsoft Office などのアプリケーションを使用すると、異常終了する場合があります。

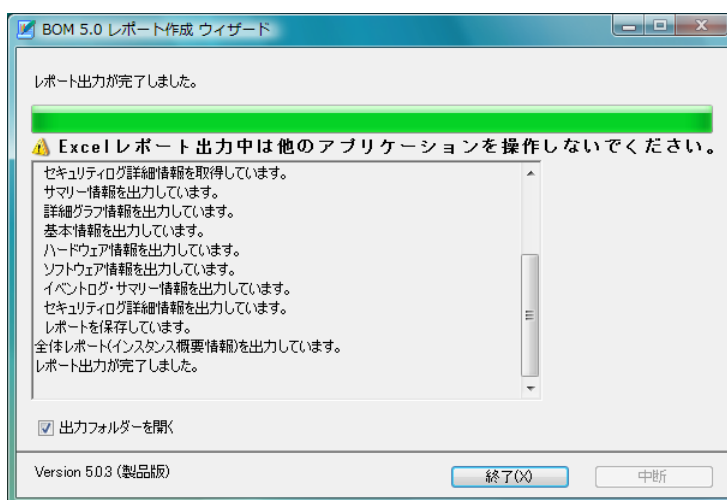
1. [中断]ボタン

[中断]ボタンをクリックすると、その時点でレポート出力処理を中断します。中断以降のレポートは出力されません。

ただし、複数のインスタンス ID を指定した場合において、既にレポート出力を完了してファイルが作成されている場合、そのレポートファイルは削除されません。必要に応じて削除してください。

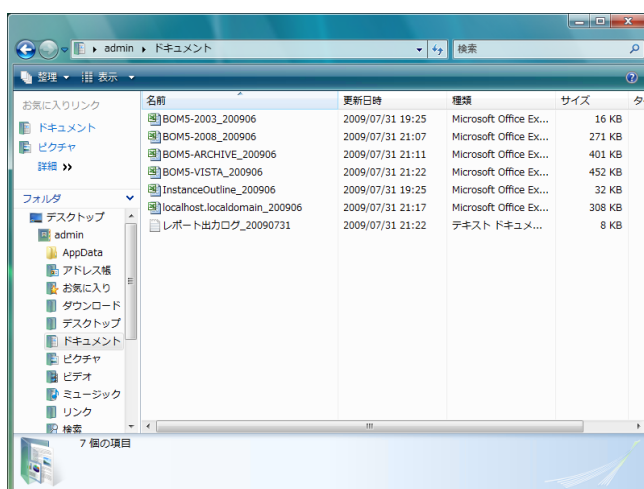
3.3.9 レポート完了

レポート出力が完了するとレポート完了画面が表示されます。



1. チェックボックス“出力フォルダーを開く”

チェックボックス“出力フォルダーを開く”のチェックが入っている場合、終了時に‘3.3.4 レポート出力期間の指定’の“出力フォルダー”で指定したフォルダーが開きます。



2. [終了]ボタン

[終了]ボタンをクリックすることで、ウィザードのすべての処理が完了します。

第4章 出力レポート

4.1 概要

本章では、レポート作成ウィザードによって出力されるレポートの内容について紹介します。

レポート種別は、各インスタンス毎にレポートする“インスタンスレポート”と、指定されたすべてのインスタンスの概要をまとめた“全体レポート”があります。

そして、レポートの出力形態は、レポート出力後にレポートの編集ができない“MHTML 形式”と、Microsoft Excel を使用して編集ができる“Excel 形式”の 2 つがあります。

※ それぞれの出力形態は同じ表示になるよう作成しておりますが、フォーマットの違いや閲覧するソフトウェアの機能差により、見ええに若干の差異が生じます。これは閲覧ソフトウェアに依存するための制約となります。

以下より、出力内容についてレポート種別毎に解説いたします。

4.1.1 インスタンスレポート

インスタンスレポートは、インスタンス(監視コンピューター)単位でレポートを出力する機能です。このレポートは複数のレポートシートから構成されます。

インスタンスレポート上に出力するレポートシートは、レポート作成ウィザードで指定します。詳細は‘3.3.6 レポート出力シートの指定’をご参照ください。

A. MHTML 形式

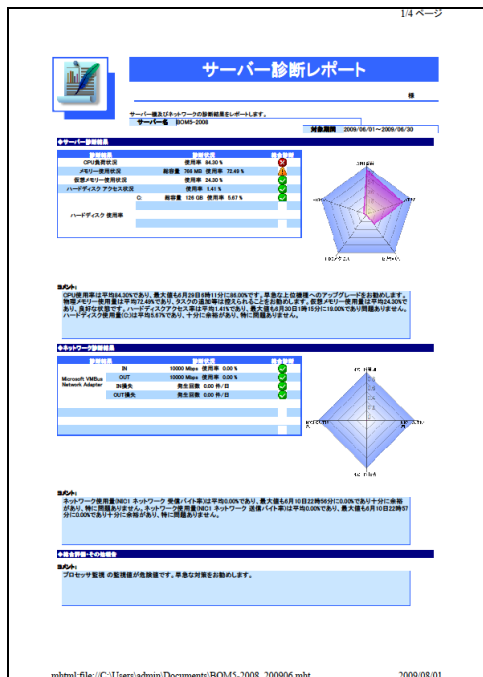
レポート出力形態を MHTML 形式にした場合は、Internet Explorer でインスタンスレポートを閲覧できます。



各レポートシートは、画面下部のタブ(シート名)をクリックすることで移動します。

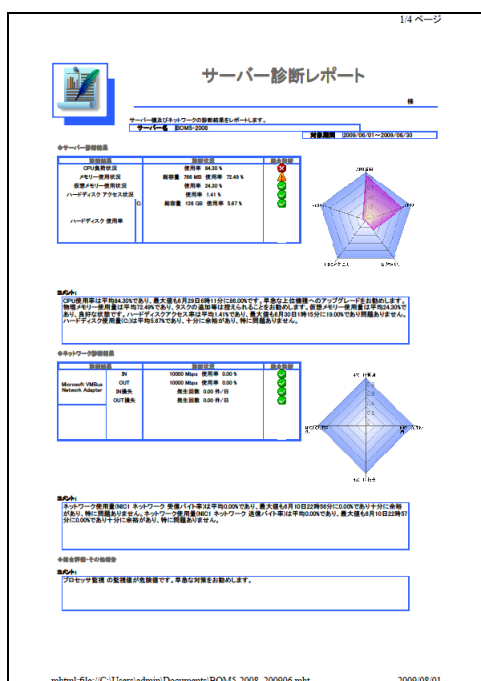


MHTML 形式のインスタンスレポートを印刷した場合は、以下の印刷サンプルのように出力されます。

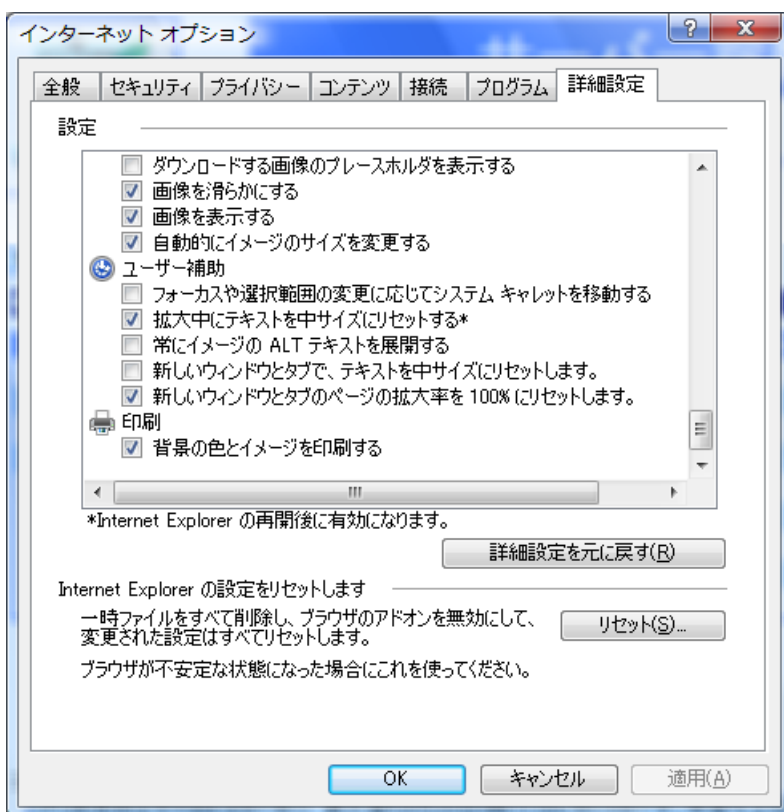


ヘッダーやフッターには、ページ番号や日付、URL の表記など、Internet Explorer の印刷レイアウトが使用されます。ヘッダーやフッターは Internet Explorer のページ設定にて変更できますので、必要に応じて設定を変更してください。

※ Internet Explorer では、既定で背景を印刷しないように設定されているため、既定のままをご利用いただいている場合には、以下の印刷サンプルのように背景色が印刷に反映されません。

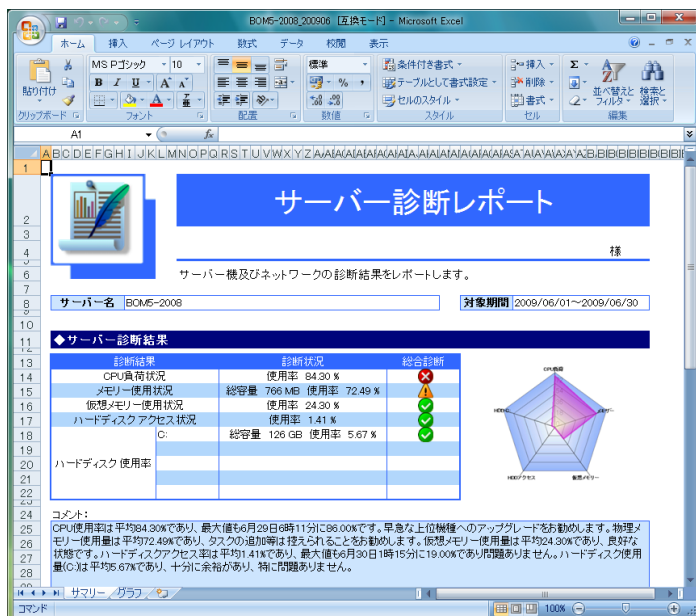


この場合、インターネットオプションの「詳細設定」タブよりチェックボックス“背景の色とイメージを印刷する”にチェックを入れることで、背景も印刷できるようになります。



B. Excel 形式

レポート出力形態を Excel 形式にした場合は、Microsoft Excel でインスタンスレポートを閲覧できます。

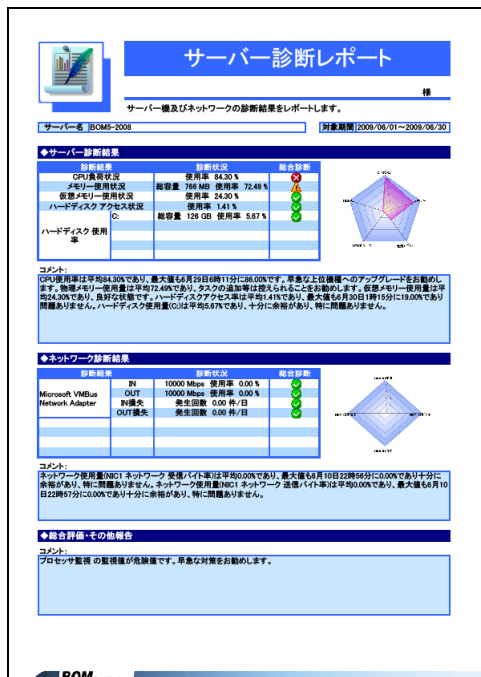


各レポートシートは、画面下部のタブ(シート名)をクリックすることで移動します。



レポート出力後の編集は Microsoft Excel で行います。

Excel 形式のインスタンスレポートを印刷した場合は、以下の印刷サンプルのように出力されます。



ヘッダーやフッターには、タイトルやページ番号など、Microsoft Excel の印刷レイアウトで指定したものが使用されます。既定では、レポートシート名、レポート対象月、フッターロゴ、およびページ番号を入力しています。

ヘッダーやフッターは Microsoft Excel のページ設定にて変更できますので、必要に応じて設定を変更してください。

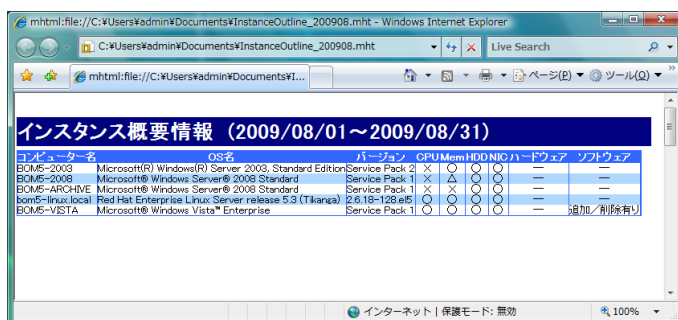
4.1.2 全体レポート

全体レポートは、出力を指定した全インスタンスの主要情報をレポートする機能です。

複数の監視コンピューターの概要を一覧で確認できます。

A. MHTML 形式

レポート出力形態を MHTML 形式にした場合は、Internet Explorer で全体レポートを閲覧できます。



MHTML 形式の全体レポートを印刷した場合は、以下の印刷サンプルのように出力されます。

11 ページ

インスタンス概要情報 (2009/08/01~2009/08/31)

コンピュータ名	OS名	バージョン	サービスパック	CPU	メモリ	HDD	NIC	ハードウェア	ソフトウェア
BOM5-2003	Microsoft(R) Windows(R) Server 2003, Standard Edition	Service Pack 2	—	×	○	○	○	—	—
BOM5-2008	Microsoft(R) Windows Server® 2008 Standard	Service Pack 1	—	×	△	○	○	—	—
BOM5-ARCHIVE	Microsoft® Windows Server® 2008 Standard	Service Pack 1	—	×	×	○	○	—	—
bom5-linux.local	Red Hat Enterprise Linux Server release 5.3 (Tikanga)	2.6.18-128.el5	—	○	○	○	○	—	—
BOM5-VISTA	Microsoft® Windows Vista® Enterprise	Service Pack 1	—	○	○	○	○	—	追加/削除有り

mhtml:file://C:/Users/admin/Documents/InstanceOutline_200908.mht 2009/08/02

ヘッダーやフッターには、ページ番号や日付、URL の表記など、Internet Explorer の印刷レイアウトが使用されます。ヘッダーやフッターは Internet Explorer のページ設定にて変更できますので、必要に応じて設定を変更してください。

※ Internet Explorer では、既定で背景を印刷しないように設定されているため、既定のままをご利用いただいている場合には、背景色が印刷に反映されません。‘4 .1 .1 A MHTML 形式’をご参照の上、背景を印刷するように設定を変更してください。

B. Excel 形式

レポート出力形態を Excel 形式にした場合は、Microsoft Excel で全体レポートを閲覧できます。

InstanceOutline_200908 [互換モード] - Microsoft Excel

コンピュータ名	OS名	バージョン	CPU	Mem	HDD	NIC	ハードウェア	ソフトウェア
BOM5-2003	Microsoft(R) Windows(R) Server 2003, Standard Edit	Service Pack 2	×	○	○	○	—	—
BOM5-2008	Microsoft(R) Windows Server® 2008 Standard	Service Pack 1	×	△	○	○	—	—
BOM5-ARCHIVE	Microsoft® Windows Server® 2008 Standard	Service Pack 1	×	×	○	○	—	—
bom5-linux.local	Red Hat Enterprise Linux Server release 5.3 (Tikanga)	2.6.18-128.el5	○	○	○	○	—	—
BOM5-VISTA	Microsoft® Windows Vista® Enterprise	Service Pack 1	○	○	○	○	—	追加/削除有り

Excel 形式の全体レポートを印刷した場合は、以下の印刷サンプルのように出力されます。

サーバ診断レポート 2009年1月

インストール概要情報 (2009/01/01~2009/01/31)

コンピュータ名	OS	バージョン	CPU	メモ	HDD	NIC	サーバ	ソフトウェア
BOM5-2008	Microsoft® Windows® Server 2003 Standard	Service Pack 2	△	△	○	○	---	---
BOM5-2008	Microsoft® Windows Server® 2008 Standard	Service Pack 1	△	△	○	○	---	---
BOM5-AP02010	Microsoft® Windows Server® 2008 Standard	Service Pack 1	△	△	○	○	---	---
non-Discovered Client OS release 8.3 Final		8.1.3-120408	○	○	○	○	---	---
BOM5-VISTA	Microsoft® Windows Vista™ Enterprise	Service Pack 1	△	△	○	○	---	---

BOM for Windows 1 / 1

ヘッダーやフッターには、タイトルやページ番号など、Microsoft Excel の印刷レイアウトで指定したものが使用されます。既定では、レポートシート名、レポート対象月、フッターロゴ、およびページ番号を入力しています。

ヘッダーやフッターは Microsoft Excel のページ設定にて変更できますので、必要に応じて設定を変更してください。

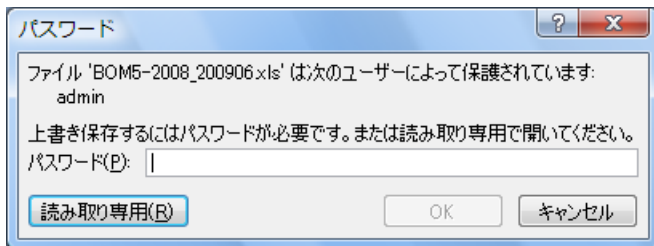
4.1.3 評価版の出力レポート

レポートオプションでは、評価版でも製品版と同様にレポートが作成できますが、出力されるレポートには以下の相違点があります。

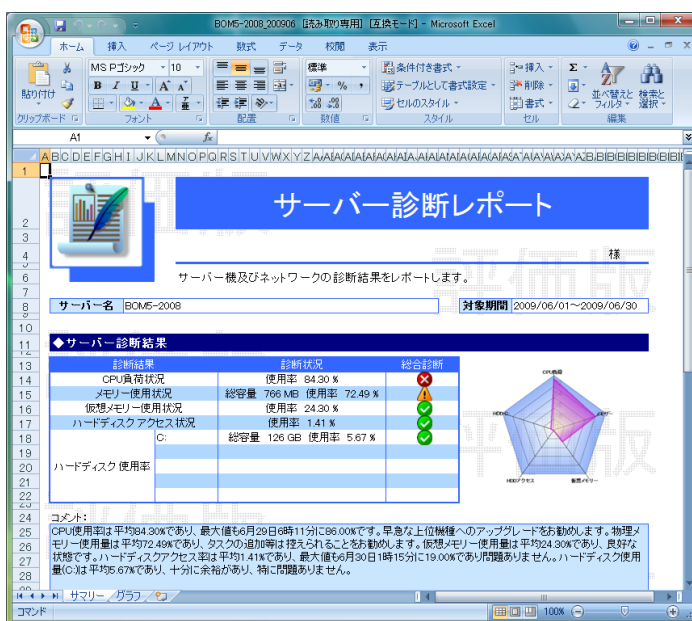
- 評価版では、「評価版」という記載が背景にあります。



- さらに、Excel 形式では評価版のシートを保護しています。ファイルを開くと、パスワードを要求するメッセージが表示されます。



[読み取り専用]ボタンをクリックし、読み取り専用モードで使用してください。



4.2 サマリー情報

レポートシート“サマリー情報”は、監視コンピューターの稼働状況を簡単にまとめたサマリーレポートです。

以下、それぞれの画面項目毎に解説いたします。

The screenshot shows a 'Server Diagnosis Report' interface. It includes a header with a logo (1), title (2), server name (3), and honorific (4). Below is a summary comment (5) and a period selection (7). The main content is divided into 'Server Diagnosis Results' (8) and 'Network Diagnosis Results' (12). Each section contains a table of metrics (9), a radar chart (10 for server, 14 for network), and a comment (11 for server, 15 for network). A final 'Overall Evaluation' section (16) includes a title and a comment (17).

① ロゴ

サマリー用のロゴ画像を表示する領域です。このロゴ画像は別の画像に変更することができます。この項目のカスタマイズ方法については‘5.1 詳細設定’をご参照ください。

② タイトル

レポートのタイトルを表示します。

③ 宛先名称

宛先名称(顧客名)を表示する領域です。既定値は空白です。宛先名称は事前に指定することができます。

この項目のカスタマイズ方法については‘5.2 宛先情報の編集’をご参照ください。

④ 敬称

宛先(顧客)の敬称を表示する領域です。既定値は“様”です。敬称は変更することができます。

この項目のカスタマイズ方法については‘5.2 宛先情報の編集’をご参照ください。

⑤ 全体概要コメント

定型文のコメントを表示します。

⑥ サーバー名

インスタンスレポートの対象コンピューター名を表示します。

⑦ 対象期間

レポート作成ウィザードの“レポート出力期間の指定”で指定した出力期間の開始日と終了日を表示する領域です。

この項目の指定方法については‘3.3.4 レポート出力期間の指定’をご参照ください。

⑧ 診断結果タイトル

コンピューターリソースの診断結果のタイトルを表示します。

⑨ 診断結果

コンピューターリソースの診断結果を表示します。

ステータスは、監視コンピューター上の監視項目から情報を取得し、判定基準に沿って決定します。

監視コンピューターがWindowsの場合、“CPU負荷状況”、“メモリー使用状況”、“仮想メモリー使用状況”、“ハードディスクアクセス状況”、“ハードディスク使用率”の5種類の項目についてレポートします。

また、“ハードディスク使用率”に表示されるハードディスク(論理ボリューム)は最大5項目までです。

なお、監視コンピューターがLinuxの場合には、先に挙げた5種類の項目のうち“仮想メモリー使用状況”がなく、代わりに“スワップ使用状況”をレポートします。

診断結果	診断状況	総合診断
CPU負荷状況	使用率 0.05 %	✓
メモリー使用状況	総容量 503 MB 使用率 30.70 %	✓
スワップ使用状況	使用率 0.01 %	✓
ハードディスク アクセス状況	hda 使用頻度 0.17 回/秒	✓
/dev/hda1	総容量 98 MB 使用率 17.00 %	✓
ハードディスク 使用率		

※ Linux オプションにおいて、複数のディスクアクセス監視を作成している場合、“ハードディスクアクセス状況”にて表示されるハードディスクは、アルファベット順で最初の1つ目のみ報告します。

⑩ 診断結果チャート

コンピューターリソースの診断結果をチャートにまとめて表示します。

⑪ 診断結果コメント

コンピューターリソースの診断結果を元にコメントを自動生成します。

⑫ ネットワーク診断タイトル

ネットワークトラフィック診断のタイトルを表示します。

⑬ ネットワーク診断結果

ネットワークトラフィックの診断結果を、最大 8 項目まで表示します。

受信バイト、送信バイト、受信エラー、送信エラーの 4 種類についてレポートする事ができます。

※ レポート用テンプレートでは、NIC2 つ分について、先に挙げた 4 種類をレポートするように構成されています。

※ ネットワーク診断結果で表示される“診断状況”は、“ネットワーク使用率”と“ネットワーク使用量”の 2 種類があります。
ネットワーク診断結果では、監視項目で取得した“ネットワーク使用量”を元に、監視コンピューター上の NIC の通信速度情報を取得して“ネットワーク使用率”を算出してレポートします。

そして、NIC の通信速度情報を取得できなかった場合には、“ネットワーク使用量”をそのままレポートします。

⑭ ネットワーク診断結果チャート

ネットワークトラフィックの診断結果をチャートにまとめて表示します。

⑮ ネットワーク診断結果コメント

ネットワークトラフィックの診断結果を元にコメントを自動生成します。

⑯ 総合評価タイトル

コンピューター総合評価のタイトルを表示します。

⑰ 総合評価コメント

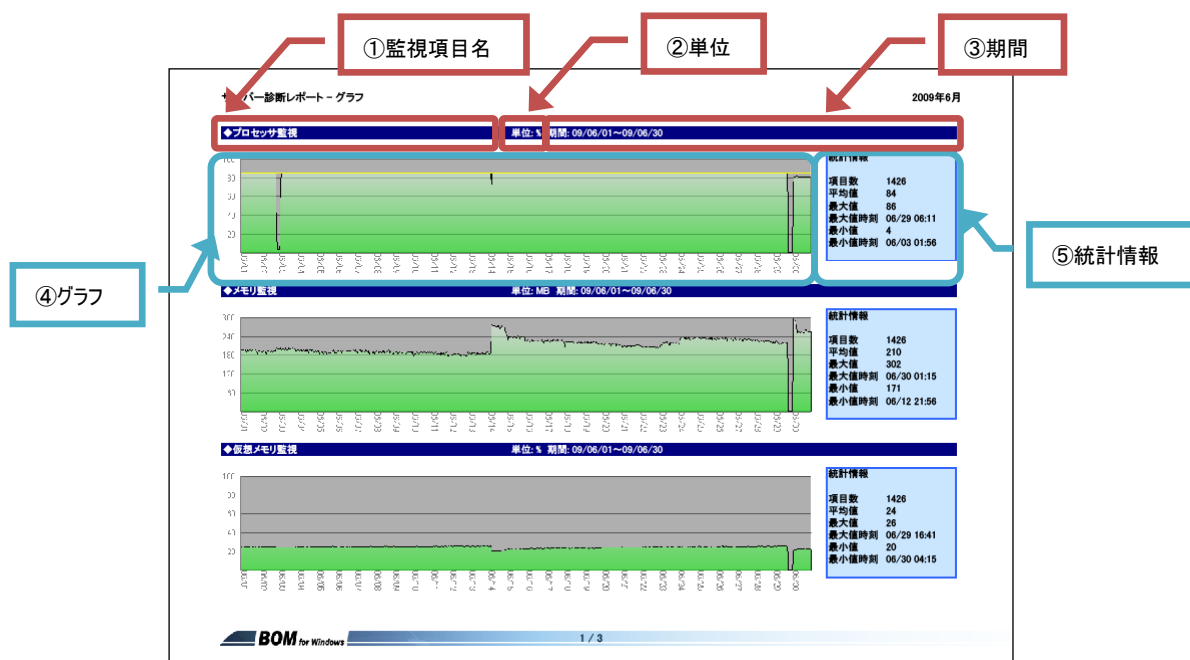
コンピューターリソースの診断結果とネットワークトラフィック診断結果を合わせたコンピューター総合評価を、それぞれの診断結果を元にコメントを自動生成します。

4.3 詳細グラフ情報

レポートシート“詳細グラフ情報”は、各監視項目毎に稼働状況をグラフにまとめたレポートです。

インスタンス上の監視項目をすべてグラフにて表示します。

以下、それぞれの画面項目毎に解説いたします。



① 監視項目名

BOM5.0の監視項目で設定している監視項目名を表示します。

② 単位

BOM5.0の監視項目で設定している単位を表示します。

③ 期間

レポート作成ウィザードの“レポート出力期間の指定”で指定した出力期間の開始日と終了日を表示する領域です。

この項目の指定方法については‘3.3.4 レポート出力期間の指定’をご参照ください。

④ グラフ

BOM5.0の監視項目で取得したデータをグラフで表示します。

グラフの表示に使われる値は、サンプリング期間毎に、監視データの平均値を算出しています。そのため、最大値、最小値などがグラフ上に表示されるとは限りません。

この項目のカスタマイズ方法については‘5.1 詳細設定’をご参照ください。

※ “詳細グラフサンプリング間隔”の値を小さくすることで、より詳細なグラフにすることも可能です。

⑤ 統計情報

BOM5.0の監視項目で取得したデータの統計情報を表示します。

レポート期間内の“項目数”(ログの総数)、“平均値”、“最大値”、“最大値時刻”(最大値を記録した時刻)、“最小値”、“最小値時刻”(最小値を記録した時刻)の7種類の項目について表示します。

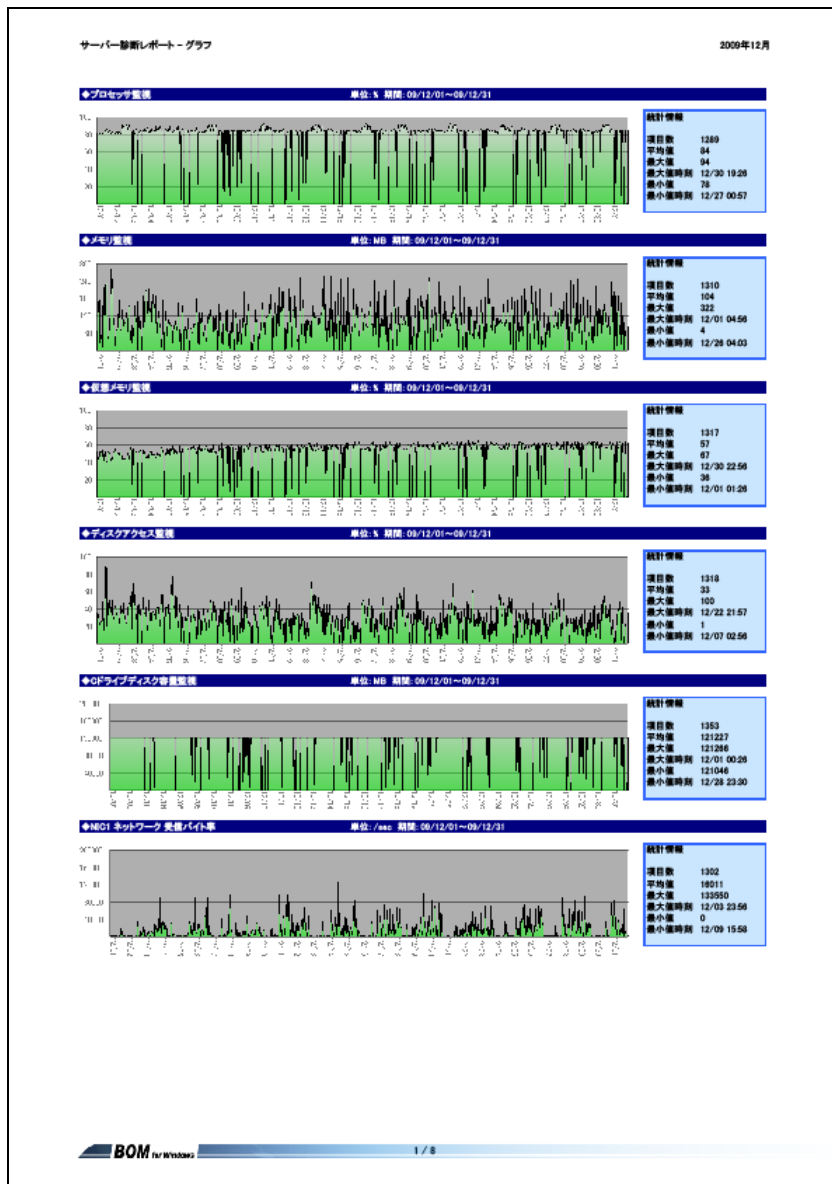
“最大値”、“最小値”が複数あった場合には、“最大値時刻”、“最小値時刻”は最新日時を表示します。

※ “サービス監視”、“ポート監視”および“Linux サービスポート監視”は、ステータスをグラフ化するために、以下の値を設定しています。

監視項目	値	値の意味
サービス監視	1	停止
	2	起動処理中
	3	停止処理中
	4	開始
	5	再起動処理中
	6	一時停止処理中
	7	一時停止
ポート監視	1	ポートは閉鎖状態
	4	ポートは開放状態
Linux サービスポート監視	1	ポートは閉鎖状態
	4	ポートは開放状態

BOM5.0 SR3より、Excel形式で出力したレポートシート“詳細グラフ情報”の印刷方向を、“横向き”だけではなく“縦向き”にも変更できるようになりました。

印刷方向の指定方法については‘5.1 詳細設定’をご参照ください。



4.4 システム基本情報

レポートシート“システム基本情報”は、監視コンピューターの OS 名など、システムの基本情報をまとめたレポートです。

以下、それぞれの画面項目毎に解説いたします。

項目名	値
コンピューター名	BOMS-2008
OS名	Microsoft® Windows Server® 2008 Standard
バージョン	Service Pack 1
システム製造元	Microsoft Corporation
システムモデル	Virtual Machine
システムの種類	X86-based PC
プロセッサ	Intel(R) Core(TM)2 Quad CPU Q9550 @ 2.83GHz
組織名	
利用者	Windows ユーザー
シリアル	55041-222-1219017-76052
物理メモリー容量	785036 KB
仮想メモリー容量	1861480 KB

①見出し

②基本情報

サーバー診断レポート - 基本情報 2009年6月

BOM for Windows 1 / 1

① 見出し

レポートシートの見出しを表示します。

② 基本情報

以下の表にある項目毎に、監視コンピューターの情報を取得して表示します。

項目名	説明
コンピューター名	監視コンピューターのコンピューター名を表示します。
OS 名	監視コンピューターの OS 名を表示します。
バージョン	監視コンピューターが Windows の場合にはサービスパックのバージョンを、Linux の場合にはカーネルのバージョンを表示します。
システム製造元	監視コンピューターのシステム(ハードウェア)製造元を表示します。
システムモデル	監視コンピューターのシステム(ハードウェア)名を表示します。
システムの種類	監視コンピューターのシステム(ハードウェア)の種類を表示します。
プロセッサ	監視コンピューターに搭載されているプロセッサの種類を表示します。
組織名	監視コンピューターに登録されている組織名を表示します。 監視コンピューターが Linux の場合には、この項目は表示されません。
利用者	監視コンピューターに登録されている利用者名を表示します。 監視コンピューターが Linux の場合には、この項目は表示されません。
シリアル	監視コンピューターに登録されている OS のシリアルを表示します。
物理メモリー容量	監視コンピューターに搭載されている物理メモリーの容量を表示します。
仮想メモリー容量	監視コンピューターに設定されている仮想メモリーの容量を表示します。

※ それぞれの項目は、情報の取得に失敗した場合には表示されません。

4.5 ハードウェア情報

レポートシート"ハードウェア情報"は、監視コンピューターに搭載されているハードウェアを一覧にまとめたレポートです。

以下、それぞれの画面項目毎に解説いたします。

サーバー診断レポート - ハードウェア情報
2010年1月

ハードウェア情報

項目	カテゴリ	ハードウェア名	詳細情報
1	マザーボード	マザーボード	
2	プロセッサ	Intel(R) Core(TM)2 Quad CPU Q9550 @ 2.83GHz	x64 Family 6 Model 23 Stepping 10
3	メモリー	メモリー デバイス	
4	メモリー	メモリー配列	
5	キャッシュ メモリー	キャッシュ メモリー	
6	IDE ATA/ATAPI コントローラ	ATA Channel 0	IDE チャンネル
7	IDE ATA/ATAPI コントローラ	ATA Channel 1	IDE チャンネル
8	IDE ATA/ATAPI コントローラ	Intel(R) 82371AB/EB PCI Bus Master IDE Controller	
9	SOSI と RAID コントローラ	Microsoft iSCSI Initiator	
10	SOSI と RAID コントローラ	記憶域ニポートドライバ	
11	ディスクドライブ	ディスク #0, パーティション #0	インストールできるファイル システム
12	ディスクドライブ	ディスク #1, パーティション #0	インストールできるファイル システム
13	ディスクドライブ	\\.\PHYSICALDRIVE0	ディスクドライブ
14	ディスクドライブ	\\.\PHYSICALDRIVE1	ディスクドライブ
15	DVD/CD-ROMドライブ	Mft Virtual CD-ROM ATA Device	CD-ROMドライブ
16	論理ドライブ	A:	3 1/2 インチフロッピードライブ
17	論理ドライブ	O:	ローカル固定ディスク
18	論理ドライブ	D:	CD-ROM ディスク
19	論理ドライブ	E:	ローカル固定ディスク
20	システム	バス	
21	プラグ アンド プレイ デバイス	DMA コントローラ	
22	プラグ アンド プレイ デバイス	システム スピーカー	
23	プラグ アンド プレイ デバイス	システム タイマ	
24	プラグ アンド プレイ デバイス	システム ボード	
25	プラグ アンド プレイ デバイス	プログラム可能積り込みコントローラ	
26	プラグ アンド プレイ デバイス	マザーボード リソース	
27	プラグ アンド プレイ デバイス	数値データ プロセッサ	
28	プラグ アンド プレイ デバイス	Ancillary Function Driver for Winsock	
29	プラグ アンド プレイ デバイス	Beep	
30	プラグ アンド プレイ デバイス	Common Log (GLFS)	
31	プラグ アンド プレイ デバイス	Crtdisk Filter Driver	
32	プラグ アンド プレイ デバイス	Disk VMBUS Acceleration Filter Driver	
33	プラグ アンド プレイ デバイス	Dynamic Volume Manager	
34	プラグ アンド プレイ デバイス	HTTP	
35	プラグ アンド プレイ デバイス	ISA/EISA Class Driver	
36	プラグ アンド プレイ デバイス	Kernel Mode Driver Frameworks	
37	プラグ アンド プレイ デバイス	KSecDD	
38	プラグ アンド プレイ デバイス	Link-Layer Topology Discovery Mapper	
39	プラグ アンド プレイ デバイス	I/O Driver	
40	プラグ アンド プレイ デバイス	Link-Layer Topology Discovery	
41	プラグ アンド プレイ デバイス	Mount Point Manager	
42	プラグ アンド プレイ デバイス	NDIS System Driver	
43	プラグ アンド プレイ デバイス	NDProxy	
44	プラグ アンド プレイ デバイス	NETBT	
45	プラグ アンド プレイ デバイス	NetIO レガシ TDI サポートドライバ	
46	プラグ アンド プレイ デバイス	NSI proxy service	
47	プラグ アンド プレイ デバイス	Null	
48	プラグ アンド プレイ デバイス	PEAUTH	
49	プラグ アンド プレイ デバイス	QoS パケット スケジューラ	
50	プラグ アンド プレイ デバイス	RDP Encoder Mirror Driver	
51	プラグ アンド プレイ デバイス	RDP Winstation Driver	
52	プラグ アンド プレイ デバイス	RDPDD	
53	プラグ アンド プレイ デバイス	Remote Access Auto Connection	
54	プラグ アンド プレイ デバイス	Remote Access IPv6 ARP Driver	
55	プラグ アンド プレイ デバイス	Security Driver	
56	プラグ アンド プレイ デバイス	Security Processor Loader Driver	
57	プラグ アンド プレイ デバイス	TOP/IP Registry Compatibility	
58	プラグ アンド プレイ デバイス	TOP/IP プロトコルドライバ	
59	プラグ アンド プレイ デバイス	TDTOP	
60	プラグ アンド プレイ デバイス	Terminal Services Security Filter	
61	プラグ アンド プレイ デバイス	VgaSave	
62	プラグ アンド プレイ デバイス	Intel 82371AB/EB PCI to ISA bridge (ISA mode)	
63	プラグ アンド プレイ デバイス	Intel 82443BX Pentium(R) II Processor to PCI Bridge	
64	プラグ アンド プレイ デバイス	Intel(R) 82371AB/EB PCI Bus Master IDE Controller	Intel Processor
65	プラグ アンド プレイ デバイス	Intel(R) Core(TM)2 Quad CPU Q9550 @ 2.83GHz	
66	プラグ アンド プレイ デバイス	isatap.I953FECE-C114-4DF0-8E07-163CF2058E4A	Microsoft ISATAP Adapter
67	プラグ アンド プレイ デバイス	isatap.ha.sav-tech.co.jp	Microsoft ISATAP Adapter

②ハードウェア情報
1 / 2

① 見出し

レポートシートの見出しを表示します。

② ハードウェア情報

監視コンピューターに搭載されているハードウェアを一覧に表示します。

出力期間内に、追加または削除されたハードウェアは、背景色を変更して表示します。

- 追加された場合の背景色:
- 削除された場合の背景色:

4.6 ソフトウェア情報

レポートシート“ソフトウェア情報”は、監視コンピューターに導入されているソフトウェアを一覧にまとめたレポートです。

この一覧には、監視コンピューターの OS 上で管理されているアプリケーションのみをレポートします。

以下、それぞれの画面項目毎に解説いたします。

サーバー診断レポート - ソフトウェア詳細情報
2010年2月

ソフトウェア情報

No.	名前	ベンダー	バージョン	インストール日時	
1	BOM for Windows 5.0 SR3	セイ・サブシステム株式会社	5.0.30	2009/09/30	削除
2	Hotfix for Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 (KB953595)	Microsoft Corporation	1		削除
3	Microsoft .NET Framework 3.5 Language Pack SP1 - jpn	Microsoft Corporation	3.5.30729	2010/01/23	削除
4	Microsoft .NET Framework 3.5 Language Pack SP1 - 日本語	Microsoft Corporation			削除
5	Microsoft .NET Framework 3.5 SP1	Microsoft Corporation			削除
6	Microsoft .NET Framework 3.5 SP1	Microsoft Corporation	3.5.30729	2010/01/23	削除
7	Microsoft Application Error Reporting	Microsoft Corporation	12.0.6012.5000	2010/02/07	追加
8	Microsoft Office Access MUI (Japanese) 2007	Microsoft Corporation	12.0.4518.1014	2010/01/17	
9	Microsoft Office Excel MUI (Japanese) 2007	Microsoft Corporation	12.0.4518.1014	2010/01/17	
10	Microsoft Office IME (Japanese) 2007	Microsoft Corporation	12.0.4518.1014	2010/01/17	
11	Microsoft Office Outlook MUI (Japanese) 2007	Microsoft Corporation	12.0.4518.1014	2010/01/17	
12	Microsoft Office PowerPoint MUI (Japanese) 2007	Microsoft Corporation	12.0.4518.1014	2010/01/17	
13	Microsoft Office Professional 2007	Microsoft Corporation	12.0.4518.1014	2010/01/17	
14	Microsoft Office Professional 2007	Microsoft Corporation	12.0.4518.1014	2010/01/17	
15	Microsoft Office Proof (English) 2007	Microsoft Corporation	12.0.4518.1014	2010/01/17	
16	Microsoft Office Proof (Japanese) 2007	Microsoft Corporation	12.0.4518.1014	2010/01/17	
17	Microsoft Office Proofing (Japanese) 2007	Microsoft Corporation	12.0.4518.1014	2010/01/17	
18	Microsoft Office Publisher MUI (Japanese) 2007	Microsoft Corporation	12.0.4518.1014	2010/01/17	
19	Microsoft Office Shared MUI (Japanese) 2007	Microsoft Corporation	12.0.4518.1014	2010/01/17	
20	Microsoft Office Word MUI (Japanese) 2007	Microsoft Corporation	12.0.4518.1014	2010/01/17	
21	Microsoft SQL Server 2008	Microsoft Corporation			追加
22	Microsoft SQL Server 2008 Browser	Microsoft Corporation	10.0.1800.22	2010/02/07	追加
23	Microsoft SQL Server 2008 Common Files	Microsoft Corporation	10.0.1800.22	2010/02/07	追加
24	Microsoft SQL Server 2008 Database Engine Services	Microsoft Corporation	10.0.1800.22	2010/02/07	追加
25	Microsoft SQL Server 2008 Database Engine Shared	Microsoft Corporation	10.0.1800.22	2010/02/07	追加
26	Microsoft SQL Server 2008 Native Client	Microsoft Corporation	10.0.1800.22	2010/02/07	追加
27	Microsoft SQL Server 2008 RCU Driver	Microsoft Corporation	10.0.1800.22	2010/02/07	追加
28	Microsoft SQL Server 2008 セットアップ サポート ファイル (英語)	Microsoft Corporation	10.0.1800.22	2010/02/07	追加
29	Microsoft SQL Server VSS Writer	Microsoft Corporation	10.0.1800.22	2010/02/07	追加
30	SQL Server Customer Experience Improvement Program	Microsoft Corporation	10.0.1800.22	2010/02/07	追加

②ソフトウェア情報

①見出し

BOM for Windows 1 / 1

① 見出し

レポートシートの見出しを表示します。

② ソフトウェア情報

監視コンピューターに導入されているソフトウェアを一覧に表示します。

出力期間内に、追加または削除されたソフトウェアは、背景色を変更して表示します。

● 追加された場合の背景色: 

● 削除された場合の背景色: 

4.7 イベントログ・サマリー

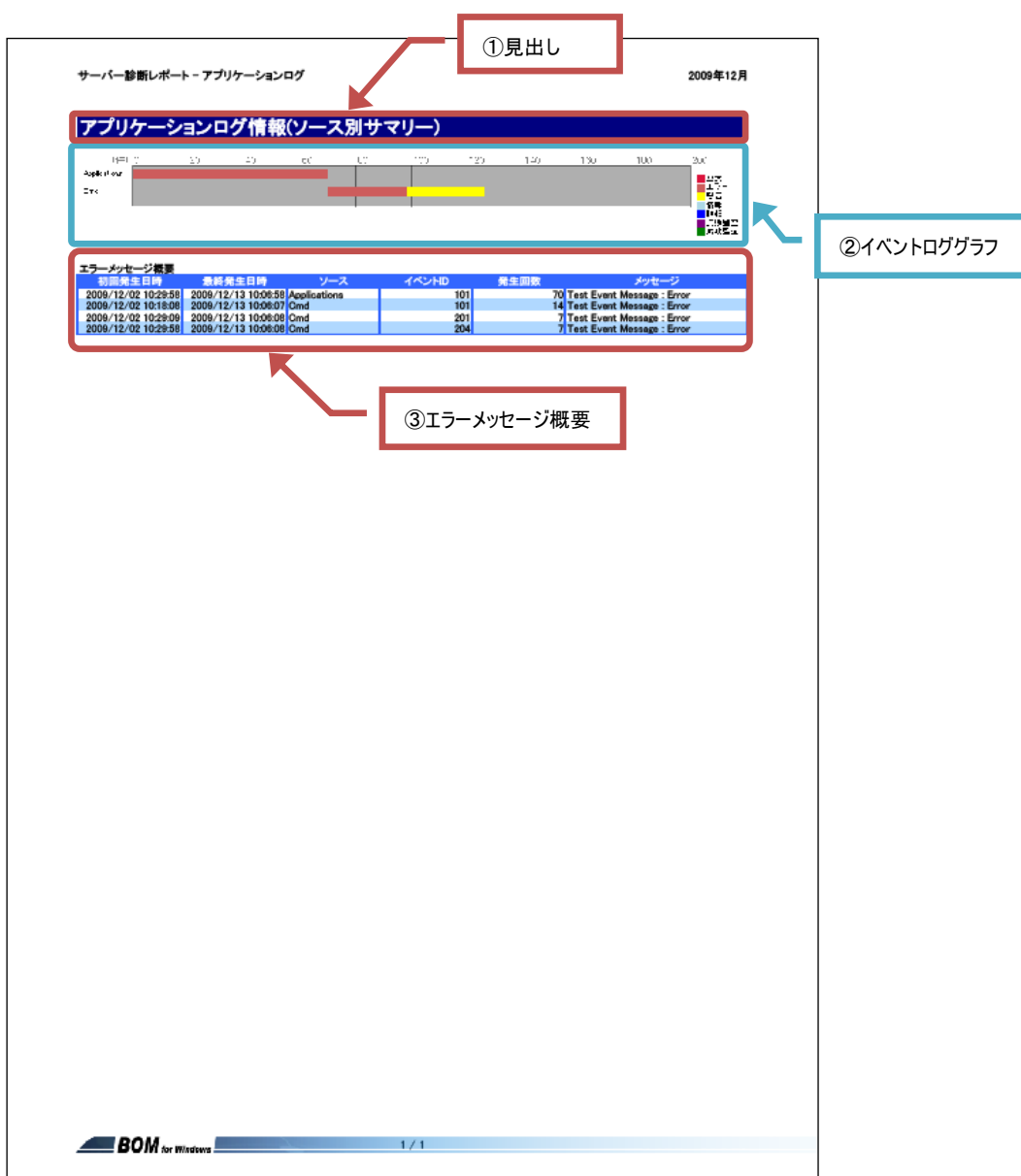
レポートシート“イベントログ・サマリー”は、監視コンピューターのイベントログ監視の結果を簡単にまとめたサマリーレポートです。

イベントログファイル毎にレポートシートを作成します。

監視コンピューターが Linux の場合、レポートシート“イベントログ・サマリー”は、テキストログ監視の結果をレポートします。

なお、Linux オプションの仕様で、メッセージの種類がすべて“情報”として記録されておりますので、重要メッセージは表示されません。

以下、それぞれの画面項目毎に解説いたします。



① 見出し

レポートシートの見出しを表示します。

② イベントロググラフ

メッセージの種類毎に件数を報告します。

③ エラーメッセージ概要

メッセージの種類が“重大”、“エラー”、または“失敗の監査”であれば、同一のイベントソース、イベント ID について件数を集計し、集計した同類のメッセージ毎に、以下の表にある項目を表示します。

項目名	説明
初回発生日時	出力期間内で最初に記録された同類メッセージ(同一のイベントソース、イベントIDで、記録時間や引数が異なるメッセージ)の記録日時を表示します。
最終発生日時	出力期間内で最後に記録された同類メッセージの記録日時を表示します。
ソース	同類メッセージとして集計されたイベントソースを表示します。
イベントID	同類メッセージとして集計されたイベントIDを表示します。
発生回数	出力期間内で同類メッセージが記録された回数を表示します。
メッセージ	出力期間内で最初に記録された同類メッセージの説明(イベントログ本文)を表示します。

4.8 セキュリティログ詳細

レポートシート“セキュリティログ詳細”は、監視コンピューターのセキュリティログ監視の結果をまとめたレポートです。

セキュリティログを“ログオン・ログオフ”、“ファイルアクセス”、“プロセス起動・終了”、“管理者操作”、“その他”の大項目に分類し、それぞれの分類毎にログを集計して、集計した同類のメッセージ毎に表示します。

以下、それぞれの画面項目毎に解説いたします。

①見出し

②ログオン・ログオフログ

③ファイルアクセスログ

④プロセス起動・終了ログ

⑤管理者操作ログ

⑥その他のログ

サーバー診断レポート - セキュリティログ 2009年8月

セキュリティログ詳細

ログオン・ログオフログ

初回発生日時	最終発生日時	サーバー	ユーザー	操作	回数
2009/08/01 09:30:00	2009/08/14 14:10:00	BOMS-2003	BOMS-2003\Administrator	ログオンの成功	38
2009/08/13 12:32:59	2009/08/14 22:20:01	BOMS-2003	NT AUTHORITY\SYSTEM	ログオンの失敗	16

ファイルアクセスログ

初回発生日時	最終発生日時	サーバー	ユーザー	操作	回数
2009/08/13 22:19:01	2009/08/14 22:27:59	BOMS-2003	BOMS-2003\Administrator	オブジェクトのオープン	1389
2009/08/14 22:13:02	2009/08/14 22:19:08	BOMS-2003	BOMS-2003\Administrator	オブジェクトのオープン	50
2009/08/14 22:13:03	2009/08/14 22:17:00	BOMS-2003	BOMS-2003\Administrator	削除されたオブジェクト	21
2009/08/14 00:56:56	2009/08/14 22:20:03	BOMS-2003	BOMS-2003\Administrator	オブジェクトのオープン	19
2009/08/13 14:10:01	2009/08/14 14:10:01	BOMS-2003	NT AUTHORITY\SYSTEM	オブジェクトのオープン	8
2009/08/14 00:56:06	2009/08/14 22:20:03	BOMS-2003	BOMS-2003\User1	オブジェクトのオープン	7
2009/08/14 00:56:05	2009/08/14 22:20:03	BOMS-2003	BOMS-2003\User0	オブジェクトのオープン	7
2009/08/14 00:56:55	2009/08/14 22:20:03	BOMS-2003	BOMS-2003\User7	オブジェクトのオープン	7
2009/08/14 00:56:56	2009/08/14 22:20:04	BOMS-2003	BOMS-2003\User6	オブジェクトのオープン	7
2009/08/14 00:56:56	2009/08/14 22:20:03	BOMS-2003	BOMS-2003\User5	オブジェクトのオープン	7
2009/08/14 00:56:59	2009/08/14 22:20:03	BOMS-2003	BOMS-2003\User9	オブジェクトのオープン	7
2009/08/14 00:56:55	2009/08/14 22:20:04	BOMS-2003	BOMS-2003>User8	オブジェクトのオープン	7
2009/08/14 00:56:04	2009/08/14 22:20:03	BOMS-2003	BOMS-2003>User2	オブジェクトのオープン	7
2009/08/14 00:56:04	2009/08/14 22:20:04	BOMS-2003	BOMS-2003>User3	オブジェクトのオープン	7
2009/08/14 00:56:04	2009/08/14 22:20:04	BOMS-2003	BOMS-2003>User4	オブジェクトのオープン	7

プロセス起動・終了ログ

初回発生日時	最終発生日時	サーバー	ユーザー	操作	回数
--------	--------	------	------	----	----

管理者操作ログ

初回発生日時	最終発生日時	サーバー	ユーザー	操作	回数
2009/08/14 22:18:04	2009/08/14 22:19:01	BOMS-2003	BOMS-2003\Administrator	セキュリティが有効なローカルグループメンバーが追加されました	10
2009/08/13 12:12:03	2009/08/13 12:15:08	BOMS-2003	BOMS-2003\Administrator	監査ポリシーの変更	10
2009/08/14 22:13:02	2009/08/14 22:16:03	BOMS-2003	BOMS-2003\Administrator	セキュリティが有効なローカルグループメンバーが削除されました	10
2009/08/14 22:18:02	2009/08/14 22:19:01	BOMS-2003	BOMS-2003\Administrator	セキュリティが有効なグローバルグループメンバーが追加されました	10
2009/08/14 22:18:02	2009/08/14 22:19:01	BOMS-2003	BOMS-2003\Administrator	ユーザーアカウントの無効化	10
2009/08/14 22:18:02	2009/08/14 22:19:01	BOMS-2003	BOMS-2003\Administrator	ユーザーアカウントの作成	10
2009/08/14 22:18:02	2009/08/14 22:19:01	BOMS-2003	BOMS-2003\Administrator	ユーザーアカウントパスワードの設定	10
2009/08/14 22:13:03	2009/08/14 22:16:03	BOMS-2003	BOMS-2003\Administrator	ユーザーアカウントの削除	10
2009/08/14 22:13:02	2009/08/14 22:16:03	BOMS-2003	BOMS-2003\Administrator	セキュリティが有効なグローバルグループメンバーが削除されました	10

その他のログ

初回発生日時	最終発生日時	サーバー	ユーザー	操作	回数
--------	--------	------	------	----	----

BOM for Windows 1 / 1

① 見出し

レポートシートの見出しを表示します。

② ログオン・ログオフログ

ログオン・ログオフ関連のセキュリティログを集計して表示します。

③ ファイルアクセスログ

ファイルアクセス関連のセキュリティログを集計して表示します。

④ プロセス起動・終了ログ

プロセス起動・終了関連のセキュリティログを集計して表示します。

⑤ 管理者操作ログ

管理者操作関連のセキュリティログを集計して表示します。

⑥ その他のログ

大分類“ログオン・ログオフ”、“ファイルアクセス”、“プロセス起動・終了”、“管理者操作”に該当しないセキュリティログを集計して表示します。

大項目の分類(大分類)については、セキュリティログのログ分類で分けています。分類方法は以下の表の通りです。

ログの大分類	セキュリティログの分類
ログオン・ログオフ	アカウント ログオン、ログオン/ログオフ、ログオン、ログオフ、特殊なログオン
ファイルアクセス	オブジェクト アクセス、SAM、ハンドル操作、ファイル システム、その他のオブジェクト アクセス イベント
プロセス起動・終了	詳細追跡、プロセス作成、プロセス終了
管理者操作	アカウント管理、ポリシーの変更、システム イベント、特権の使用、ポリシーの変更の監査、重要な特権の使用、セキュリティ状態の変更
その他	以上に挙げた分類以外

ログの大分類毎に、同一のイベントソース、イベントIDについて件数を集計し、集計した同類のメッセージ毎に、以下の表にある項目を表示します。

項目名	説明
初回発生日時	出力期間内で最初に記録された同類メッセージ(同一のイベントソース、イベントIDで、記録時間や引数が異なるメッセージ)の記録日時を表示します。
最終発生日時	出力期間内で最後に記録された同類メッセージの記録日時を表示します。
サーバー	出力期間内で最後に記録された同類メッセージのコンピューター名を表示します。
ユーザー	出力期間内で最後に記録された同類メッセージのユーザーIDを表示します。
操作	同類メッセージの概要を示します。
回数	出力期間内で同類メッセージが記録された回数を表示します。

※ 大分類に表示される集計は同類のメッセージ(同一のイベントソース、イベントIDで、記録時間や引数が異なるメッセージ)をまとめたものです。

ユーザーIDは引数として扱われますので、出力期間内で最初に記録された同類メッセージのユーザーIDを表示します。

※ “操作”が同じ名称でも、同類のメッセージではない場合があります。その場合には別々に集計されますので、表示上は同じ操作を2回レポートしているように見えますが、メッセージとしては異なるものを指しております。

“操作”の説明文はあくまでサマリーであり、2回レポートしているように見えるのは仕様です。

4.9 インスタンス概要

レポートシート“インスタンス概要”は、レポート出力対象のコンピューターを一覧表示し、基本情報をまとめたサマリーレポートです。
以下、それぞれの画面項目毎に解説いたします。

インスタンス概要情報 (2009/08/01~2009/08/31)						
BOM5-2003	Microsoft(R) Windows(R) Server 2003 Standard	Service Pack 2	x	o	o	---
BOM5-2008	Microsoft® Windows Server® 2008 Standard	Service Pack 1	x	△	o	---
BOM5-ARCHIVE	Microsoft® Windows Server® 2008 Standard	Service Pack 1	x	x	o	---
bom5-linuxjocul	Red Hat Enterprise Linux Server release 5.3 (TS-2.6.18-128.el5)		o	o	o	---
BOM5-VISTA	Microsoft® Windows Vista™ Enterprise	Service Pack 1	o	o	o	通知/削除済

① 見出し

レポートシートの見出しを表示します。

② インスタンス概要リスト

以下の表にある項目毎に、監視コンピューターの情報を取得して表示します。

項目名	説明
コンピューター名	監視コンピューターのコンピューター名を表示します。
OS 名	監視コンピューターの OS 名を表示します。
バージョン	監視コンピューターが Windows の場合にはサービスパックのバージョンを、Linux の場合にはカーネルのバージョンを表示します。
CPU	監視コンピューターの CPU 負荷状況を記号で表示します。
Mem	監視コンピューターのメモリー使用状況(物理メモリー、仮想メモリー)を記号で表示します。
HDD	監視コンピューターのハードディスク状況(使用率、アクセス状況)を記号で表示します。
NIC	監視コンピューターのネットワーク負荷状況を記号で表示します。
ハードウェア	ハードウェアの追加・削除状況を示します。
ソフトウェア	ソフトウェアの追加・削除状況を示します。

各項目にて表示される記号は、以下を示しています。

記号	説明
○	良好です
△	注意が必要です
×	増強を推奨します
—	監視項目がありません
空白	必要なレポートシートが選択されていません

※ 全項目をレポートするには、インスタンスレポートのレポートシート“サマリー情報”、“ハードウェア情報”、“ソフトウェア情報”を出力指定する必要があります。

選択していない場合には、情報が取得されず、グレースアウトの上、空白で表示されます。

第5章 設定

5.1 詳細設定

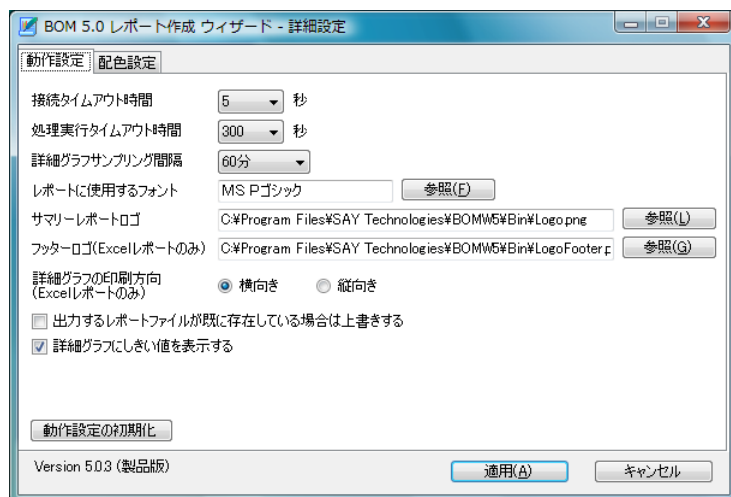
レポート作成ウィザードのウェルカム画面において、[詳細設定]ボタンをクリックすることで、詳細設定画面が表示されます。

詳細設定画面では、「動作設定」タブと「配色設定」タブがあり、それぞれのタブで設定を変更した場合には、[適用]ボタンをクリックすることで、設定がレポートクライアントに保存され、次回以降のレポート作成ウィザード使用時に自動入力されます。

また[キャンセル]ボタンをクリックすることで、変更した設定を破棄します。

5.1.1 動作設定

「動作設定」タブの内容について、順に解説いたします。



1. 接続タイムアウト時間

アーカイブサーバーと接続する時のタイムアウト時間を指定します。

プルダウンメニューから変更することができます。

2. 処理実行タイムアウト

アーカイブサーバーからデータを取得し、レポートを生成する際のタイムアウト時間を指定します。

プルダウンメニューから変更することができます。

3. 詳細グラフサンプリング間隔

詳細レポートのグラフをサンプリング(一定期間で区切り、区切った期間内で平均値を算出する)する間隔を指定します。

“詳細グラフサンプリング間隔”の値を小さくすることで、より詳細なグラフにすることが可能です。

ただし、“詳細グラフサンプリング間隔”の値を監視間隔より短くすると、未取得期間が間欠したグラフになりますのでご注意ください。

※ 詳細グラフの印刷サンプルについては‘4.3 詳細グラフ情報’をご参照ください。

4. レポートに使用するフォント

出力されるレポートにて使用するフォントを指定します。

5. サマリーレポートロゴ

サマリーレポートで表示するロゴの画像を指定します。

ロゴファイルのファイルフォーマットは png 形式のみサポートしております。ロゴ画像の既定サイズは 128×128(単位:ピクセル)で、サイズの異なる画像を指定した場合には、既定サイズに収まるよう、拡大または縮小されます。

※ サマリー情報の印刷サンプルについては '4.2 サマリー情報' をご参照ください。

6. フッターロゴ

“出力形態”を Excel 形式にした場合には、レポートを印刷する際に、フッターのロゴ画像を使用できます。

“出力形態”が MHTML 形式の場合には、フッターロゴの指定は無視されます。

ロゴファイルのファイルフォーマットは png 形式のみサポートしております。ロゴ画像の既定サイズは 1280×36(単位:ピクセル)で、サイズの異なる画像を指定した場合には、指定位置から上方向に原寸サイズで表示します。サイズの大きい画像を利用する場合にはご注意ください。

※ レポートの印刷サンプルについては '4.1.1 インスタンスレポート' をご参照ください。

7. 詳細グラフの印刷方向

“出力形態”を Excel 形式にした場合には、詳細レポートのグラフを印刷する際の印刷方向を指定できます。

ラジオボタン“縦向き”を選択した場合には印刷用紙を縦向きに、ラジオボタン“横向き”を選択した場合には印刷用紙を横向きに使用して印刷します。

“出力形態”が MHTML 形式の場合には、印刷方向の指定は無視され、常に縦向きに印刷されます。

※ 詳細グラフの印刷サンプルについては '4.3 詳細グラフ情報' をご参照ください。

8. チェックボックス“出力するレポートファイルが既に存在している場合には上書きする”

チェックボックス“出力するレポートファイルが既に存在している場合には上書きする”にチェックを入れると、“出力フォルダー”に出力ファイルと同名のファイルが既に存在する場合、上書きします。

チェックを外すと、“コンピューター名_出力月(数字)”のように、ファイル名を変更します。

※ “出力フォルダー”の指定方法は '3.3.4 レポート出力期間の指定' をご参照ください。

9. チェックボックス“詳細グラフにしきい値を表示する”

チェックボックス“詳細グラフにしきい値を表示する”にチェックを入れると、監視コンピューター上の監視項目からしきい値を取得し、レポートシート“詳細グラフ情報”の詳細グラフに表示します。

チェックを外すと、しきい値を詳細グラフに表示しません。

※ 詳細グラフの印刷サンプルについては '4.3 詳細グラフ情報' をご参照ください。

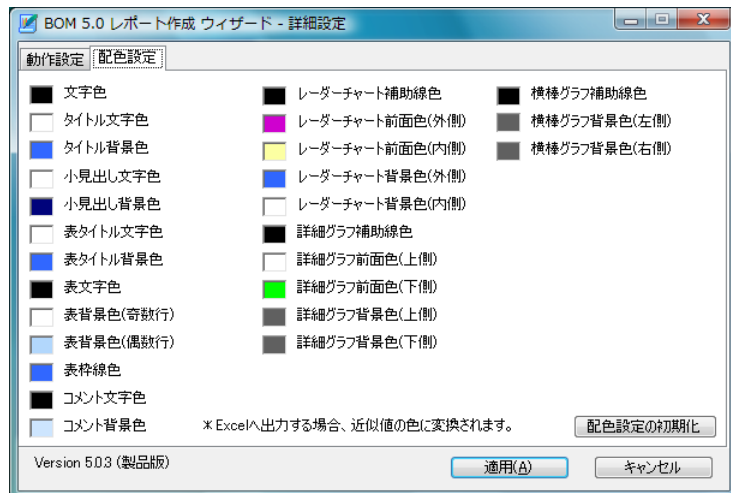
10. [動作設定の初期化]ボタン

[動作設定の初期化]ボタンをクリックすると、「動作設定」タブのすべての値を初期化します。

誤ってクリックした場合には、[キャンセル]ボタンをクリックし、初期化設定を破棄してください。

5.1.2 配色設定

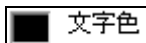
「配色設定」タブの内容について、順に解説いたします。



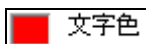
1. 文字色

レポート全般で使用する通常文の文字色を指定します。

変更前:



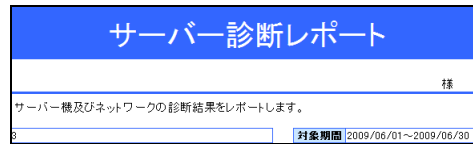
変更後:



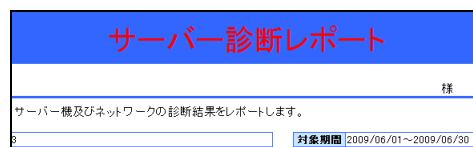
2. タイトル文字色

レポートのタイトルで使用する文字色を指定します。

変更前: タイトル文字色



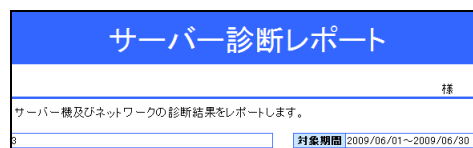
変更後: タイトル文字色



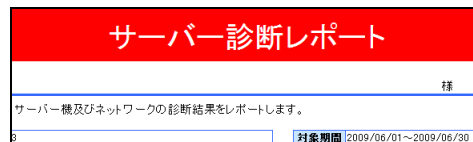
3. タイトル背景色

レポートのタイトルの背景色を指定します。

変更前: タイトル背景色



変更後: タイトル背景色



4. 小見出し文字色

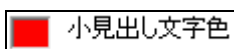
レポート内の見出しで使用する文字色を指定します。

変更前:



サーバー名 BOM5-2003		
◆サーバー診断結果		
診断結果	診断状況	総合診断
CPU負荷状況	使用率 82.36 %	⊗
メモリ使用状況	総容量 511 MB 使用率 56.35 %	⚠
仮想メモリ使用状況	使用率 14.18 %	✔
ハードディスクアクセス状況	使用率 3.26 %	✔
	C: 総容量 126 GB 使用率 4.11 %	✔
ハードディスク 使用率		

変更後:



サーバー名 BOM5-2003		
◆サーバー診断結果		
診断結果	診断状況	総合診断
CPU負荷状況	使用率 82.36 %	⊗
メモリ使用状況	総容量 511 MB 使用率 56.35 %	⚠
仮想メモリ使用状況	使用率 14.18 %	✔
ハードディスクアクセス状況	使用率 3.26 %	✔
	C: 総容量 126 GB 使用率 4.11 %	✔
ハードディスク 使用率		

5. 小見出し背景色

レポート内の見出しの背景色を指定します。

変更前:



サーバー名 BOM5-2003		
◆サーバー診断結果		
診断結果	診断状況	総合診断
CPU負荷状況	使用率 82.36 %	⊗
メモリ使用状況	総容量 511 MB 使用率 56.35 %	⚠
仮想メモリ使用状況	使用率 14.18 %	✔
ハードディスクアクセス状況	使用率 3.26 %	✔
	C: 総容量 126 GB 使用率 4.11 %	✔
ハードディスク 使用率		

変更後:

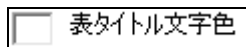


サーバー名 BOM5-2003		
◆サーバー診断結果		
診断結果	診断状況	総合診断
CPU負荷状況	使用率 82.36 %	⊗
メモリ使用状況	総容量 511 MB 使用率 56.35 %	⚠
仮想メモリ使用状況	使用率 14.18 %	✔
ハードディスクアクセス状況	使用率 3.26 %	✔
	C: 総容量 126 GB 使用率 4.11 %	✔
ハードディスク 使用率		

6. 表タイトル文字色

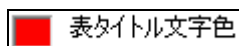
表(テーブル)で使用するタイトルの文字色を指定します。

変更前:



◆サーバー診断結果		
診断結果	診断状況	総合診断
CPU負荷状況	利用率 82.36 %	⊗
メモリ使用状況	総容量 511 MB 利用率 56.35 %	⚠
仮想メモリ使用状況	利用率 14.18 %	⊙
ハードディスクアクセス状況	利用率 3.26 %	⊙
	C: 総容量 126 GB 利用率 4.11 %	⊙
ハードディスク 利用率		

変更後:

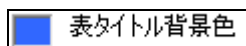


◆サーバー診断結果		
診断結果	診断状況	総合診断
CPU負荷状況	利用率 82.36 %	⊗
メモリ使用状況	総容量 511 MB 利用率 56.35 %	⚠
仮想メモリ使用状況	利用率 14.18 %	⊙
ハードディスクアクセス状況	利用率 3.26 %	⊙
	C: 総容量 126 GB 利用率 4.11 %	⊙
ハードディスク 利用率		

7. 表タイトル背景色

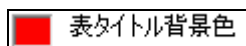
表(テーブル)で使用するタイトルの背景色を指定します。

変更前:



◆サーバー診断結果		
診断結果	診断状況	総合診断
CPU負荷状況	利用率 82.36 %	⊗
メモリ使用状況	総容量 511 MB 利用率 56.35 %	⚠
仮想メモリ使用状況	利用率 14.18 %	⊙
ハードディスクアクセス状況	利用率 3.26 %	⊙
	C: 総容量 126 GB 利用率 4.11 %	⊙
ハードディスク 利用率		

変更後:

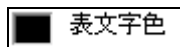


◆サーバー診断結果		
診断結果	診断状況	総合診断
CPU負荷状況	利用率 82.36 %	⊗
メモリ使用状況	総容量 511 MB 利用率 56.35 %	⚠
仮想メモリ使用状況	利用率 14.18 %	⊙
ハードディスクアクセス状況	利用率 3.26 %	⊙
	C: 総容量 126 GB 利用率 4.11 %	⊙
ハードディスク 利用率		

8. 表文字色

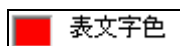
表(テーブル)で使用する文章の文字色を指定します。

変更前:



◆サーバー診断結果		
診断結果	診断状況	総合診断
CPU負荷状況	利用率 82.36 %	⊗
メモリ使用状況	総容量 511 MB 利用率 56.35 %	⚠
仮想メモリ使用状況	利用率 14.18 %	⊙
ハードディスク アクセス状況	利用率 3.26 %	⊙
	C: 総容量 126 GB 利用率 4.11 %	⊙
ハードディスク 使用率		

変更後:



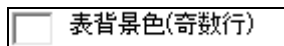
◆サーバー診断結果		
診断結果	診断状況	総合診断
CPU負荷状況	利用率 82.36 %	⊗
メモリ使用状況	総容量 511 MB 利用率 56.35 %	⚠
仮想メモリ使用状況	利用率 14.18 %	⊙
ハードディスク アクセス状況	利用率 3.26 %	⊙
	C: 総容量 126 GB 利用率 4.11 %	⊙
ハードディスク 使用率		

9. 表背景色(奇数行)

表(テーブル)の奇数行の背景色を指定します。

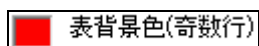
テーブルは、奇数行と偶数行で指定を変えられます。

変更前:



◆サーバー診断結果		
診断結果	診断状況	総合診断
CPU負荷状況	利用率 82.36 %	⊗
メモリ使用状況	総容量 511 MB 利用率 56.35 %	⚠
仮想メモリ使用状況	利用率 14.18 %	⊙
ハードディスク アクセス状況	利用率 3.26 %	⊙
	C: 総容量 126 GB 利用率 4.11 %	⊙
ハードディスク 使用率		

変更後:



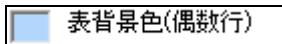
◆サーバー診断結果		
診断結果	診断状況	総合診断
CPU負荷状況	利用率 82.36 %	⊗
メモリ使用状況	総容量 511 MB 利用率 56.35 %	⚠
仮想メモリ使用状況	利用率 14.18 %	⊙
ハードディスク アクセス状況	利用率 3.26 %	⊙
	C: 総容量 126 GB 利用率 4.11 %	⊙
ハードディスク 使用率		

10. 表背景色(偶数行)

表(テーブル)の偶数行の背景色を指定します。

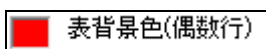
テーブルは、奇数行と偶数行で指定を変えられます。

変更前:



◆サーバー診断結果		
診断結果	診断状況	総合診断
CPU負荷状況	利用率 82.36 %	⊗
メモリ使用状況	総容量 511 MB 利用率 56.35 %	⚠
仮想メモリ使用状況	利用率 14.18 %	✔
ハードディスクアクセス状況	利用率 3.26 %	✔
C:	総容量 126 GB 利用率 4.11 %	✔
ハードディスク 利用率		

変更後:

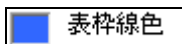


◆サーバー診断結果		
診断結果	診断状況	総合診断
CPU負荷状況	利用率 82.36 %	⊗
メモリ使用状況	総容量 511 MB 利用率 56.35 %	⚠
仮想メモリ使用状況	利用率 14.18 %	✔
ハードディスクアクセス状況	利用率 3.26 %	✔
C:	総容量 126 GB 利用率 4.11 %	✔
ハードディスク 利用率		

11. 表枠線色

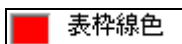
表(テーブル)の枠線色を指定します。

変更前:



◆サーバー診断結果		
診断結果	診断状況	総合診断
CPU負荷状況	利用率 82.36 %	⊗
メモリ使用状況	総容量 511 MB 利用率 56.35 %	⚠
仮想メモリ使用状況	利用率 14.18 %	✔
ハードディスクアクセス状況	利用率 3.26 %	✔
C:	総容量 126 GB 利用率 4.11 %	✔
ハードディスク 利用率		

変更後:

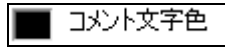


◆サーバー診断結果		
診断結果	診断状況	総合診断
CPU負荷状況	利用率 82.36 %	⊗
メモリ使用状況	総容量 511 MB 利用率 56.35 %	⚠
仮想メモリ使用状況	利用率 14.18 %	✔
ハードディスクアクセス状況	利用率 3.26 %	✔
C:	総容量 126 GB 利用率 4.11 %	✔
ハードディスク 利用率		

12. コメント文字色

レポートコメントの文字色を指定します。

変更前:



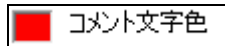
サーバー名 BOM5-2003 対象期間 2009/06/01~2009/06/30

◆サーバー診断結果

診断結果	診断状況	総合診断
CPU負荷状況	使用率 82.36 %	⊗
メモリ使用状況	総容量 511 MB 使用率 66.35 %	⚠
仮想メモリ使用状況	使用率 14.18 %	⊙
ハードディスクアクセス状況	使用率 3.26 %	⊙
ハードディスク C:	総容量 126 GB 使用率 4.11 %	⊙
ハードディスク 使用率		

コメント:
CPU使用率は平均82.36%であり、最大値6月22日9時32分に99.00%です。早急な上位機種へのアップグレードをお勧めします。物理メモリ使用率は平均66.35%であり、タスクの追加等は控えらることをお勧めします。仮想メモリ使用率は平均14.18%であり、良好な状態です。ハードディスクアクセス率は平均3.26%です。最大値は6月6日6時50分に100.00%であり、この時間に負荷のかかるタスクが動作していると考えられます。ハードディスク使用率(C:)は平均4.11%であり、十分に余裕があり、特に問題ありません。

変更後:



サーバー名 BOM5-2003 対象期間 2009/06/01~2009/06/30

◆サーバー診断結果

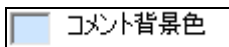
診断結果	診断状況	総合診断
CPU負荷状況	使用率 82.36 %	⊗
メモリ使用状況	総容量 511 MB 使用率 66.35 %	⚠
仮想メモリ使用状況	使用率 14.18 %	⊙
ハードディスクアクセス状況	使用率 3.26 %	⊙
ハードディスク C:	総容量 126 GB 使用率 4.11 %	⊙
ハードディスク 使用率		

コメント:
CPU使用率は平均82.36%であり、最大値6月22日9時32分に99.00%です。早急な上位機種へのアップグレードをお勧めします。物理メモリ使用率は平均66.35%であり、タスクの追加等は控えらることをお勧めします。仮想メモリ使用率は平均14.18%であり、良好な状態です。ハードディスクアクセス率は平均3.26%です。最大値は6月6日6時50分に100.00%であり、この時間に負荷のかかるタスクが動作していると考えられます。ハードディスク使用率(C:)は平均4.11%であり、十分に余裕があり、特に問題ありません。

13. コメント背景色

レポートコメントの背景色を指定します。

変更前:



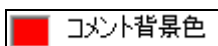
サーバー名 BOM5-2003 対象期間 2009/06/01~2009/06/30

◆サーバー診断結果

診断結果	診断状況	総合診断
CPU負荷状況	利用率 82.36 %	⊗
メモリ使用状況	総容量 511 MB 利用率 56.35 %	⚠
仮想メモリ使用状況	利用率 14.18 %	⬆
ハードディスクアクセス状況	利用率 3.26 %	⬆
ハードディスク C:	総容量 126 GB 利用率 4.11 %	⬆
ハードディスク 利用率		

コメント:
CPU利用率は平均82.36%であり、最大値6月22日9時32分に99.00%です。早急な上位機種へのアップグレードをお勧めします。物理メモリ使用量は平均56.35%であり、タスクの追加は控えらることをお勧めします。仮想メモリ使用量は平均14.18%であり、良好な状態です。ハードディスクアクセス率は平均3.26%です。最大値6月6日6時50分に100.00%であり、この時間に負荷のかかるタスクが動いていると考えられます。ハードディスク使用量は平均4.11%であり、十分に余裕があり、特に問題ありません。

変更後:



サーバー名 BOM5-2003 対象期間 2009/06/01~2009/06/30

◆サーバー診断結果

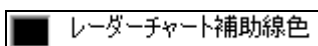
診断結果	診断状況	総合診断
CPU負荷状況	利用率 82.36 %	⊗
メモリ使用状況	総容量 511 MB 利用率 56.35 %	⚠
仮想メモリ使用状況	利用率 14.18 %	⬆
ハードディスクアクセス状況	利用率 3.26 %	⬆
ハードディスク C:	総容量 126 GB 利用率 4.11 %	⬆
ハードディスク 利用率		

コメント:
CPU利用率は平均82.36%であり、最大値6月22日9時32分に99.00%です。早急な上位機種へのアップグレードをお勧めします。物理メモリ使用量は平均56.35%であり、タスクの追加は控えらることをお勧めします。仮想メモリ使用量は平均14.18%であり、良好な状態です。ハードディスクアクセス率は平均3.26%です。最大値6月6日6時50分に100.00%であり、この時間に負荷のかかるタスクが動いていると考えられます。ハードディスク使用量は平均4.11%であり、十分に余裕があり、特に問題ありません。

14. レーダーチャート補助線色

レーダーチャートの補助線(枠線)を指定します。

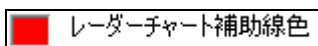
変更前:



◆サーバー診断結果

診断結果	診断状況	総合診断
CPU負荷状況	利用率 82.36 %	⊗
メモリ使用状況	総容量 511 MB 利用率 56.35 %	⚠
仮想メモリ使用状況	利用率 14.18 %	⬆
ハードディスクアクセス状況	利用率 3.26 %	⬆
ハードディスク C:	総容量 126 GB 利用率 4.11 %	⬆
ハードディスク 利用率		

変更後:



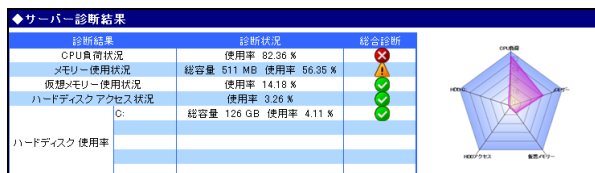
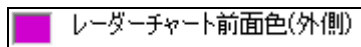
◆サーバー診断結果

診断結果	診断状況	総合診断
CPU負荷状況	利用率 82.36 %	⊗
メモリ使用状況	総容量 511 MB 利用率 56.35 %	⚠
仮想メモリ使用状況	利用率 14.18 %	⬆
ハードディスクアクセス状況	利用率 3.26 %	⬆
ハードディスク C:	総容量 126 GB 利用率 4.11 %	⬆
ハードディスク 利用率		

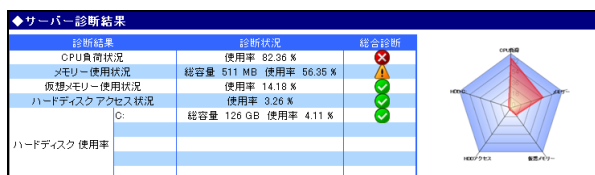
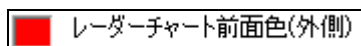
15. レーダーチャート前面色(外側)

サマリーレポートのレーダーチャートの前面色(値表示)のうち、外側の色を指定します。

変更前:



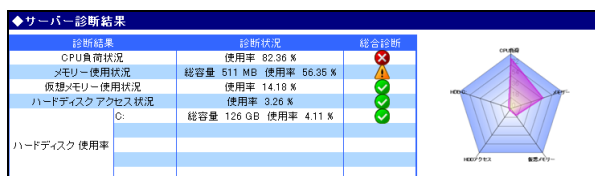
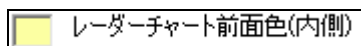
変更後:



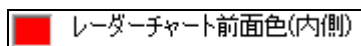
16. レーダーチャート前面色(内側)

サマリーレポートのレーダーチャートの前面色(値表示)のうち、内側の色を指定します。

変更前:



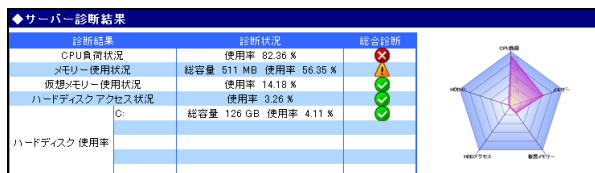
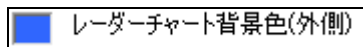
変更後:



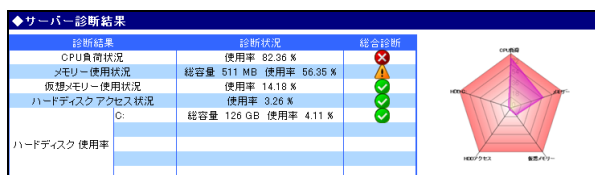
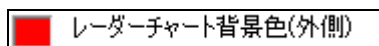
17. レーダーチャート背景色(外側)

サマリーレポートのレーダーチャートの背景色のうち、外側の色を指定します。

変更前:



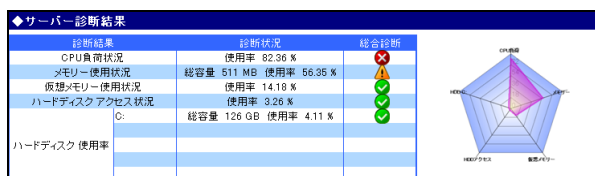
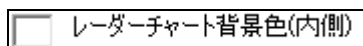
変更後:



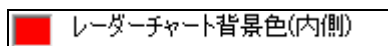
18. レーダーチャート背景色(内側)

サマリーレポートのレーダーチャートの背景色のうち、内側の色を指定します。

変更前:



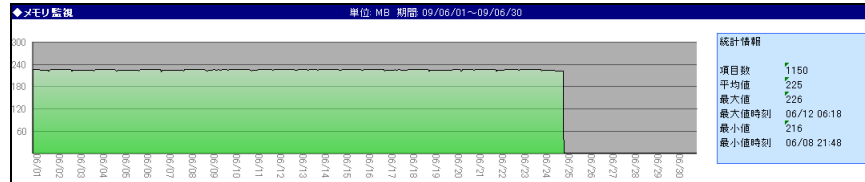
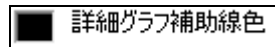
変更後:



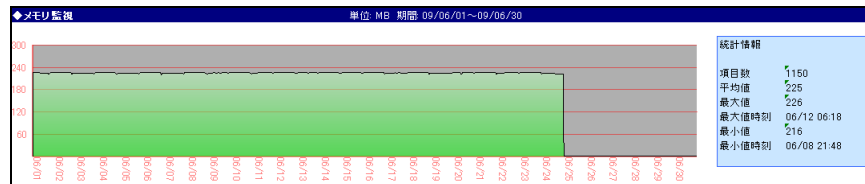
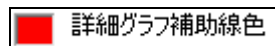
19. 詳細グラフ補助線色

詳細レポート内のグラフにてグラフの頂点を表す補助線の色を指定します。

変更前:



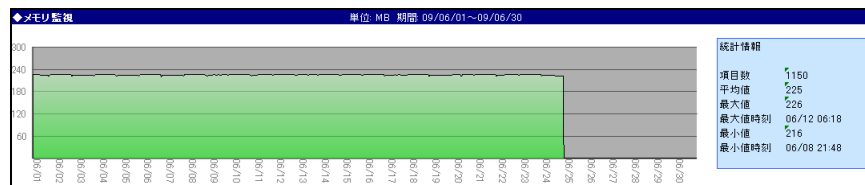
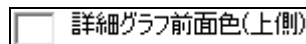
変更後:



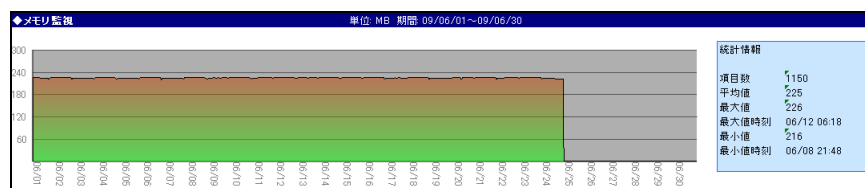
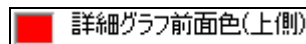
20. 詳細グラフ前面色(上側)

詳細レポート内のグラフにてグラフの上側の色を指定します。

変更前:



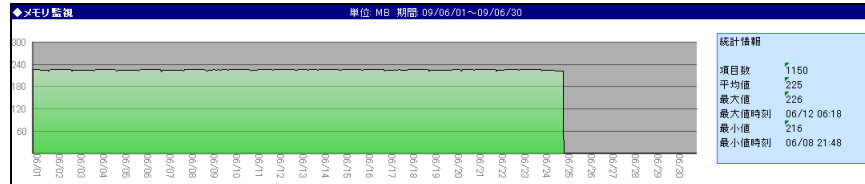
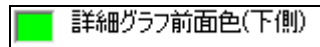
変更後:



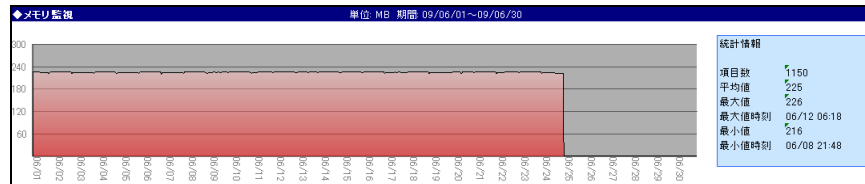
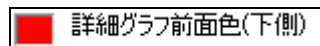
21. 詳細グラフ前面色(下側)

詳細レポート内のグラフにてグラフの下側の色を指定します。

変更前:



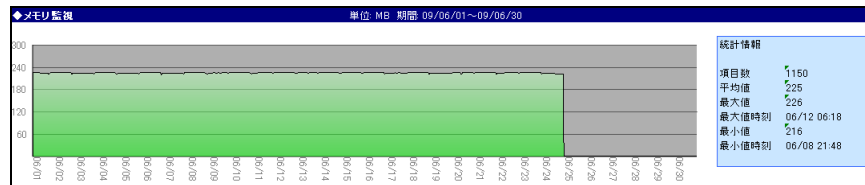
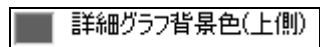
変更後:



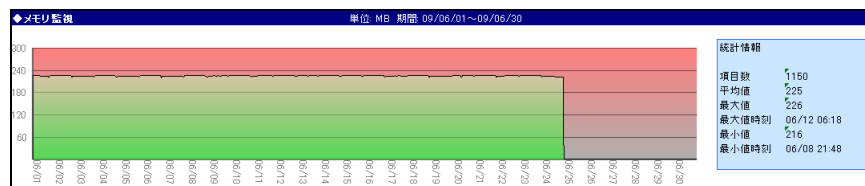
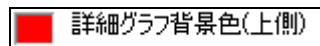
22. 詳細グラフ背景色(上側)

詳細レポート内のグラフにてグラフ背景の上側の色を指定します。

変更前:



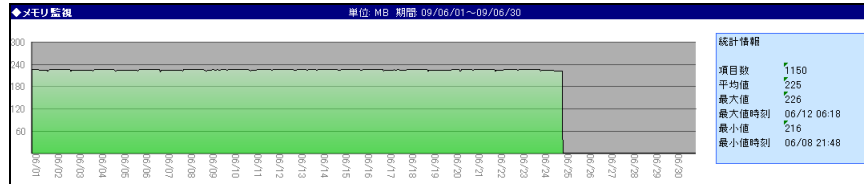
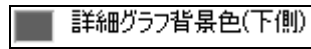
変更後:



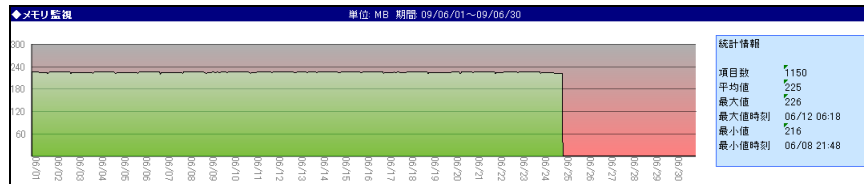
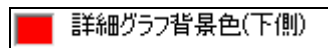
23. 詳細グラフ背景色(下側)

詳細レポート内のグラフにてグラフ背景の下側の色を指定します。

変更前:



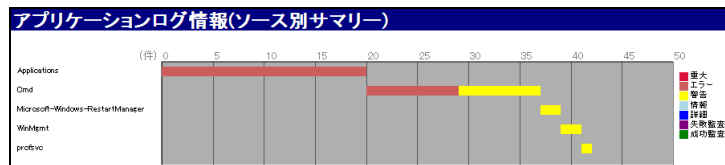
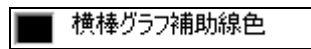
変更後:



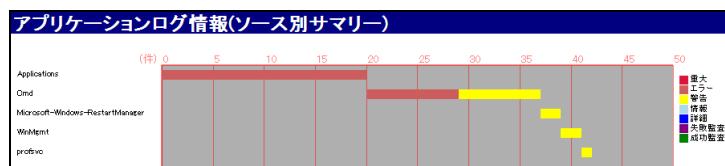
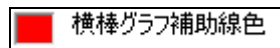
24. 横棒グラフ補助線色

棒グラフにて、グラフの境目を表す補助線の色を指定します。

変更前:



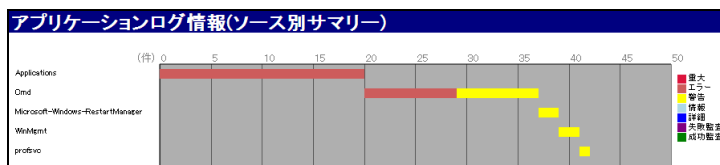
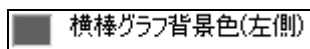
変更後:



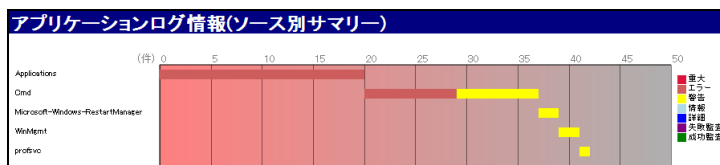
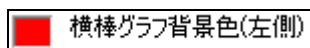
25. 横棒グラフ背景色(左側)

棒グラフにて、グラフ背景の左側の色を指定します。

変更前:



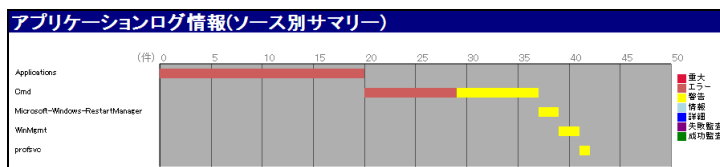
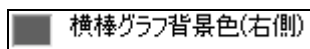
変更後:



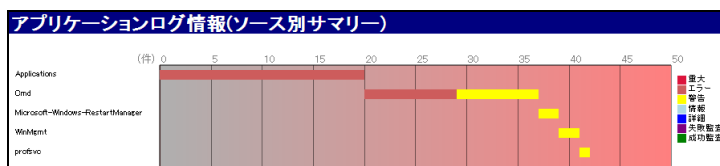
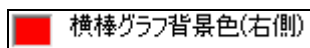
26. 横棒グラフ背景色(右側)

棒グラフにて、グラフ背景の右側の色を指定します。

変更前:



変更後:



27. [配色設定の初期化]ボタン

[配色設定の初期化]ボタンをクリックすると、「配色設定」タブのすべての値を初期化します。

誤ってクリックした場合には、[キャンセル]ボタンをクリックし、初期化設定を破棄してください。

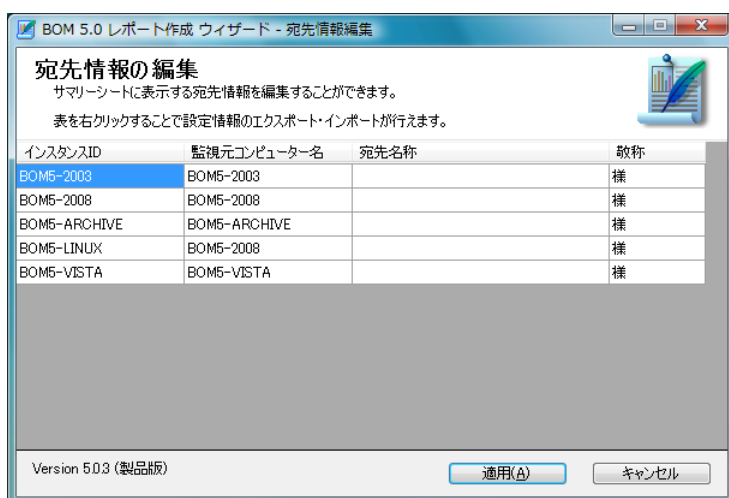
5.2 宛先情報の編集

レポート作成ウィザードのレポート作成インスタンスの指定画面において、[宛先情報編集]ボタンをクリックすることで、宛先情報の編集画面が表示されます。

宛先情報の編集画面では、インスタンスレポートを出力するインスタンス毎に、“宛先名称”および“敬称”を指定することができます。

[適用]ボタンをクリックすることで、設定がレポートクライアントに保存され、次回以降のレポート作成ウィザード使用時に自動入力されます。また[キャンセル]ボタンをクリックすることで、変更した設定を破棄します。

インスタンスの指定方法については‘3 .3 .5 レポート作成インスタンスの指定’を、サマリー情報の印刷サンプルについては‘4 .2 サマリー情報’をご参照ください。



1. 宛先名称

各インスタンスの“宛先名称”欄をクリックし、文字列を入力することで、宛先名称を指定できます。

インスタンスID	監視元コンピューター名	宛先名称	敬称
BOM5-2003	BOM5-2003	セイ・テクノロジーズ株式会社	様
BOM5-2008	BOM5-2008		様
BOM5-ARCHIVE	BOM5-ARCHIVE		様
BOM5-LINUX	BOM5-2008		様
BOM5-VISTA	BOM5-VISTA		様

2. 敬称

各インスタンスの“敬称”欄をクリックし、文字列を入力することで、敬称を指定できます。

インスタンスID	監視元コンピューター名	宛先名称	敬称
BOM5-2003	BOM5-2003	セイ・テクノロジーズ株式会社	御中
BOM5-2008	BOM5-2008	セイ・テクノロジーズ株式会社	御中
BOM5-ARCHIVE	BOM5-ARCHIVE	テクニカルサービス部	様
BOM5-LINUX	BOM5-2008	セイ・テクノロジーズ株式会社	御中
BOM5-VISTA	BOM5-VISTA	開発部	殿

3. 列タイトル

“インスタンスID”、“監視元コンピューター名”の各列において、タイトルをクリックすると並び替えが実行されます。

並び替えをした列タイトルの末尾には並び替えを示すアイコンが表示されます。

インスタンスID	監視元コンピューター名 ▲
----------	---------------

4. シート内右クリックメニュー

表示された一覧シートにて右クリックすることで、右クリックメニューが呼び出せます。

インスタンスID	設定情報のエクスポート
BOM5-VISTA	設定情報のインポート
BOM5-LINUX	設定情報の初期化
BOM5-ARCHIVE	

5. “設定情報のエクスポート”機能

宛先情報の編集画面で設定した、各インスタンス毎の“宛先名称”および“敬称”を、ファイルにエクスポート(保存)することができます。

設定情報は“ReportCustomerInfo_保存日時”の名称でXML形式で保存されます。

6. “設定情報のインポート”機能

“設定情報のエクスポート”機能にて保存したファイルをインポート(復元)することができます。

7. “設定情報の初期化”機能

“宛先名称”、“敬称”を初期状態にリセットします。

第6章 エラーメッセージ一覧

以下に主要なエラーメッセージを掲載します。

メッセージ
一つ以上のインスタンスを選択してください。
一つ以上のシートを選択してください。
レポート出力期間は最大 1 年です。1 年以内に設定してください。
“ファイル名”は見つかりません。
レポートオプション用のライセンスキーではありません。
レポートオプション対応のアーカイブサーバーではありません。
有効なライセンス情報が登録されていないため、レポート出力を行えません。
出力フォルダーが存在しません。作成しますか？
有効なライセンスキーではありません。
“プログラム名”の多重起動はサポートされていません。
ファイルのインポートに失敗しました。
ファイルのエクスポートに失敗しました。
お客様情報に無効な文字列が含まれています。(使用禁止文字列: ¥)
フォルダーの作成に失敗しました。
アーカイブサーバーへの接続に失敗しました。
入力されたライセンスキーは既に使用されています。

第7章 FAQ

Q レポート作成ウィザードを起動すると、以下のメッセージが表示され、起動に失敗します。

```
-----  
ReportWizard.exe - .NET Framework Initialization Error  
-----
```

To run this application, you first must install one of the following versions of the .NET Framework:

v2.0.50727

Contact your application publisher for instructions about obtaining the appropriate version of the .NET Framework.

A レポート作成ウィザードに対応した Microsoft .NET Framework がレポートクライアントに入っていない可能性があります。

‘2 .3 .1 Microsoft .NET Framework 2.0 のインストール’の手順を参考にして、レポートクライアントに Microsoft .NET Framework を導入してください。また、レポートクライアントの動作環境は‘2 .1 A レポートクライアントの動作環境’をご参照ください。

Q アーカイブサーバーに構築済みのアーカイブ DB がレポートオプションに対応しているか確認する方法はありますか。

A アーカイブサーバー管理メニューを起動し、<C>キー、<Enter>キーを押下して、データの蓄積状況をチェックします。

bom_archive_sysinfo(システム情報ログ)が一覧にあればレポートオプションに対応しています。

一覧に存在しない場合には、対応していないバージョンです。また、実行エラーになる場合には、アップグレード手順で、データベースのアップグレードを実施していない可能性があります。

そういった場合には、‘2 .2 .1 B アーカイブサーバーのアップグレード’の手順を参考に、アップグレードを実行してください。

Q 監視コンピューターにインストール済みのアーカイブサービスがレポートオプションに対応しているか確認する方法はありますか。

A “BOM5.0 コントロールパネル”の「バージョン」タブで[ファイルバージョン]ボタンをクリックいただきますと、BOM5.0 の各種コンポーネントのバージョンが表示できます。

アーカイブサービスのファイル名である“Bom5ArchiveService.exe”のバージョンが“5.0.2.15”以上であれば対応しております。

“5.0.2.15”未満のバージョンをご利用の場合には、‘2 .2 .2 B アーカイブサービスのアップグレード’の手順を参考に、アップグレードを実行してください。

Q “コマンドライン実行用文字列”に表示される実行文字列の引数はカスタマイズ方法がありますか。

A コマンドライン実行用文字列のカスタマイズは、日付指定に関するものを除き、サポートしておりません。必ず、レポート作成ウィザードを使用して、出力設定の確認画面に表示される文字列をそのままお使いください。

日付指定の詳細については‘8 .2 コマンドライン実行用文字列の引数’をご参照ください。

Q 一部の監視コンピューターにて、レポートシート“システム基本情報”や“ハードウェア情報”など、特定のレポートシートで情報が欠落します。

A OS 情報の取得には、“Windows Management Instrumentation”サービス(WMI)を使用しております。
監視コンピューター上で“Windows Management Instrumentation”サービスが動作していることをご確認ください。

Q レポート出力中に、以下のメッセージが出力され、レポート出力に失敗しました。

"COM 通信中に、予期せぬエラーが発生しました。レポート出力中は他のアプリケーションの操作を行わないでください。

HRESULT からの例外: 0x800A03EC"

A レポート作成ウィザードから Microsoft Excel の起動に失敗した場合に発生することがあります。
レポートクライアント上で、スタートメニューから Microsoft Excel を正常に起動できるかご確認ください。正常に動作しない場合には、Microsoft Excel を再インストールするなど、正常に動作するよう構成してください。

Q レポート作成インスタンスの指定画面で“ログ件数”で並び替えができません。
宛先情報の編集画面で、“宛先名称”、“敬称”で並び替えができません。

A 申し訳ございませんが、並び替えには対応しておりません。

Q Microsoft Excel をインストールしましたが、Excel 形式のレポートに失敗します。

A Excel 形式のレポートを出力するには、“.NET プログラミングサポート”が必要ですが、Microsoft Excel のインストールオプションで“最小”を選択した場合、“.NET プログラミングサポート”がインストールされません。
“.NET プログラミングサポート”を追加インストールしてください。

Q レポート出力シートの指定画面でチェックボックスをダブルクリックすると、意図した通りにチェックボックスにチェックが入りません。

A OS が Windows Vista 以降を使用している場合に現象が発生いたします。
申し訳ございませんが、現時点での仕様となります。製品を使用する上で、ダブルクリックは必要としないので、チェックボックスはシングルクリックにてチェックを入れるようお願いいたします。

Q 詳細設定画面の「動作設定」タブにて、“レポートに使用するフォント”の指定を太字に変更しましたがレポートに反映されません。

A “レポートに使用するフォント”で指定できるのは、使用するフォントだけであり、スタイルやサイズの指定は反映されません。

- Q** 監視コンピューターで多数の監視項目に問題が発生した場合、診断コメントが枠に収まりません。
- A** 申し訳ございませんが、現時点での仕様となります。
お手数ではありますが、フォントサイズの変更、コメントの抜粋などによるご対応をお願いいたします。
- Q** お客様名、ハードウェア名などが、レポートシート“サマリー情報”の既定の枠に収まりません。
- A** 申し訳ございませんが、現時点での仕様となります。
お手数ではありますが、フォントサイズの変更、略称への編集などによるご対応をお願いいたします。
- Q** レポートシート“ハードウェア情報”、“ソフトウェア情報”で表示される“追加”と“削除”はどういう判定をしていますか。
- A** レポートオプションでは 1 日 1 回、監視コンピューター上の資産情報 (OS、ハードウェア、ソフトウェア等の情報) を取得いたします。
“追加”、“削除”の判定は、レポート出力期間の開始日と終了日と比較し、差異があった場合に表示されます。
なお、開始日当日の資産情報取得前に追加または削除した場合、開始日と終了日の資産情報に差異がないため、追加・削除の表記は出力されませんのでご注意ください。
- Q** 本日のレポートを出力したら、基本情報などが表示されませんでした。
- A** 監視コンピューター上の資産情報 (OS、ハードウェア、ソフトウェア等の情報) が取得されていない場合に現象が発生いたします。
レポートオプションは、主に月次レポートを生成するために作成しており、当日分の出力を想定しておりません。
- Q** MHTML は Internet Explorer 以外で表示することはできますか。
- A** レポートオプションで想定したレイアウトで表示されない可能性があります。‘2 .1 C レポートを表示 / 印刷するための環境’で記載している製品、バージョンのみお使いください。
- Q** 1 年前のレポートシート“インスタンス概要”を作成したところ、“バージョン”に当時は適用していないはずのサービスパックが表示されました。
- A** “インスタンス概要”では、“コンピューター名”、“OS 名”、“バージョン”の 3 項目について、最新のシステム情報を表示します。
- Q** レポートシート“サマリー情報”に、“診断結果チャート”、“ネットワーク診断結果チャート”が表示されません。
- A** “診断結果”または“ネットワーク診断結果”にレポートする監視項目が最低 3 項目必要です。
監視項目が不足している場合には、‘2 .2 .3 A Windows 向け監視項目の作成’の手順を参考にして、監視項目を作成してください。
なお、それぞれのレーダーチャートは、それぞれの診断結果とリンクしていますので、同一件数をレポートします。

第8章 付録

8.1 サマリー情報の診断結果

レポートシート“サマリー情報”の診断結果は、平均値と最大値を考慮して設定します。

● 診断結果

レポートシート“サマリー情報”で表示される診断結果およびアイコンは、以下の値で設定しております。

1. 監視コンピューターが Windows の場合

診断項目名	✔️ 正常(余力あり)	✔️ 正常	⚠️ 注意	❌ 高負荷
CPU 負荷状況	平均 25%未満	平均 50%未満	平均 75%未満	平均 75%以上
メモリー使用状況	平均 25%未満	平均 50%未満	平均 75%未満	平均 75%以上
仮想メモリー使用状況	平均 25%未満	平均 50%未満	平均 75%未満	平均 75%以上
ハードディスク アクセス状況	平均 25%未満	平均 50%未満	平均 75%未満	平均 75%以上
ハードディスク 使用率	平均 25%未満	平均 50%未満	平均 75%未満	平均 75%以上
ネットワーク 使用率	平均 25%未満	平均 50%未満	平均 75%未満	平均 75%以上
ネットワーク 使用量(※)	平均 25Mbps 未満	平均 50Mbps 未満	平均 75Mbps 未満	平均 75Mbps 以上
パケット損失発生回数	—	0 件/日	1 件/日未満	1 件/日以上

2. 監視コンピューターが Linux の場合

診断項目名	✔️ 正常(余力あり)	✔️ 正常	⚠️ 注意	❌ 高負荷
CPU 負荷状況	平均 25%未満	平均 50%未満	平均 75%未満	平均 75%以上
メモリー使用状況	平均 25%未満	平均 50%未満	平均 75%未満	平均 75%以上
スワップ使用状況	平均 25%未満	平均 50%未満	平均 75%未満	平均 75%以上
ハードディスク アクセス状況	平均 25 回/秒未満	平均 50 回/秒未満	平均 75 回/秒未満	平均 75 回/秒以上
ハードディスク 使用率	平均 25%未満	平均 50%未満	平均 75%未満	平均 75%以上
ネットワーク 使用率	平均 25%未満	平均 50%未満	平均 75%未満	平均 75%以上
ネットワーク 使用量(※)	平均 25Mbps 未満	平均 50Mbps 未満	平均 75Mbps 未満	平均 75Mbps 以上
パケット損失発生回数	—	0 件/日	1 件/日未満	1 件/日以上

※ ネットワーク診断結果では、監視項目で取得した“ネットワーク使用量”を元に、監視コンピューター上の NIC の通信速度情報を取得して“ネットワーク使用率”を算出します。





NIC の通信速度情報を取得できなかった場合には、“ネットワーク使用量”をそのままレポートします。その際、NIC の通信速度を“100Mbps”と仮定して診断結果を算出しております。





● コメント





レポートシート“サマリー情報”のコメントは、診断結果を元に、最大値の情報を加味して設定しております。





なお、以下の表で“(平均値)”、“(日時)”、“(最大値)”、“(ドライブ名)”、“(NIC 名)”と表記している箇所には、実際の監視コンピュータの情報が入ります。





CPU 負荷状況		
診断結果	最大値	コメント
 正常 (余力あり)	最大 50%未満	CPU 使用率は平均(平均値)であり、最大値も(日時)に(最大値)であり問題ありません。
	最大 75%未満	CPU 使用率は平均(平均値)です。最大値は(日時)に(最大値)であり、この時間に負荷のかかるタスクが動作していると考えられます。
	最大 75%以上	CPU 使用率は平均(平均値)です。最大値は(日時)に(最大値)であり、この時間に負荷のかかるタスクが動作していると考えられます。
 正常	最大 50%未満	CPU 使用率は平均(平均値)であり、最大値も(日時)に(最大値)です。今後タスクの追加等を行われる場合は、ご注意ください。
	最大 75%未満	CPU 使用率は平均(平均値)であり、最大値も(日時)に(最大値)です。今後タスクの追加等を行われる場合は、ご注意ください。
	最大 75%以上	CPU 使用率は平均(平均値)であり、最大値も(日時)に(最大値)です。今後タスクの追加等を行われる場合は、ご注意ください。
 注意	最大 75%未満	CPU 使用率は平均(平均値)であり、最大値も(日時)に(最大値)です。可能であれば CPU の追加をお勧めします。
	最大 75%以上	CPU 使用率は平均(平均値)であり、最大値も(日時)に(最大値)です。可能であれば CPU の追加をお勧めします。
 高負荷	最大 75%以上	CPU 使用率は平均(平均値)であり、最大値も(日時)に(最大値)です。早急な上位機種へのアップグレードをお勧めします。





メモリー使用状況		
診断結果	最大値	コメント
 正常 (余力あり)	—	物理メモリー使用量は平均(平均値)であり、十分に余裕があり、特に問題ありません。
 正常	—	物理メモリー使用量は平均(平均値)であり、良好な状態です。
 注意	—	物理メモリー使用量は平均(平均値)であり、タスクの追加等は控えられることをお勧めします。
 高負荷	—	物理メモリー使用量は平均(平均値)であり、物理メモリーの増設をお勧めします。

仮想メモリー使用状況		
診断結果	最大値	コメント
 正常 (余力あり)	—	仮想メモリー使用量は平均(平均値)であり、十分に余裕があり、特に問題ありません。
 正常	—	仮想メモリー使用量は平均(平均値)であり、良好な状態です。
 注意	—	仮想メモリー使用量は平均(平均値)であり、タスクの追加等は控えられることをお勧めします。
 高負荷	—	仮想メモリー使用量は平均(平均値)であり、物理メモリーの増設をお勧めします。

スワップ使用状況		
診断結果	最大値	コメント
 正常 (余力あり)	—	スワップメモリー使用量は平均(平均値)であり、十分に余裕があり、特に問題ありません。
 正常	—	スワップメモリー使用量は平均(平均値)であり、良好な状態です。
 注意	—	スワップメモリー使用量は平均(平均値)であり、タスクの追加等は控えられることをお勧めします。
 高負荷	—	スワップメモリー使用量は平均(平均値)であり、物理メモリーの増設をお勧めします。





ハードディスク アクセス状況 (Windows)		
診断結果	最大値	コメント
 正常 (余力あり)	最大 50%未満	ハードディスクアクセス率は平均(平均値)であり、最大値も(日時)に(最大値)であり問題ありません。
	最大 75%未満	ハードディスクアクセス率は平均(平均値)です。最大値は(日時)に(最大値)であり、この時間に負荷のかかるタスクが動作していると考えられます。
	最大 75%以上	ハードディスクアクセス率は平均(平均値)です。最大値は(日時)に(最大値)であり、この時間に負荷のかかるタスクが動作していると考えられます。
 正常	最大 50%未満	ハードディスクアクセス率は平均(平均値)であり、最大値も(日時)に(最大値)です。今後タスクの追加等を行われる場合は、ご注意ください。
	最大 75%未満	ハードディスクアクセス率は平均(平均値)であり、最大値も(日時)に(最大値)です。今後タスクの追加等を行われる場合は、ご注意ください。
	最大 75%以上	ハードディスクアクセス率は平均(平均値)であり、最大値も(日時)に(最大値)です。今後タスクの追加等を行われる場合は、ご注意ください。
 注意	最大 75%未満	ハードディスクアクセス率は平均(平均値)であり、最大値も(日時)に(最大値)です。物理メモリの増設をお勧めします。
	最大 75%以上	ハードディスクアクセス率は平均(平均値)であり、最大値も(日時)に(最大値)です。物理メモリの増設をお勧めします。
 高負荷	最大 75%以上	ハードディスクアクセス率は平均(平均値)であり、最大値も(日時)に(最大値)です。物理メモリの増設をお勧めします。

ハードディスク アクセス状況 (Linux)		
診断結果	最大値	コメント
 正常 (余力あり)	最大 50 回/秒 未満	ハードディスクアクセスは平均(平均値)であり、最大値も(日時)に(最大値)であり問題ありません。
	最大 75 回/秒 未満	ハードディスクアクセスは平均(平均値)です。最大値は(日時)に(最大値)であり、この時間に負荷のかかるタスクが動作していると考えられます。
	最大 75 回/秒 以上	ハードディスクアクセスは平均(平均値)です。最大値は(日時)に(最大値)であり、この時間に負荷のかかるタスクが動作していると考えられます。
 正常	最大 50 回/秒 未満	ハードディスクアクセスは平均(平均値)であり、最大値も(日時)に(最大値)です。今後タスクの追加等を行われる場合は、ご注意ください。
	最大 75 回/秒 未満	ハードディスクアクセスは平均(平均値)であり、最大値も(日時)に(最大値)です。今後タスクの追加等を行われる場合は、ご注意ください。
	最大 75 回/秒 以上	ハードディスクアクセスは平均(平均値)であり、最大値も(日時)に(最大値)です。今後タスクの追加等を行われる場合は、ご注意ください。
 注意	最大 75 回/秒 未満	ハードディスクアクセスは平均(平均値)であり、最大値も(日時)に(最大値)です。物理メモリの増設をお勧めします。
	最大 75 回/秒 以上	ハードディスクアクセスは平均(平均値)であり、最大値も(日時)に(最大値)です。物理メモリの増設をお勧めします。
 高負荷	最大 75 回/秒 以上	ハードディスクアクセスは平均(平均値)であり、最大値も(日時)に(最大値)です。物理メモリの増設をお勧めします。

ハードディスク 使用率		
診断結果	最大値	コメント
 正常 (余力あり)	—	ハードディスク使用量((ドライブ名))は平均(平均値)であり、十分に余裕があり、特に問題ありません。
 正常	—	ハードディスク使用量((ドライブ名))は平均(平均値)であり、良好な状態です。
 注意	—	ハードディスク使用量((ドライブ名))は平均(平均値)であり、不要なファイルがあれば、削除等の、情報の整理をお勧めします。アプリケーションの追加等を行われる場合はご注意ください。
 高負荷	—	ハードディスク使用量((ドライブ名))は平均(平均値)であり、ハードディスクを増設し、ファイルの移動をお勧めします。

ネットワーク 使用率		
診断結果	最大値	コメント
 正常 (余力あり)	最大 50%未満	ネットワーク使用量((NIC 名))は平均(平均値)であり、最大値も(日時)に(最大値)であり十分に余裕があり、特に問題ありません。
	最大 75%未満	ネットワーク使用量((NIC 名))は平均(平均値)です。最大値は(日時)に(最大値)であり、この時間に負荷のかかっています。大容量のファイルの転送等行っていないか確認して下さい。
	最大 75%以上	ネットワーク使用量((NIC 名))は平均(平均値)です。最大値は(日時)に(最大値)であり、この時間に負荷のかかっています。大容量のファイルの転送等行っていないか確認して下さい。
 正常	最大 50%未満	ネットワーク使用量((NIC 名))は平均(平均値)です。最大値は(日時)に(最大値)であり、良好な状態です。
	最大 75%未満	ネットワーク使用量((NIC 名))は平均(平均値)です。最大値は(日時)に(最大値)であり、この時間に負荷のかかっています。大容量のファイルの転送等行っていないか確認して下さい。
	最大 75%以上	ネットワーク使用量((NIC 名))は平均(平均値)です。最大値は(日時)に(最大値)であり、この時間に負荷のかかっています。大容量のファイルの転送等行っていないか確認して下さい。
 注意	最大 75%未満	ネットワーク使用量((NIC 名))は平均(平均値)です。最大値は(日時)に(最大値)です。ネットワークの物理構成や、回線帯域幅の見直しをお勧めします。
	最大 75%以上	ネットワーク使用量((NIC 名))は平均(平均値)です。最大値は(日時)に(最大値)です。ネットワークの物理構成や、回線帯域幅の見直しをお勧めします。
 高負荷	最大 75%以上	ネットワーク使用量((NIC 名))は平均(平均値)です。最大値は(日時)に(最大値)です。ブロードキャストストーム等のトラブル発生や、ウイルスによる不要トラフィックの発生が疑われます。詳細な調査をお勧めします

ネットワーク 使用量		
診断結果	最大値	コメント
 正常 (余力あり)	最大 50Mbps 未満	ネットワーク使用量((NIC 名))は平均(平均値)であり、最大値も(日時)に(最大値)であり十分に余裕があり、特に問題ありません。
	最大 75Mbps 未満	ネットワーク使用量((NIC 名))は平均(平均値)です。最大値は(日時)に(最大値)であり、この時間に負荷のかかっています。大容量のファイルの転送等行っていないか確認して下さい。
	最大 75Mbps 以上	ネットワーク使用量((NIC 名))は平均(平均値)です。最大値は(日時)に(最大値)であり、この時間に負荷のかかっています。大容量のファイルの転送等行っていないか確認して下さい。
 正常	最大 50Mbps 未満	ネットワーク使用量((NIC 名))は平均(平均値)です。最大値は(日時)に(最大値)であり、良好な状態です。
	最大 75Mbps 未満	ネットワーク使用量((NIC 名))は平均(平均値)です。最大値は(日時)に(最大値)であり、この時間に負荷のかかっています。大容量のファイルの転送等行っていないか確認して下さい。
	最大 75Mbps 以上	ネットワーク使用量((NIC 名))は平均(平均値)です。最大値は(日時)に(最大値)であり、この時間に負荷のかかっています。大容量のファイルの転送等行っていないか確認して下さい。
 注意	最大 75Mbps 未満	ネットワーク使用量((NIC 名))は平均(平均値)です。最大値は(日時)に(最大値)です。ネットワークの物理構成や、回線帯域幅の見直しをお勧めします。
	最大 75Mbps 以上	ネットワーク使用量((NIC 名))は平均(平均値)です。最大値は(日時)に(最大値)です。ネットワークの物理構成や、回線帯域幅の見直しをお勧めします。
 高負荷	最大 75Mbps 以上	ネットワーク使用量((NIC 名))は平均(平均値)です。最大値は(日時)に(最大値)です。ブロードキャストストーム等のトラブル発生や、ウイルスによる不要トラフィックの発生が疑われます。詳細な調査をお勧めします

パケット損失発生回数		
診断結果	最大値	コメント
 正常 (余力あり)	—	—
 正常	—	—
 注意	—	パケット損失が発生しています。問題のないレベルですが、念のため調査をお勧めします。
 高負荷	—	パケット損失が(平均値)です。ハードウェアの調査が必要です。

8.2 コマンドライン実行用文字列の引数

レポート作成ウィザードの出力設定の確認画面では、コマンドラインからレポートを出力するための“コマンドライン実行用文字列”を表示していますが、これはレポート出力をバッチファイル化し、タスクスケジューラ等から自動的に実行するために提供しています。

そのため、オプション引数の仕様は基本的に公開していません。

ただし、日付に関するオプション引数については、定期実行等で必要であるため、情報を公開いたします。

※ “コマンドライン実行用文字列”のコピー方法は‘3.3.7 出力設定の確認’をご参照ください。

● 引数

“コマンドライン実行用文字列”をコピーすると、文字列の末尾に以下の日付に関するオプションが指定されています。

オプション名	引数指定	説明
出力月	-output_month:YYYYMM	レポート出力対象の年および月を、6桁の数値にて指定します。
開始日	-output_period_s:YYYYMMDD	レポート出力対象の開始日を、8桁の数値にて指定します。
終了日	-output_period_e:YYYYMMDD	レポート出力対象の終了日を、8桁の数値にて指定します。

● 日付変数

レポート出力コマンドでは相対日を指定するための変数が定義されています。

変数	説明
-Ny	引数にて西暦(YYYY)の代わりにマイナス記号(-)と任意の数値とyを指定すると、指定した年数だけ現在の西暦より減算した値を引数に代入します。 以下の例は、昨年の10月が引数に代入されます。 -output_month:-1y10
-Nm	引数にてMMの代わりにマイナス記号(-)と任意の数値とmを指定すると、指定した月数だけ現在の月より減算した値を引数に代入します。年をまたぐ場合には、年もあわせて減算します。 以下の例は、先月が引数に代入されます。 -output_month:-0y-1m
-Nd	引数にてDDの代わりにマイナス記号(-)と任意の数値とdを指定すると、指定した日数だけ現在の日より減算した値を引数に代入します。年または月をまたぐ場合には、年月もあわせて減算します。 以下の例は、7日前から前日までが引数に代入されます。 -output_period_s:-0y-0m-7d -output_period_e:-0y-0m-1d
ee	引数にてDDの代わりにeeを指定した場合、月末の日付を設定します。 以下の例は2009年12月31日が引数に代入されます。 -output_period_e:200912ee

● 書式

1. レポート出力期間の直接指定

レポートの出力月を 2009 年 12 月、開始日を 2009 年 12 月 1 日、終了日を 2009 年 12 月 31 日と指定する場合、以下のよう
に指定します。

```
-output_month:200912 -output_period_s:20091201 -output_period_e:20091231
```

2. 相対日指定による末日締め月次レポート

レポートの出力月を先月の月初から月末までの期間で出力したい場合(レポート出力コマンドの実行日が 2010 年 1 月 1 日である
場合、出力月が 2009 年 12 月、開始日が 2009 年 12 月 1 日、終了日が 2009 年 12 月 31 日になります)、以下のよう
に指定
します。

```
-output_month:-0y-1m -output_period_s:-0y-1m01 -output_period_e:-0y-1mee
```

3. 相対日指定による 20 日締め月次レポート

レポートの出力月を先月の 21 日から当月の 20 日までの期間で出力したい場合(レポート出力コマンドの実行日が 2010 年 1 月
21 日である場合、出力月が 2010 年 1 月、開始日が 2009 年 12 月 21 日、終了日が 2010 年 1 月 20 日になります)、以下の
よう
に指定
します。

```
-output_month:-0y-0m -output_period_s:-0y-1m21 -output_period_e:-0y-0m20
```

サーバー診断レポートオプション Ver.5.0
ユーザーズ マニュアル

2009年 8月 11日 初版
2010年 2月 19日 改訂
著者 セイ・テクノロジーズ株式会社
発行者 セイ・テクノロジーズ株式会社
発行 セイ・テクノロジーズ株式会社
バージョン Ver.5.0.3.0